

茨城女子短期大学紀要

第41集（2014年）

＜目 次＞

1. 清水橘村三題
..... 小野 孝尚 1
2. 三島由紀夫の官僚小説～短編「大臣」「訃音」について～
..... 小林 和子 23
3. 女子短大生の瘦身願望と身体イメージに関する意識調査(1)
..... 国府田はるか (1)
4. こども音楽療育ワークショップの取り組み
— 保護者アンケートから2年目を振り返る —
..... 廣部 朋美・神永 直美・馬立 明美 (23)
5. 日本における電子書籍の歴史と展望
..... 小松崎浩司 (33)
6. メディアを活用した表現力の育成
..... 塙 雅文 (45)

茨城女子短期大学

41	茨女短大紀	No.40 P1～90	茨 城 2014
----	-------	-------------	----------

【研究ノート】

清水橋村三題

小野 孝尚

一、「かぜにうたえば」清水橋村の物語」上演にあたって

詩人・清水橋村は、故郷の村の名をペンネームにして、明治時代に主として雑誌『文庫』誌上で活躍しました。清水橋村の幼年時代は、開拓者の子どもとして大変に貧しい生活でしたが、後年の望郷の心には、別離と悲しみと、故郷へのあこがれがあります。

この度、故郷の小美玉市の人々による「みのゝれ住民劇団演劇ファミリーMyu」のオリジナルミュージカルとして、その略生涯を「かぜにうたえば」清水橋村の物語」として上演されることになりましたことを大変嬉しく思います。

明治三十二年には、同郷の筑波根詩人・横瀬夜雨の処女詩集『夕月』の出版に関して、清水橋村は大変な誤解を受けてしまったことは周知の通りですが、幼い頃の貧困と詩壇での誤解と濡れ衣、その後二人の子息の夭折等辛苦の人生を力強く生きました。

高齢になってからの詩作の再開では、若者たちへエールを送る情熱の心を持っていました。上演を通して、清水橋村の独学多才の人物像と汚名返上、更には橋村詩の再評価につながることを強く望むものであり、

多くの人々に清水橋村の人物と作品にふれていただければ幸いです。

そして、いよいよ平成二十五年四月六日（土）の午前十時三十分から、小美玉市四季文化館（みのゝれ）に於いて、「みのゝれ住民劇団演劇ファミリーMyu」オリジナルミュージカルとして上演されました。

身近な郷土小美玉市ゆかりの詩人を掘り起し、地域の皆さんの力で、ミュージカルという芸術活動を通して、舞台上に於いて略生涯を紹介し、啓蒙されたことは、茨城県の文化史上に大きな足跡を残す大事業を成し遂げられました。

上演にあたっては、手に汗握り、不安と期待との気持ちが入りまじりドキドキ感いっぱい観劇させていただきました。先ず脚本並びに演出にあたっては、新しい空の玄関口としての地域性を考慮された構成力が素晴らしく、導入・展開・結末と三十分という極めて短い時間の中にメリハリをつけて物語性を凝縮させ、見る者の心の核心まで響き通るものがあったと思われる。かくいう私も幾度もこみ上げてくるものがあり、このような舞台芸術の作品制作の場に遭遇することが出来ましたことを大変に嬉しく思っております。

振り返ってみますと、この度の上演の生みの親である小美玉市の小埜

義輔氏から二年程前から郷土出身の詩人・清水橋村をミュージカル化したいといったまるで夢のようなお話を伺っていました。そして一昨年の平成二十三年も押し迫った十二月に、小美玉市小川文化センターアピオスの中本正樹氏、小美玉市四季文化館みのゝれの原田啓司氏を伴って小埜義輔氏が訪ねて来られ、平成二十五年の春に上演したいとのことでした。

その時の質問や、清水橋村の人物像等については、何よりも「風の詩人」がふさわしいことを申しあげました。

中本氏と原田氏は熱心に質問され細かくメモをとられていました。中本氏が「空間」という橋村晩年の詩に着目され、あえて「そら」と読まれ、この時中本氏の脳裏には茨城空港が重なったようでした。

その後、平成二十五年二月に入ってから中本正樹氏並びに新井良和氏そして音楽担当の畠井伸子先生の三人が訪ねて来られ、いよいよ本格的な活動に入ることになった。

その様子についてアピオスブログの平成二十五年二月三日の中で、中本氏は、次のように書かれている。

わがまちでもふるさとの誇りを創出する動きが始まりました。

小美玉さくらフェスティバルでみのゝれ住民劇団「演劇ファミリーM YU」が上演する題材が、清水橋村（きつそん）という小美玉市出身の詩人に決まったのです。

そのペンネームを小美玉市の地名（橋村…たちばなむら）からとったように、ふるさとを愛し、特に橋村は風を愛する詩人でした。



していくことにつながると考えています。

この作品づくりにあたり、県内の詩人を長年に渡り研究されている茨城女子短期大学 学長の小野孝尚先生に監修していただけることになりました。脚本を担当する新井良和さん、音楽を担当する畠井伸子さんと共に、小野先生に指導いただくため大学へ伺ってきました。

小野先生が清水橋村について書かれた著書を事前に熟読していた新井さんから、その時代や橋村が苦勞を強いられた背景、友人関係、橋村が残した詩の意味など次々に質問が挙がり、小野先生の丁寧で熱い解説をいただいていたというものの2時間。たつぷり勉強してきました。おかげで収穫大だったと新井さん&畠井さん。

橋村の人生がどんなファミリーミュージカルになるのか、楽しみです。

明治時代の詩人として全国区のネームバリューであった橋村は、かの島崎藤村から序文をいただく（お墨付きをもらうようなもの）などその実力を高く評価された若き天才詩人でした。こうした詩人が地元では知る人ぞ知る存在であり、ミュージカルという舞台芸術を通じて私たちがまず橋村という偉大な詩人を知り、理解し、そのことを多くの人々に発信していくことが、ふるさとへの誇りを創出

本番は四月六日（土）午前十時三十分から、四季文化館みのゝれ森のホールで上演の予定です。上演時間は三十分の短編ファミリーミュージカルで入場無料。

詳しくは今後発行されるチラシをご参照ください。

以上が、中本氏の手による初ブログ登場で、その内容と概要の紹介となった。その後の動向については、以下適宜Myuブログを転載させていただきます流れを追って行きたい。

2013年2月10日

新ミュージカルのタイトル決定！

新たなミュージカルのタイトルが正式に決定！

みのゝれ住民劇団「演劇ファミリーMyu」オリジナルミュージカル

「なぜにうたえば

」島崎藤村が認め 野口雨情が一目置いた

小美玉市出身の若き天才詩人 清水橘村（きつそん）の物語」

日時…四月六日（土）午前十時三十分開演

会場…小美玉市四季文化館（みのゝれ）森のホール

入場料…無料（要入場整理券）

整理券配布開始日時は三月十日を予定していますが、今後の予定で変更する可能性があります。

チラシが完成した時点で再度ご案内させていただきます。

2013年2月3日
新プロジェクト始動！

昨夜から始まった新プロジェクト。明治時代に頭角を現し、かの島崎藤村が認め、野口雨情が一目置く存在であった地元小美玉市の天才詩人、清水橘村（きつそん）の波乱に満ちた人生を描くミュージカルです。

清水橘村は、開拓使としてやってきた父と共に小美玉市（旧橘村）で少年時代を過ごします。その人生は苦勞の連続であったにもかかわらず、いつも希望の光を失わずに強く生き抜いた人でした。

茨城ゆかりの明治の詩人では野口雨情・横瀬夜雨・山村慕鳥・清水橘村が全国区と評されているそうですが、他の三人に比べて橘村だけが地元から忘れ去られそうな存在であり、ミュージカルづくりを通じて私たちが橘村を知り、多くの人々に橘村の存在を広めることで橘村の再評価につなげたい、というのが今回のプロジェクトの最大の使命です。地名をペンネームに使用したことに表れているとおり、ふるさとに想いを寄せ、その風景をよんだ詩が多く残っています。望郷の詩人・風の詩人と評される橘村。Myuがミュージカル



化して広く発信していきます。

昨夜は清水橋村について学びました。現在急ピッチで脚本とテーマソング制作が進んでいます。チラシも二月後半には刷り上がる予定を立て、急いでデザインが始まります。来週はキャストと脚本・テーマソング発表です。

2013年2月25日



2/24(日)

今日の稽古場所はアピオスの小ホール。

みのゝれ同様、お世話になる機会が多く職員の方々に良くして頂いています。

ありがとうございますm(_ _)m

今夜の稽古はストレッチ、発声から始まり、新規で入られた二組が親子で参加する姿が何とも微笑ましい姿でした(〇>>〇)

誰もが待ちに待っていた脚本配布。

脚本を手に取り、演出ジョンニーによる音源入りでの本読み開始。

二週に渡って覚えた歌は、みんなで唄いながら脚本から目を離さず、じっと目で追い気持ちを读み取って読み手と聞き手が心を通わす大事な時間でした。



続いて、畠井先生による歌唱指導。

M6『孤独』：新しい曲を練習しました。

横隔膜を使って力強くしつかりと!!

M1『いざ、橋村へ!』：先週のおさらい。

ワッセ!の掛け声がいい感じへと。

M3『橋村の決意』：お話しするようにいっぱいしゃべる!

ロングブレスの練習をして長くのばせるように!

口先だけで歌う唄でないように!との注意点。

楽しく勉強出来る歌唱指導をいただき、畠井先生ありがとうございました!!

今日の稽古もたくさんの方々に支えられています。



チラシも完成！みのゝれ原田さんが学校関係に配布の手配をしてくださいました。

入場整理券配布は三月十日(日)から！みなでどんどん広めましょう。

残り少ない稽古回数なので体調に気を付けて1回1回の時間を大事に使っていきましょうねっ。

2013年3月3日

小野孝尚先生を囲んで



三月二日(土) みのゝれ風のホール

ミュージカル「かぜにうたえば」の監修を務めていただいている、茨城女子短期大学学長の小野孝尚先生と奥様にお越しいただきました。

小野先生から清水橋村について解説をいただきました。

貴重な資料や文献にも触れさせていだききました。

小野先生を囲んで質問が次々と挙がります。資料に群がり、食い入るように見るMyuファミリー。子どもたちも小野先生に質問攻め。

「昔はどんなものを食べ、どんなものを着ていたのですか」

「東京で奴隷のような生活を送っているとき、周りの大人はどんな気

持ちでそれを見ていたのですか」「東京の親戚に橋村が預けられることになったとき、なぜ親は反対しなかったのですか」

大人たちも感心する質問内容ばかり。Myuの子どもたちは賢くたくましく育っています。物語や時代背景を自ら深く学び取ろうとする姿に、このようなMyuの取り組みの意義を感じました。



晩年の清水橋村を演じる彩子さんが「テーマソングの題材にもなっている『空間(そら)』という詩は、橋村はどんな気持ちで作ったのでしょうか」と質問すると、「橋村晩年の詩で、若い人へのエールなのです。橋村の優しい魂に逢える、代表作とも言えるこの詩を新井さんはよく(脚本の題材に)選びましたね」と小野先生からジョンニーへのお褒めの言葉も。

さらに小野先生から、「地元の皆さんがこうして清水橋村を取り上

げ、世に出してくれることがとても素晴らしいことだと思う。この取り組みを通じて清水橋村の再評価につながれば」ともお話しいただきました。彩子さんは、「私たちMYUは重要な役割を担っていると感じました。橋村がどんな想いで詩を生み出したのか、改めて考え直したい」と語ってくれました。

2013年3月7日

清水橋村の末裔の方にお話しを伺いました

今夜は、小美玉市の文化情報誌「おみたマガジン」の取材記者のお二人と一緒にミュージカル「かぜにうたえば」主人公の詩人、清水橋村



の末裔の方のお宅にお邪魔して、お話しを伺いました。ご対応いただいた清水洋治さんは清水橋村の姉の曾孫にあたる方で、洋治さんの亡きお父様が清水橋村に関する調査と資料保存を熱心にされ、橋村研究者の小野孝尚先生が取材して掘り起こしたのがこのミュージカル「かぜにうたえば」につながったというわけです。

洋治さんのお話しから、MYUの取り組みを非常に歓迎してくだ

さっているのがとても伝わってきました。

貴重な資料や写真も手に取って見せていただき、清水橋村の意外な一面を発見することができました。

当日はご一家で観に来ていただけるそうです！

ご期待に沿えるよう、ますます稽古頑張りましょう！

2013年3月24日

今日は小埜義輔さんが稽古にお越しくださいました。

小美玉市の小埜区にお住まいで、清水橋村をMYUのミュージカルの題材にと推してくれた方です。清水橋村研究者で茨城女子短期大学学長の小野孝尚先生に引き合わせてくださったのも小埜さん。言わば「かぜにうたえば」の生みの親とも言える方です。



「かぜにうたえば」の監修をしていただいている小野孝尚先生と奥様がドーナツの差し入れをしてくださいました。なっなんと百個

6日、小美玉 藤村、雨情も才能評価

島崎藤村や野口雨村に才蘊を認められながら、他人時勢を改ざんしてと建物を、生前、不遇の時過でしに詩人・清水樺村(1879-1966)。旧藤村(現・美玉市)で育った彼が、郷里の人々によつて再評価され、6日、その生誕地からミヅノカミで上覧される。

橋本(本名・幸次)は水産師。藤村などをして驚か

[illegible]

本番まで稽古はあと二回。みんな、緊張の色を隠しきれません。しかし、返ってその緊張が私たち役者・スタッフたちの闘志に火をつけます。

逆境こそがチャンス!!

どんどん磨きがかかります!!

残り少ない通し稽古……。

衣装、演技、ダンス、歌など細かいところを修正。

完成度は高くなっていますが、さらに上を目指して頑張つていきます。

お客様には絶対に後悔させません

読売新聞に掲載されました！

読売新聞 平成二十五年四月二日付に掲載されました！

取材いただきました原田記者さん、ありがとうございます！

2013年4月6日

さあ本番！

四月五日（金）
みのゝれ森のホール

音響・照明とキツカ合わせをして、二十時からゲネプロ。

大勢の関係者に見守られながら、無事に終わることができました。

終了後にたくさんのお褒めの言葉をかけていただきました。

ここまで短期間の中で仕上げる事ができたのも、

小野先生をはじめ、尽力いただいたみなさんのおかげです。

このプロジェクトが産声を挙げたのが1月末。

二ヶ月間で本番までよくぞたどり着いたと思います。

2013年4月6日

かぜにうたえば本番（その1）

四月六日（土）みのゝれ森のホール 十時三十分開演。

配布したパンフレットによる計算によると、五百名を超えるご来場

をいただきました！

おかげさまでほぼ満席！

無事公演を終りました！

入場整理券四百三十枚（五百四十五枚配布済中）＋十時十五分以降の整理券なし入場者というご来場内容でした。

まずは公演写真をUPします！

その2、その3と、ブログを続々更新しますね。

来場いただきありがとうございました！

2013年4月6日

かぜにうたえば 本番（その2）

この公演に、清水橋村のお孫さんにあたる小山稚子さんをはじめとする子孫の方々がお越しくださいました。

地元小美玉市からはもちろんのこと、東京や川崎からお越しいただいた方も大勢いらっしゃいました。

本当にありがとうございました。

公演終了後、皆さんと交流会をさせていただきました。

清水橋村のお孫さんの小山稚子さんミュージカルに創作していく過程で歴史の重みがじわじわと押し掛かり、稽古で役を突き詰めていくたびに橋村が味わった心情を描きされるか不安になり、新聞各紙で取り上げていただき橋村が広く認知されるにしたがつて周囲の期待が高まっていくことを肌で感じていました。それだけに、「祖父も喜んでいいます」という小山さんの言葉は、何よりMyuファミリー

を喜ばせました。



テーマソング「空間（そら）」を披露させていただきます。

多くのお客様から「みものれの劇団が地域の宝を発信して広く認知されたことは大変意義のあること」とお褒めの言葉を頂きました。

Myuの存在価値がどこにあるか、一人ひとりが考え実践し続けてきた甲斐があったと感じた瞬間でした。

茨城新聞・朝日新聞に掲載されました！

公演翌日、2紙に掲載いただきました！

茨城新聞 笹目さん、朝日新聞 津布楽さん、ありがとうございました！



お二人ともゲネプロ・本番両日にお越しいただき、熱心に取材いただきました。

本当に感謝です。

2013年6月3日

昨日はMYuメンバー大忙しの日。

◆夜



オリジナルミュージカル「かぜにうたえば」DVD完成上映会。

監修を務めてくださった茨城女子短期大学学長の小野先生、制作のきっかけを作ってくれた小堀さんも駆けつけてくださいました。

よみがえってきましたね、あの感動。

細谷パパの愛を感じる編集。

小池パパの凄い数の写真スライド

ショー。

MYu映像部、ブラボー！

上映終了後、小野先生は「茨城県の文化史上に残るプロジェクト。次の世代にも橘村のことをつないでほしい」

小堀さんは「涙をこらえるのが精一杯。嬉しくて仕方がない」とそれぞれご挨拶いただきました。

最後に作・演出のジョンニーから挨拶。



「キャストそれぞれが考え工夫して作品づくりに取り組めたプロジェクト。信じる心三部作が基盤となったからこそ短期決戦でできた。MYuの活動を通して、自分で判断し人生を切り拓いていける大人になるための勉強をしている。MYuは「作品作りを通して人生をつくっているんだよ」。

心に響いた言葉でした。

それぞれがいろんなフィールドで活動を広げ、磨かれ、MYuという港に帰る、力を結集して作品をつくってみたい。小美玉市の魅力として発信。さらにはその裾野を広げる活動を絶えず展開し、次世代へ受け継いでいく。そんな集合体であり続けたいですね。

みんなお疲れさまー！

『かぜにうたえば』、公演終了後数日経ちますが、いろんなところでいろんな方から「よかったよー」とお声を掛けていただきます。

ありがたいことです。

少し休んでまた歩き出しましょうね。

以上MYuブログからの長い転載となりましたが、出演者の皆さんの演技は、稽古中に何度か拝見させていただきましたが、伺

う度に、その演技と声量に力強さを増していることに驚きを感じました。改めて皆さんの努力と熱意に敬意を表します。そして又、出演者の皆さんからの質問攻めには、大汗をかいてしまい、上着を脱いで熱弁となりました。小学生のお友だちからの心のこもった質問が多くありました。皆さんがとても良い質問をして下さり、私自身も大変に良い勉強になりました。

そして何よりも本番に於ける皆さんの演技力には、圧倒されました。感動と元気をいただきました。出演者それぞれ皆さんは、見事にその役割を演じられました。そして更に音響と照明の効果も大きな成功の要因となつていると思いました。改めて舞台芸術の総合芸術性を皆さんの一挙一動に拝見させていただきました。

この上演の感動を演技者と観客とが共有し、人生の心の糧として生き生きと生き、地域造りや、地域の振興に心がけ、地域文化の担い手となつていただければ幸いです。

上演にあたっては、三月五日の茨城新聞、三月二十日の常陽新聞、四月二日の読売新聞、四月六日の毎日新聞、四月七日の朝日新聞、同じく茨城新聞紙上に記事として掲載されました。そして地元おみたマガジン第五十六号にも掲載されました。各紙に厚く御礼を申しあげます。

末筆ですが、清水家ゆかりの小山稚子様始め皆様方からの観劇の感想も「大変に素晴らしかった」とお慶びで、誠に同慶の至りです。

当日お出でいただきました、東京方面の親族の方には、小山稚子、沼野美咲、小林奎一郎、小林淑子、小林悦二郎、小林邦子、吉崎教子、鈴木瑋子、野村博一、野村莞子、小山正雄、小山春帆の皆様でした。遠路

遙々とお越しいただきましてありがとうございます。当日の朝になりました、当初から観劇を楽しみにしておられました小山城雄氏に於かれましては、朝方、急に具合が悪くなり、救急車にて病院に搬送されたとのことでしたが、その後無事に回復されましたことで一安心しました。ご主人のそのような大変な状況の中を特別にお出でいただきました小山稚子さんには厚く御礼を申しあげます。ご主人にも深くお礼を申しあげます。

最後に「人が輝く水と緑の交流都市」の実現に向けた街造りに励んでおられます島田譲一市長を始め、今回の生みの親であられる小嶋義輔氏、そして館長の山口茂徳氏、脚本と演出の新井良知氏、音楽担当の畠井伸子先生、代表の柴山真理子さん、制作部の中本正樹氏・原田啓司氏の皆様に厚く御礼を申しあげます。

追記として、その後小美玉市の橘小学校に於いて、「平成25年度橘まつり―笑顔とさえずりで友情のハーモニー―」が11月2日(土)の10時から15時まで開催されました。全体プログラムの中から午前中は、「橘コンサート第一部」と題して、各学年や職員の発表があり、橘コンサート第2部前半として、「楽団ジョリーフォレストジャズオーケストラ」の演奏が行われました。

午後からは、橘コンサート第2部後半として「演劇ファミリーMyu」によるミュージカル「かぜにうたえば―清水橘村の物語」が上演されました。「かぜにうたえば―清水橘村の物語」は、「みのゝれ住民劇団演劇ファミリーMyu」のオリジナル作品で脚本と演出の新井良知氏と代表の柴山真理子さんのリードにより熱心に取り組まれ、明治時代の詩壇で活

躍した詩人、清水橋村の再評価と啓蒙運動としての活動にもつながるもので、今年の4月に小美玉市四季文化館みのゝれにて上演され、大変好評を博した作品となっています。

今回は、この作品を学校公演用にリニューアルしたもので、清水橋村の母校である橘小学校に於いて、学校行事の中での「橘まつり」の一環として、橘学区の皆様も参加されておられる中で上演されました。橘小学校は歴史が古く伝統のある小学校で、清水橋村は、今から125年前の明治21（1888）年に橘（旧与沢）小学校で学びました。清水橋村という詩人の出発点は、この橘小学校にありました。貧しいことや辛いこと、苦しいことや悲しいことがあっても、いつも故郷の温かい土と優しい風を心に感じ、前向きに生きようと思いました。

上演に当りましては、体育館のステージ上に於いてだけでなく、限られたステージを広く、大きく活用され、施設や設備を超越した大熱演となりました。

さすが「演劇ファミリーMyu」劇団の演出力によるフロアーの活用は、より一層観客との一体感を増すものであって感服しました。橘小学校の生徒の皆さんや保護者の方々、そして地域の人々の心に詩人・清水橋村の故郷への熱い思いが伝わったものと思われれます。清水橋村の魂を故郷に呼び戻し、地域の皆さんの心に留め、これからも語り継いでいって欲しいと思います。

そして又、今年で四回目となる0歳児から保護者を対象とした「おやこDEジャズ」が平成二十五年十二月二十一日と二十二日の二日間に亘って六回の公演が小川文化センター（アピオス）で行われ、今回は、「か

ぜにうたえば」が絵本仕立ての読み聞かせとなり、観客を虫の世界に誘い、キリギリスのギッチョン先生（ジョン中山）のピアノの生演奏に、大型のスクリーンに映し出された絵本の読み聞かせをする妖精のバック（畠井伸子）による朗読があり、ステージ上で元気に飛び回っているみづばちのブン（橋本幸治）とてんとうむしのてん（武石千絵子）も読み手に加わり、舞台は活動的で、お芝居の要素も十二分に味わい楽しめるものとして上演され、世代を超えた顕彰運動となって輪が広がりました。

二、河井醉茗宛て横瀬夜雨書簡に見る清水橋村像並びに『夕月』関係について

横瀬隆雄編『河井醉茗宛て横瀬夜雨書簡』（平成二十一年八月三十日横瀬夜雨記念会）に表れた清水橋村像並びに横瀬夜雨の処女詩集『夕月』関係について見ていきたい。

明治三十二年七月後半（推定）

橋村清水君うすゐの紹介によりて夜雨詩集を出版する意あるを告ぐ。小生ハ君と一しよに出たいとおもひ居れり。あハれ醉茗君君ハ出し玉はずや。御返事の模様によりていづれとも可致。

横瀬夜雨の書簡の中で、初めて清水橋村の名前が出てくる。小島烏水の紹介よつての詩集出版の話があつたことが分かる。夜雨は、醉茗の意向を気にしながら、醉茗に判断を預けた形になっている。

明治三十二年八月三日（推定）

昨日橋村より詩集催促さる、君の御返事見てからキメル心算故、どうかお忙しくても一寸とお願ひ申し上ぐ。

前便の夜雨の醉茗宛て書簡の返事が無く、橋村からは催促され夜雨としては、返答に困っている様子が伺える。

明治三十二年八月二十一日（推定）

詩集、君すら出し玉ハぬ二、小生まづ出すのハちとなまいきなり、お志をうけたまはりてますく、いやになり、烏水さんに断りの手紙出したり。発行所ハ天□社との定めなりき。薄志弱行、あまりよきこととも

覚えねど、全く君のおはがきにてシヨゲかへりしなり。烏水サンハ笑うておはすなるべし。（中略）われ関西に遊ぶこと実ハ詩集うり出してもつかつたらバの話なり、

醉茗からの葉書の返事により詩集出版について気を落とし、催促されている橋村には無く、小島烏水に断わりの手紙を書いていることに注目したい。しかし夜雨は、詩集が売れたら関西旅行をしたいとの夢も語っている。

明治三十二年九月十八日（推定）

橋村が「桜州の青年」おくられて見たり、六によみもせずに野水にくれたり、江東も橋村もちと気どりすぎて居るとのみ思ひき。

雑誌『桜州の青年』は、明治三十二年一月に岩谷小波を会頭に文芸誌として発刊された。十一月に橋村は、千葉江東と共に桜州青年同志会の名誉会員になっている。

明治三十二年十一月十一日（推定）

それよりハ座ますく、にぎあひて、橋村に画を求め、白蓮に書を乞ふハまだしも、夜雨なども、多く書かせたれど、たれとたれに与ひしかさつぱり知らず、元氣よきこと申すべし。

十一月三日の松風会の様子を書いたもので、和やかな様子であり、橋村の絵と白蓮の書は既に定評があつたものと思われる。

明治三十二年十二月二十八日消印

夕月、すべてのお友達にハやり候、秋暁露子の両君へも。和郷君にハおくらざりき、君のところに入らないやつあらバ御おくり下され度候。大阪毎日朝日の両新聞へ小生よりハやらす、きつそんならもどうか、

小生ハみなやりつくして自分でよむのも無きに候。一月に再版の筈。景気よきよし、水彩など申居候。

夜雨の『夕月』出版の喜びが感じ取れ、此処には少なくとも絶版を期す様な文言は伺えない。それにしても次の夜雨からの醉茗宛て書簡の中で、約五ヶ月間、詩集『夕月』についてや、清水橋村についての記述が全く無いという言わば空白を、どのように捉えたら良いのであろうか。

明治三十三年五月十六日（推定）

本当のところを申せば、夕月の失敗以来、散々伊良子兄にも笑はれたし、恥かしくて作れなくなりしに候、新声社からも人を介して依頼され候へど、これも伊良子兄にやらない方がいゝと申され、旁々益いやになりて、作詩をまるくやめ様とハ思ハねど、もう夜雨の名ハすつる積りに候、されば詩集へも差上べき近作無之、不悪思召可ヒ下候。

約五ヶ月後に喜びの心境から転じた夜雨は、その悲しみを醉茗宛て書簡の中で初めて「失敗」を口に出している。そして、総てを自己責任としながら、「笑はれ」る「恥ずかしい」、「夜雨の名ハすつる積り」として、非常に気落ちしている様子が伺え、「近作」も無いとまで書いている。ここにも清水橋村についての記述は無い。伊良子清白は、四月一日発行の『文庫』に「夕月雑感」を掲載し、語句の使用法までに及んだ細かい批評を書いており、夜雨への影響はかなり大きかったものと推測される。

明治三十三年六月頃（推定）

昨日橋村君より来状 詩集出版の事君にお頼みせし由 君ハ如何お計らひなさるか知らねど君ハまさに橋村に売られんとするに候、御用心あるべく候。御承知の如く 夕月に就いてハあんな眼に小生を逢ハせ 幾

何程のこりしか 損せりとも利せりとも小生にハ一切サタ無しに候 勿論小生ハ報酬の約束ハ一向致さず たゞ先方にて小生が本を買う足し位ハ差上るからと申せしことは有り之候 小生ハ鳥水兄に対する義理で承知したることに候へバ はしめより原稿を呉れてやりし積りに候ひきされどさすがに売れ高ぐらゐハ聞き度候ひしに候 それで二三度照会したれど 橋村よりの返事ハ無かりき 正直の処斯様な男に候へバ 君もとんだ眼二あハさるべく候 御注意までに申上候 橋村ハ君の盛名を借りて詩集を売らんとするに候

本書簡にて初めて清水橋村に対しての思いを述べている。第一番に「あんな眼」とし次に長々と「報酬」についての不満を述べ、醉茗に対しては詩集を売ろうとするものであると忠告している。夜雨としては、ここでは詩集の売れ高が特に気になっているようである。

明治三十三年七月四日（推定）

橋村君昨日不意に来り候へど、来早々小麦打にてお互いに閑居の体、笑止に候。（中略）与謝野君のことハ、昨夜も清水君と話したことに候、清水橋村が横根の横瀬家を訪ねたことを述べているが、昨夜もとあるので橋村は、この時夜雨宅に宿泊し、夜を徹して語らい親睦を深めたものと思われる。

明治三十三年十一月九日（推定）

すめい君 君はあんまりだ あんまりだと書くとなにやらめけれど 実際君ハひどい男だと思ふ そもく僕が三日の日からどれほど松風会の様子をきゝ度がツたかつもりにも知れさうなものと大きに不足なり かし十五日の文コに書くのハ大方大將なれバまづく鉄砲も向けぬこ

と（中略）其のち橘村にあひ玉ひしや 金羽使の話き、しならん

「金羽使」は橘村の作品でこの年八月の『新声』に発表したものである。

明治三十四年七月六日（推定）

君にお差支無くバ左の一文三寸舌へ願はしく候

●橘村の『太陽の詩』について ●橘村と僕とハ萬更知らぬ中の他人でも無く 同じ蚊帳に寝たこともある はしめ太陽の詩を作りかける時どんな風にしたら可からうときくから 吾人の住んで居る地球だけを舞台にして あらゆる「光」を歌うた方が面白からうとすゝめたことがあった。然るに孺子共に語るに足らずとも思つてか アラビアンナイト其処退け西遊記クソでも喰へと言つた調子に油が乗つて来て、金星やら土星やら木星やら水星やら 読んだ人ハ多分どなたにも烟にまかれて仕舞つたことと存じる

橘村の才や又及びやすからずである 然しあの男の詩ハムツカシイやり方ハ相違ないので 白浪君も露子君もてんで読んで見ないと言ふし

○君は橘村が太陽は台処たきおとし程の光りも無いと言つて居る 読まないのハ無学のせいであらう 大詩人の胸にゑがいた太陽を 消霊の火のそれに劣るなどハ無礼の甚しいもの イリアッドを作りしホーマーが盾を形容せし一条の文字ハ何物も訳することが出来ないとか 其盾よりも被太陽の光を最もあきらかに言ひあらはすことハ恐らくなしがたからうと思ふが どうであらう

僕などハもとから詩人でも何でも無い されバと申してある野心を抱いてつまらなく詩に耽ける程の男でも無い。橘村ハ迷つて居るのだ よいかげんに悟らしたいものだが（夜雨）

ちとひどいか知らん 御一笑

橘村の「太陽の詩」は、明治三十三年十二月の『文庫』に序編として発表したことから始まり、明治三十四年一月の『文庫』誌上に掲載され、続いて二月、三月、七月まで続いた。『文庫』では、明治三十四年一月から総て記者の批評を入れなくなり、文庫記者を含めて、ペンネームによる投書形式の批評が出た。

本文は次便にあるように、『文庫』には掲載されなかった。

明治三十四年七月十七日（推定）

三寸舌のけんけわ うるさくていやになり候ま、 僕ハ一切無言ときめ候 前便太陽の詩に就ての一文もとりけし候 あしからず

「三寸舌」は『文庫』の「三寸舌」の欄。

明治三十八年三月六日

きつ村の国詩見た、当今の詩人の中で、藤村と精白をならべたのハうれしいが、詩人をあげた中に君の名と僕の名とが見えぬ、して見ればわれ／＼ハ「大家」か「コンマ以下」であらう、あの雑誌には吃嘆した、売れればよいが、きつ村ハあまりゑらいから駄めだ、ゑらいといへば、君が文庫で僕の詩に点をつけぬのも怪しからぬことだ、一鉢どういうわけか今度ハぜびきかしてくれ玉へ、

橘村は、明治三十八年三月に国詩社を起こし、雑誌『國詩』を独力で刊行した。橘村を「あまりゑらい」と言い、又「君が文庫で僕の詩に点をつけぬのも怪しからぬことだ」とも書いている。

明治三十八年六月五日（推定）

詩集は小牧からもすすめられた 亡くなつた夕月の光りを君によりて

ふた、びよみがへらしむ事が出来たら僕ハ満足するのだけれど さてむつかしいでせう（中略）国詩ハまだ僕も見ぬけれど僕ハ橘村の或弱点を握つてゐるからあまりひどい飛沫ハ来まいと信じてゐる 来たら最後僕にも覚悟ハある

『國詩』での橘村の『文庫』批評に対する夜雨の思いを述べたものであるが、「橘村の或弱点」は、詩集『夕月』出版事情のことであろうと思われるが、酔茗宛ての橘村に関わる本書簡文上からは、どうも収支決算上に重きを置いているように思われるがどうであらう。

明治三十八年六月十日（推定）

橘村のナマイキ小生も尠からずいや気をさし候 主として君をめとにとつたやうに候へど 暗に僕に対する誹議も多きに候 白蓮白秋を嘲けりたる詩も たしかに橘村の作に候 鼻穴などいへる語ハ常陸特有に候 断々乎として其罪を鳴らすべしに候 僕よりハ詰問状をおくりて其責任を問ひ候へど まだ返事無しに候 橘村も案外おろかしき男に候 君が絶縁して文庫に解嘲の辞をするハ大いにさん成に候 僕ハ一号の誌上に君を茶茨のくわん木に比したる文を見し時 早く其不遜なるを見しに候へど 君がだまつてゐるから黙止せし候 松原至文子よりハ僕にも国詩に関係なき旨申越候 さるにても清水といふ人ハいかなる場所においても まことの友を有たざる男なるべしと思ふよしあり 至文子と一身同躰ならバ頑然自説を主張して むりにも文庫派と戦ふべきに候 われ等もとより 相手にする気ハなけれど それが肝胆相照らす男の義に候 ハずや 君の助力を失ひ至文子に逃げられたる もうかれが運も知れたものに候 詩界の混沌たる事仰せの如し されど文庫意外の雑誌を見も

せぬ井戸の蛙 大胆に評も出来ず候 きつそのの所謂古物の拙者なればたゞ遠居すべきのみに候 これよりやはりやるハやれど もう白秋や白羊やと席を争不念ハ無之候 抑わが詩幾たりの人によりてかよまるべきと思へバイやになる

明治三十八年六月一日発行の『國詩』四号に掲載された『文庫』一記者に与ふ 同人」とあることへの心情であらう。

明治三十八年七月二十七日（推定）

対橘村の弁妄別紙おめにかけて候 来月の間に合わ下され度し もつと言ひたかつたが犬の糞の仇討ちでもやられてハつまらぬのでよし候

（別紙）

橘村兄、先達てはお手紙ありがたう、君が不倶戴天の敵と信じてるらしい『文庫』同人中、僕ばかりを知己と頼むとのこと言葉は僕にとつて大きな名誉です。君とは同郷の契りもあり、いろ／＼世話にもなつてゐるから、大概の事ハ不承して今まで黙つて居たが、此間の『塔影』の評ハあれは何といふことだらう。

君は『文庫』が早稲田派と一しよになつて、君を黙殺すると言つてゐるが、それは間違ひだ、早稲田派の機関雑誌は名さへ僕ハ知らぬけれど、『文庫』は決して君の思ふように卑怯な手段はとらない。余震だ一二の人が右しやうとしても『文庫』全躰の人は必しも右へは行かない。行かぬばかりか、そんな内談があると、僕のやうなへそ曲りはわざわざ、左へはいりこむのだ。『塔影』をほめちぎる為に『劔影』を小ひどくけなしたつたのだとはわれ等を侮辱するにも程がある。まして君ハ其公言したという『文庫』記者の名を〇〇で埋めたではないか、あれだけ言うなら、なぜ一歩

をすすめて記者の名を公表しなかつたのだ。一意『文庫』は傷けんがために闇討ちをしたと言われても、君には弁解出来まい。

よくもわるくも僕らは誰かゞ正しく評したとみれば満足するので、同人の著だからと言って必評すべき義務は負はない。僕及び秋暁が七月の『文庫』に於ける『塔陰』の評を何とか読みたる、そこに君が期待したる讃嘆の声と党同の陋とを認めたりや。

醉茗は温厚の君子、其人と為りに至つては玲瓏玉の如きこと、天下一人として否定する者は無い。思ひきや今になりて僕等と出身を同うして『文庫』派の一人として『青海波』に列したる君により、文壇の神聖を汚す賊なりと宣告された。ああ君何のうらみありて醉茗を九地の下にとさうとする。

おもふに君は『国詩』を起こして心ひそかに『文庫』の助勢をたのみ、月を越えて無言なるに憤り、忽ち鋒を逆にして『文庫』に加はれる者は禍なるかなとのろふに至つたのでは無いか。醉茗の詩は半文のねうちも無く醉茗は文壇に生くべき人で無いなら、なぜまた『国詩』を越す際に賛助大家として崇め奉つたのだらう。君に賛助する間は大家で、君と別るれば小人となるとは恐ろしいと申さねばならぬ。

文庫が何故に国詩を讃嘆しなかつたのか、それは知らぬ、たゞ僕は『国詩』の意外にうすッぺらな意外に無茶なのに驚いて、他日の大成を期して無言においたのである。正直に言う、『国詩』の如き小冊に拠つて国詩呼はりをする君の大胆に吃驚したのだ。表紙の馬だつて右の後足が左のよりは一尺も長いぢやないか、天馬？はあう片輪なのだらうか、ききたい。

免倒臭くなつた、『塔影』を弁護して君と争うては百年たつても論がない。君は曾て白蓮が散文番外の「膝に抱きし妹の、頭は重き島田鬢」を風俗壊乱だと言つたね、曲解もかうくれば情ない。あれは多くの妹とまどゐして、膝に抱いたのは一番小さい子、島田鬢はその長なのだ、君苟くも詩人と称す、人の詩を正しく解する力も無いとすれば、少し考えたらどうか。それから一つ君に忠告する、人が沈黙すると言うならさせるさ。それを根に有つようでは君の前途は駄目だよ。

七月『國詩』に同人による「『塔影』の詩的価値」等を掲載して『文庫』を批判していることに対する夜雨の心情と別紙寄稿文であるが、「別紙」は『文庫』には掲載されなかつたようである。以下醉茗宛て夜雨書簡には、清水橋村の名前は、この後は出てこない。橋村も又、明治三十八年九月一日 発行の『國詩』が最終号となり、三十歳での明治四十一年八月発行の詩集『筑波紫』発行後は、詩作はほとんど無く、その後の昭和二十五年の七十二歳から再び作詩活動を始めることになる。

昭和二年六月十日消印

夕月、貴兄のお手元にあつた筈が、だれか持つてゐないかな、残念なものだ、

昭和四年十一月十九日消印 (葉書)

夕月の出版ハ明治三十二年十二月です、日夏氏ハ三十五年に挙げてある、無弦弓にすら先き立つてゐるのだから、考えへて見るとおどろく、しかし、あの完全な原本ハ持つてゐる者があるまい、貴兄のハ奥付が無かつたし、内田本は落丁が半分ある、孔雀船以上の珍本として伝えて下さい、

昭和八年六月四日消印

それから忘れぬうちに申上げるが 新潮社の文芸大辞典に私の事をお書きになったそうだが 夕月の発行ハ明治三十二年ですから三十五年を三十二と訂正しておいて下さい 奥付のある物発見それによる

昭和に入ってから書簡に見る夜雨自身の詩集『夕月』についての思いは、「だれか持つてはいないか」「珍本」「三十二年と訂正しておいて下さい」と、総て肯定的であり、むしろ詩集『夕月』を誇りにさえ思っているようにしか思えてならない。

少なくとも『現代詩人全集』（昭和四年十一月十五日 新潮社発行）の横瀬夜雨「自伝」にある「三十二年二月「夕月」を公にせしが、故ありて発售の日より絶版を期し、詩集の中に数ふるを欲せず、」とあることは、裏腹のようであり、又夜雨自身による自伝であろうと思われるものが何故詩集の発行月に誤りが生じているのかも疑問が残る所である。

三、詩誌『國詩』細目

はじめに

清水橋村が主宰した詩誌『國詩』については、従来から着目はしていたが、その所在の確認が取れずに今日までできてしまったのが実情である。平成十三年年度の財団法人いばらき文化振興財団の助成により少数の発刊であった『詩人清水橋村』の時点に於いては確認することが出来なかった。

この度、『國詩』全巻を確認することが出来たので、先ずはここに総目次を掲載したい。

今後の詩人清水橋村研究に大きく供するものがあるう。

凡例

一、作品の標題、著者名、掲載ページの順に掲載している。
一、明らかな誤字や誤植は訂正している。

明治三十八年三月一日 國詩第一

主 張		
國詩に題して	清水橋村	一
朽ちせぬ琴	同 人	一
雲の攻衛	清水谷鴨川	四〇五
蝶は彼方に	佐藤紫濤	五
太子河―陣中にて―	小澤横泉	五
碎けし壺	正木房枝	六

常世の巖	齊藤澄月	六	謹告	松原至文	三十〓三十一
牧笛	高橋つる子	六	謹言	清水橘村	三十一〓三十二
水の聲	かはる子	七	追白	同人	三十二
夜の闇	大野思松	七	明治三十八年四月二日 國詩第二		
靈鹿	筒井重坡	八	八重櫻（長詩）	横瀬夜雨	一
	大野思松	九	始めて佐島を望みて（長詩）	山崎紫紅	一〓三
	島村てつ子	九	石衣の少女（長詩）	筒井重坡	三〓四
紅梅月夜（短詩）	香村まゆみ	九	心ねたみ	春宮若葉	四
	山元よし子	九	微妙（長詩）	飛火の野守	四〓七
	古川金城	九	夢の花ぐさ（長詩）	清水橘村	七〓八
春の句	夕月夜	九	二つの極		九〓十
後れ霜	可 咲	十	獨木舟		十〓十一
彈初	早稻田吟社詠草	十	さゞめごと		十一
夕づゝ	寒 葉	十	勢至菩薩		十二
文學士	中村春二	十一	髮		十二
微響	松原至文	十一〓十三	栢木（長詩）	天野小琴	十三
柳の芽	その一人	十四〓十五	木靈（長詩）	作山紫山	十三〓十四
河東節『松の内』に就て	中井浩水	十六〓十九	夜の愁（長詩）	榎原竺風	十五
森林と詩	小島鳥水	十九〓二十一	花かつら（長詩）	永井萍花	十五
『銀鈴』小評	橋村生	二十一〓二十五	春興（長詩）	齊藤澄月	十五
『夕潮』を読む	丸橋光郎	二十五〓二十八	夜座（長詩）	永代蘇溪	十五〓十六
詩界小言	華 兜 等	二十八〓二十九	夢くゆる（短詩）	柳暗、櫻子等	十六〓十七
青年詩人及び其詩	國詩社同人	二十九〓三十			

たんだら染（短詩）	白葉、寒葉	十八	季花（俳句）	可咲、松風等	十七
春季雜吟（俳句）	清、可咲、等	十八	木蓮（俳句）	滴泉、蝶衣等	十八
詩界雜誌	田山花袋	十九	紅夢（長詩）	永井萍花	十九
女子最近歌壇の趨勢	尾上紫舟	二十	花瑤落（長詩）	齊藤春村	十九
文學士	國詩社、同人	二十二	夏近く（長詩）	戸澤澤菊韻	二十
詩人月旦	松原至文	二十六	双蝶（長詩）	榎原竺風	二十
『銀鈴』小評	紫粉、華兜等	二十八	すみれ（長詩）	長谷川春草	二十
詩海響鳴		三十三	夕榮（長詩）	鈴木耕園	二十一
謹告		三十四	朝露（長詩）	丸茂天靈	二十一
明治三十八年五月一日 國詩第三					
五月靄（長詩）	蒲原有明	二	國詩社詠草	旺洋、白梅等	二十一
神馬藻（長詩）	小林花眠	四	詩海響鳴（評論）	殿村、蚊柱等	二十二
暗礁（長詩）	筒井堇坡	五	新刊詩集概評	橘 生	二十六
初雷（長詩）		五	詩人月旦予告		二十七
魂の惑ひ（長詩）	作山紫山	六	英詩人野口米次郎君（世評）		二十八
恨みの帯（長詩）		七	『恋衣』を評す	松原至文	二十九
彩靈（長詩）	釜石雪雄	八	『海賤』を読む	同 人	二十四
教父ガボン（長詩）	内海泡沫	九	詩人月旦（三）	國詩社同人	三十六
靈光（長詩）	清水橘村	十一	呈入澤昕江先生書	石橋居村	三十九
愛の華（長詩）		十三	寸評	社 末 生	四十二
ひをむし（長詩）		十三	明治三十八年六月一日 國詩第四		
皇子ひばり（長詩）		十四	『今宵のあるじ』（長詩）	蒲原有明	一
かげろふ（短詩）	堇坡、芳水等	十五	かぐる路	小林花眠	四

岡象女	永代蘇溪	四
春の夢	釜石雪雄	五〇六
榮魂	内海泡沫	六〇七
梨花	山上、泉	七〇八
白毫相	作山紫山	八〇十
呪歌	中里殘聲	十
闇の町		十〇十一
神鈴	神尾江村	十一
百合姫	栗田村雨	十二
華はちす	清水橘村	十二
罪の生火		十三〇十五
ほどろ火		十五〇十六
夏廂（短歌）	正富旺洋	十六
青葉夕月	前田夕暮	十七
春三十日	露風、寒月等	十七〇十八
木蓮花（俳句）	鬼棲、四六等	十八
變り花	鹿鳥櫻巷	十九
青梅	菅野如雨露	十九
金鼓	しら梅女	二十
夕の思	柴崎みどり	二十
眠らぬ魂	中里殘聲	二十
茶摘歌	筒井董坡	二十一
平和	正富旺洋	二十一

あやめ草	伏峰、道一等	二十一
春光	岡 笛 村	二十三
続『小詩國』（批評）	後 凋 生	二十四〇二十七
詩人月旦（其四）	國詩社同人	二十七
其三 澤村胡夷君		二十七〇二十九
其四 董月一露君		二十九〇三十一
短絃	露 風 生	三十二〇三十三
一詩人に答ふ	橘 村 生	三十四〇三十八
『文庫』の一記者に与ふ	同 人	三十八
詩海響鳴	野隠れ人等	三十八
社告		

台本につき契約なし

朝の光に潤がしら
巖の海をはしりきて
若き力の稚子を見よ
黄金の波のさけ合ふて
藍にかへれる海のため
玉藻の髪の流れたる
母の姿は底に消えて
乳を離れて梓弓
稚子ははるかに御宮士なる
雲を仰ぎて火焰なす
眼を天に放ちたり

同	清	松	國	華	橘	中	そ	翠	松	中	寒	早	可	夕
水	水	原	詩	兜	村	井	の		原	村	田	稻	月	
橘	橘	至	社	等	生	浩	一	葵	至	春	詠	吟	夜	
人	村	文	同	人	水	水	人		文	葉	草	吟		

【研究ノート】

三島由紀夫の官僚小説（短編「大臣」「訃音」について）

小林 和子

一、

三島由紀夫（本名・平岡公威）が大蔵官僚出身であることは有名である。昨今都知事辞任で世間を騒がした猪瀬直樹氏が、政治家に転身するきっかけともなった、三島由紀夫を扱った評伝小説「ペルソナ」（週刊ポスト）1995・11・11～10・13）も、三島の祖父・平岡定太郎、父・梓という三代にわたる東大法学部から官僚という側面に注目したものであった。

三島は学習院時代から文芸部に所属し、一六歳の時に書いた処女作ともいべき「花ざかりの森」を戦争中の昭和十九年十月に処女小説集『花ざかりの森』（七文書院）として出版している。文学青年ではあったが父・梓の希望を入れる形で法学部に進学し、戦後の昭和二十二年十一月に東大法学部法律学科を卒業後、高等文官試験を受験し合格、十二月二十四日、大蔵省銀行局国民貯蓄課に入省した。一方、文学への夢が捨てきれず、昭和二十一年一月に短編「煙草」などの原稿を持って川端康成の鎌倉の自宅を学生服姿で訪問し、川端の推薦で雑誌「人間」に「煙草」（昭和21・6）が掲載され、作家としての第一歩を踏み出し、「岬にての物語」（昭和21・11）や「軽王子と衣通姫」（昭和22・4）などの短編を「群

像」などに発表し、大蔵省勤務の忙しいサラリーマン生活の中、初めての長編小説「盗賊」（「文学会議」「午前」「思潮」「新文学」昭和22・11～23・10）の連載を開始した。

このような睡眠時間を削る生活でホームから落ちるということまで起こり、父・梓も了解し、大蔵省を二十三年九月二十二日に依願退職した。これには、河出書房の坂本一亀氏の書き下ろし小説の依頼ということも関係していた。この書き下ろし小説こそが三島由紀夫の決定的な出世作となる「仮面の告白」（昭和24・7）であった。

坂本一亀氏に宛てた書簡によれば「仮面の告白」は、十一月二十五日（注1）を起筆として、原稿の最後にあるように二十四年四月二十七日に脱稿している。

三島の大蔵省生活はたった九カ月間であったが、戦後の混乱した社会背景の中で、その戦後復興の中核である大蔵省に新米役人とはいえ三島がいたということ、また三島という作家にとっても非常に重要な時期でもあり、このころに書かれた短編小説をもう一度検証する必要性を感じるのである。

二、

短編「大臣」は、雑誌「新潮」の昭和二十四年一月号に発表された、全集で十六頁足らずの小品で、脱稿は「一九四八、一一、三〇」とある。内容は次のようなものである。

「左翼政党の内閣が瓦解した」あと、「引き受け手がなかった財務大臣」に口説き落とされ就任が決まった大友銀行出身の国木田兵衛は、大森の自宅に戻って夜、就任演説の原稿を自ら書くことにした。彼は「世界で一番嫌いな官僚」へのあてつけに、自分がこれまで関係した女たちの名前を就任演説に入れたのであった。甥で秘書官の松方から清書のため局長たちの手に渡った悪文の原稿は局長たちの合意の上、予算局長の手によって事前にきれいに書き直された。それに気づいた新大臣は、演説の最後に省内の聴衆を前に、局長たちが最も憎む職員組合を持ち上げはじめ、「私は組合諸君を愛しています」と述べ、「共産党員の若い組合員は顔を見合わせてせせら笑った」が、この騒ぎをよそに三階の事務室では、新大臣就任を報じる新聞に目もくれず、何事もなかったようにいつも通り、タイプストたちや老事務官によって「〇〇一二六八あり」と黙々と数字が読み上げられていくのであった。

三島は「蔵相就任の想い出」ボクは大蔵大臣「（明窓）昭和28・4・5」の中で、「大蔵大臣の講演原稿を書いていた経験がある」と述べ、その「講演原稿の処女作」は「えー、本日は皆さん、多数お集まりをいただいて、関係者一同大喜びをいたしてをります。淡谷のり子さんや笠置シズ子さんのたのしいアトラクションの前に、私の如きハゲ頭のオヤジまかり出まして、御挨拶を申し上げるのは野暮の骨頂ではあ

りますが…」と書いたが、課長に持って行ったら、「完膚なきまでに添削が施され」たエピソードを書いている。この原稿が実際のものであったかどうかは定かではない（注2）が、文才を買われて頼まれた大臣の演説の下書き原稿を上司の官僚によってきれいに直されてしまったという経験は、この小説のモチーフにつながったのであろう。ちなみにこの「明窓」という雑誌は、「よさんとかいけい」という副題のついた昭和二十四年から財団法人大蔵財務協会から発刊された雑誌である。このエピソードの後三島は、自分が大蔵大臣になったら文士税というものを創設したい、という笑話で結んでいる。作家として成功した二十代後半の三島の、かつてのエリート仲間や上司への余裕が伺えるエッセイである。

三島が大蔵省にちょうど在籍していた昭和二十三年三月十日に社会党委員長だった片山哲が首相を務めた第三次片山内閣の総辞職を受けて、芦田均内閣が成立し、三島はこの内閣が十月十五日に崩壊する前に大蔵省を退職している。その芦田内閣で大蔵大臣を務めたのは北村徳太郎である。三島は国木田大臣を大友銀行出身で田男爵の庇護のもと金融事情研究のためロンドンに赴き欧州大戦を経験して「ヘンリー・プール訛への流行の服を身につけて、戦争景気に湧き立つた東京へかへつた」財界人として描いている。一方、北村も親和銀行頭取を経て大蔵大臣に抜擢された人物であるが、敬虔なクリスチャンとして知られ、三島の描く艶福家の国木田大臣のモデルとして当時すぐに思い浮かべられるような人物ではない。のちに三島は『三島由紀夫短編集2』の「あとがき」（昭和40・4）の中で、「『大臣』には『宴のあと』や『絹と明察』の、それぞれの萌芽が見られる筈である」と書いている。これは世に有名なプラ

イバシー裁判(注3)に発展した「宴のあと」(『中央公論』昭35・1(10))を意識した言葉であり、また、この言葉の直前に自信作として発表された、近江絹糸労働争議をモデルにした「絹と考察」(『群像』昭39・1(10))にひきつけたコメントであろう。〈絹〉に象徴される日本の家長的な社長駒沢善二郎が〈明察〉に象徴される組合を影で操るハイドゥガーにあこがれる西洋的インテリ岡野に敗れていく物語は、戦後直後の大蔵省内にも渦巻いていた、大臣と官僚と組合との三つ巴的な対立構造に出発点があるのかもしれない。『三島由紀夫短編全集2』の「あとがき」で三島自身が述べているように、三島の初期の短編には「後年の諸長編にいたってひろげられる主題の種子」がばらまかれているという言葉でもそれは確かめられる。

三、

三島には、この時期に大蔵省時代の経験をもとに描いた「訃音」(『改造』昭24・7)という全集で三十頁のもう一つの短編がある。内容は次のようなものである。

松垣金融局長はまだ三十七歳、「財務省の局長で彼ほど出世の早い男は異例」とされている。彼は「将来立候補すればここを地盤」と考えている、財産家の養父の出身地、東京近県の県庁所在地M市で行われる会議のため田中事務官と一緒に電車で赴いた。彼は日ごろ身だしなみをチェックする手鏡とお気に入りの象牙のパイプを手放さなかった。「M市は保守党の勢力範囲で」「彼が製糸業のために有利な金融上の特例を得るやうに尽力したことは、M市の有力者の大半を占める製糸業者の気

受けをよくした。」何事にもそつのない、慇懃な彼は到着の晩に開かれた歓迎の宴で東京音頭を謡い踊り、「いい局長、話せるね」という地方の小役人たちの賞賛を浴びるが、その中にまったく笑わない朴訥な一人の青年の「清純な目の威圧」が気になった。しかし、夜床の中では、重病で療養中の妻の代わりに美しい未亡人の愛人にも恵まれ、省内属官をうまく手なずけて、派閥の争いからもうまく身をかわしている自分の今の境遇に満足を感じるのであった。翌朝愛用のパイプが無いのに気づき動揺した彼は、県庁で行われた講演でもいつになく精彩を欠き、質問にもうまく答えられなかった。それでもパイプのような些細なことに執着して動揺していることを周囲に気取られるのを怖れる彼は平静を装って、最終日にM市近郊の有名なI温泉で開かれた酒宴に参加した。翌朝帰路に就く折に、県庁職員から療養中の妻の死が伝えられた。周りは局長の憔悴の原因を妻の死と勝手に結び付け、彼への同情と賞賛が高まる中、元氣を取り戻し、バスの中で黒田節まで披露する彼を冷静に見守る「金融局の生き字引」である田中事務官がいた。

三島はさきの『三島由紀短編全集3』の「あとがき」の中で、「『訃音』は役人時代の経験をもとに作つたまづたくのフィクションだが、そのモデルと目される上役に、それから一年ほどして、満員の地下鉄の中で会ひ、逃げるに逃げられず、進退に窮したことがある。思へばそのころから私には、プライバシー裁判の被告の席に座る運命が予定されてゐたやうである」と述べている。

田中美代子は新潮文庫『鍵のかかる部屋』の「解説」(昭55・2)の中で、「モデルとなった当時の局長はのちに政治家として名をあげたと

いうことであるが、その微に入り細を穿った風刺と皮肉の筆力はさまざまじい」と指摘しているが、そのモデルについては具体的に触れていない。M市というのは容易に群馬県の県庁の所在地である前橋市が想像され、I温泉はその描写から伊香保温泉であろうと思われる。大蔵官僚出身のエリートで群馬県選出の大物政治家として誰もが思い描くのは福田赳夫であろう。

三島が入省した時の銀行局長は愛知揆一で、福田赳夫は銀行局長から昭和二十二年九月に主計局長に転身していた。福田はその時四十二歳。福田は養子でもないし、三島の描いた桧垣局長のようにナルシストであったとも思えない。福田が政界に打って出たのも三島が「訃音」を書いた後のことである。のちに三島由紀夫と福田赳夫は三島が自決する二年前に「自由」（昭43・7）という自民党系の雑誌で、ただ一度「負けるが勝ち」という題で対談を行っているが、その開口一番の話しぶり（注4）から、福田も自分が三島の小説のモデルになったことがあるとの認識はなかったと思われる。

三島は「大臣」においても「訃音」においても、大蔵省内で出会った何人かの人物を綯交ぜにして人物像を作り上げていったのであろう。

福田はこの対談に先立つ昭和四十年六月、佐藤栄作の第一次改造内閣において大蔵大臣となっている。もちろんその後昭和五十一年十二月に第四十二代内閣総理大臣になったことは周知のことである。

ただ、官僚時代の福田赳夫に関してどうしても触れておかねばならないことは三島が大蔵省に在籍していた時期に起こった昭和電工疑獄事件である。

昭和電工の日野原節三社長が復興金融金庫から融資を得るために政府高官などに行ったとされる贈収賄事件である。昭和二十三年の四月二十七日衆議院で問題となり、六月二十三日に日野原が逮捕され、三島が大蔵省を退職する直前の十三日に福田赳夫も逮捕され、芦田内閣も崩壊した。福田はのちにこの昭和電工事件について「検察の全くのデッチ上げ」（福田赳夫「回顧九十年」1995・3、岩波書店）としている。

その後福田は無罪となって昭和二十七年に政界入りを果たしたのであった。入省当時の大蔵大臣の来栖赳夫も芦田首相も逮捕されるという戦後最大の疑獄事件で大わらわであったはずの渦中の大蔵省に三島はいたにもかかわらず、昭和電工事件について全く触れた文章を残していない。自分の周囲で起こった、政財界を巻き込んだ戦後最大の疑獄事件である昭和電工事件には興味を持てなかったということなのであろうか。それが現実的事件であったからこそ、戦後の日常生活を否定し続けた三島らしいとも思える。「訃音」の桧垣局長と同様に、「些事にまして、この世でわれわれを苦しめるものはない」というアブレ青年三島らしさを戦後の短編にも見ることができるとも言えよう。

三島と政治との関りについて考える時にも、この疑獄事件に関しての沈黙は気になるところである。

四、

のちに「宴のあと」でプライバシー事件を起こすことになる三島ではあるが、この戦後の時期は、親戚の松平頼安を醜悪に描いた「好色」（『小説界』昭23・7）や「怪物」（『別冊文芸春秋』昭24・12）（注4）など、

モデルがわかるような露骨な書き方を敢えてしている。戦後という時代への若い三島の呪詛がこのような身近な人物への痛烈な風刺を描かせたといえる。

奥野健男は「大臣」と「訃音」について「為政者に対する軽蔑と風刺」(『三島由紀夫論―にせナルシズムの文学―』「文学界」昭29・3)と述べている。

確かに「大臣」や「訃音」に描かれる大蔵省時代に身近に見た大臣や官僚や地方の役人などへの風刺は辛辣ではあるが、「大臣」の最後に描かれる、政治家や官僚や組合幹部などの対立など関係ない無名の人々の日常や、「訃音」に描かれる、若きエリート官僚を怯えさす寡黙な地方公務員の青年の存在や、冷やかに見守る田中事務官の日常性を無視することはできないであろう。このような組合員も含めた戦後社会のエリートたちを相対化する寡黙な庶民のしたたかさを書き加えるところにも三島らしさが見えてくる。

戦後の混乱期の政治の中核であった大蔵省官僚としての地位を捨てて飛び込んだ作家の世界で、三島は「仮面の告白」の成功で新人作家として脚光を浴びることになるが、その直前の不安の時期に、三島は自らの過去の世界へ唾棄するかのごとく、醜悪な大蔵省の世界を人物像に焦点をあてて描いていることは注目に値する。

そしてその後三島は、新進作家として着実に成功の道を歩み、世界一周旅行(昭26・12～27・5)にも派遣され、代表作となる書き下ろし小説「潮騒」(新潮社、昭29・6)を発表した直後に、再び大蔵省時代のことを参考にした「鍵のかかる部屋」(『新潮』昭29・7)を発

表する。

この作品は、三島自身の解説によれば「大学を出て大蔵省に入った時期の日記を背景に使って、当時の政治情勢や経済状況を、その日記を手がかりに作中に織り込んであるが、もちろん物語はフィクションであり、破局的インフレの進行という状況は、別の、精神的破局的進行の比喩である」(『あとがき』『三島由紀夫短編全集4』)と述べている。

三島自身がモデルとおぼしき主人公・児玉一雄は、四谷にあった財務省の仮庁舎に通う平凡で退屈な日常生活の中で、たまたまダンスを通じて知り合った桐子という人妻の役所近くの家の「鍵のかかる部屋」で彼女と関係を持ち、彼女の急逝後は、彼女の九歳の娘の房子と、その部屋で怪しい時間を持つようになっていく。

この作品にあるような三島のサディズムや少女との倒錯的な世界＝「鍵のかかる部屋」への逃避願望を、あえて大蔵省時代の自分をモデルにさせていることは注目に値するであろう。

戦後直後の大蔵省時代の精神的な危機的状況を、あえてもう一度この時期に再検証する欲求が三島自身に起こっていたということであろうか。「別の、精神的破局的進行」という言葉も意味深である。

「大臣」や「訃音」などの大蔵省を風刺的に描いた小品から、倒錯的な「鍵のかかる部屋」への軌跡に、三島の二十代の軌跡を重ねることも可能かもしれない。

小説家・三島由紀夫にとって大蔵省時代とは何であったのか、という問題も含めて、「鍵のかかる部屋」についての考察は次の課題としたい。

(注1)十一月二十五日といえは周知のように二十二年後の昭和四十五年のこの日に三島は陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地(現防衛省)で割腹自殺している。

(注2)三島と同期入省であった長岡実は「大蔵事務官平岡公威君」〔文芸〕昭46・1〕という追悼文の中で、そのような原稿を三島が書いたという噂があったことを紹介している。

(注3)「宴のあと」事件―昭和三十四年の東京都知事選に社会党公認で立候補して敗れた、元外務大臣・有田八郎氏から「プライバシーの侵害」として三島由紀夫と単行本の版元である新潮社の社長が訴えられて、東京地裁で三十六年三月から始まって三十九年九月二十八日結審し、「被告側は八十万円の慰謝料を払う」という判決が出て、それを不服として三島側が東京高裁に上告したが、四十年三月に有田八郎氏が死去し、遺族との間で四十一年十一月に和解が成立した。日本においてプライバシーの概念が成立した事件として教科書にも取り上げられている。三島のこの「あとがき」はこの裁判の渦中のものである。

(注4)福田 私は三島さんとは大蔵省の同僚ですね。

三島 大先輩です。

福田 私は銀行局長から主計局長に変わって、後任が愛知揆一君、三島さんはその下に配属されて初めて入ってきたんですが、そのうち行方不明になっちゃった。そして私がおやと思ったのは、あなたのおそらく処女作だろうと思いますが、

『中央公論』で「大臣」というのを書いたね。

三島 そうです。「大臣」が先で、もう一つ「訃音」というのを書いたのです。人の死んだ知らせですね。それは局長級の話なんです。

福田 それでえらい大転換されて、こんどは自衛隊に入るという話を伺って、一度、自衛隊に入ったご感想なんかを承ってみたいと思っていたのですが、どうですか。自衛隊……。

この後は三島の当時の関心事である楯の会の活動や憲法改正などのことが話し合われるのであるが、福田は「訃音」について全く関心を寄せていない

(注5)小林和子「三島由紀夫『好色』『怪物』試論―モデル・松平頼安をめぐる―」「茨城女子短期大学紀要二十七集」(2000・3)

研究論文

女子短大生の瘦身願望と
身体イメージに関する意識調査(1)

国府田はるか

Key words ; ダイエット、瘦身願望、身体イメージ、健康、運動

要旨 ; 本研究により、女子学生の81.9%が「普通体重」もしくは「低体重」に属しているにも関わらず、95.1%を超える者が現在よりも体重を減らしたいと考えていることが明らかになり、女子学生が必要以上に強い瘦身願望を抱いている状況が示された。

また、女子学生は自身の身体が肥満傾向にあると誤った認識をする傾向にあるなど、自身の身体に何らかの不満を抱いている者が78.6%を占めている。この自己肯定感の低さ、自己不全感が必要以上の瘦身願望を誘発している可能性が示唆された。

理想とされる身体イメージについては、全体的に「女性らしさ」や「女性的魅力」を表現するものであったが、痩せ傾向を示す言葉も含まれていた。一方で「男性らしさ」を表現するものや不健康なまでの「痩せ」の状態を表す言葉に対しては、理想的な身体イメージとはみなされていないことが明らかになった。

身体イメージが形成される青年期において、栄養バランスを欠くような極端な食事制限を行うことは大きな危険性を孕んでおり、女子学生が正しい食と栄養の知識を身につける必要がある。同時に、一過性のブームにとどまらず、女子学生が飽きずに継続して実践することのできる運動の実践が望ましい。

1. はじめに

筆者は2009年度より現在に至るまで5年間、I女子短期大学において「健康とスポーツ」、「基礎体育」ⁱ、「保育表現技術（身体I・II）」、「身体表現」、「幼児体育」、「保育内容演習（健康）」、「総合表現」等の身体表現・体育関連の実技・演習科目の指導に携わってきた。受講する学生は保育科に所属しておりⁱⁱ、幼稚園教諭や保育士を目指して勉学に励んでいる。

実技授業を通して学生と関わる中で、「ダイエットの方法」や「痩せるための運動」に関する質問を受ける機会が数多くあり、多くの学生が強い瘦身意識を抱いている現状が伺えた。そこで本研究では、女子短大生を対象に運動経験及び瘦身願望とダイエット経験に関する質問紙調査を行い、現代の女子学生が抱く身体イメージについて明らかにしようと試みた。

2. 方法

本研究では、2013年度に実施した「女子短大生の瘦身意識と身体イメージに関する質問紙調査」を分析の対象とする。調査対象は、2013年度入学の18歳～19歳を中心とする女子学生、有効回

(2)

答者数は84名である。調査時期は2013年12月である。

本調査に関しては、選択回答方式および自由記述方式により全受講生に回答を求めた。

なお、全対象者へ本研究の趣旨を説明し、研究参加への同意を得た上で、無記名で質問紙調査を実施している。

3. 結果

以下に「女子短大生の痩身意識と身体イメージに関する質問紙調査」の質問項目の結果をまとめる。

(1) 女子学生のBMI調査

女子学生の身体の状態を把握するために、BMIの算出を求めた。女子学生に対し、体重ではなくBMIの記入を求めた理由としては、自身の体重を記入するよりも抵抗が少ないと予想されたためである。この設問に関しては1名が未記入であった。

BMI (Body mass index) とは、身長²に対する体重の比で体格を表す指数であり、 $BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)})^2$ で算出することができる。

このBMI値は22の時に高血圧、高脂血症、肝障害、耐糖能障害等の有病率が最も低くなるとされており、体格指数として肥満度を表す一つの指標となっている。

日本肥満学会 (Japan Society for the Study of Obesity, JASSO) では、BMI = 22の場合を標準体重としており、25以上の場合を肥満、18.5未満である場合を低体重としている。以下が日本肥満学会による肥満基準である。

表1 日本肥満学会の肥満基準 (2000年)

状態	指標 (BMI)
低体重 (やせ)	18.5 未満
普通体重	18.5 以上 25 未満
肥満 (1度)	25 以上 30 未満
肥満 (2度)	30 以上 35 未満
肥満 (3度)	35 以上 40 未満
肥満 (4度)	40 以上

この日本肥満学会の肥満基準に準拠し、2013年度に調査を実施した女子学生83名のBMI値をもとに、対象者を「低体重群」、「普通体重 (1度)」群、「普通体重 (2度)」群、「肥満 (1度)」群、「肥満 (2度)」群、「肥満 (3度)」群、「肥満 (4度)」群の7群に分類した。日本肥満学会の肥満基準の一つである「普通体重」群については、本研究においては18.5以上22未満を「普通体重 (1度)」群、22以上25未満を「普通体重 (2度)」群とさらに2つに分類した。

結果は以下の通りである。

回答が得られた83名中、BMI値が18.5未満の「低体重 (やせ)」群に該当するのは12名 (14.5%)、18.5以上22未満の「普通体重 (1度)」群は36名 (43.4%)、22以上25未満の「普通体重 (2度)」群は20名 (24.1%)、25以上30未満の「肥満 (1度)」群は14名 (16.9%)、40以上の「肥満 (4

度)」群は1名(1.2%)であった。30以上35未満の「肥満(2度)」群および35以上40未満の「肥満(3度)」群は該当者がいなかった。

なお、全回答者83名のBMIの最低値は17.1、最高値は48.4、平均値は21.9であった。

厚生労働省による「平成23年国民健康・栄養調査」の「BMIの平均値及び標準偏差(15歳以上、性・年齢階級別)」によると、15～19歳女性のBMI平均値は20.72となっており、本調査の回答者においてはBMIの平均値が全国平均をやや上回る結果となった。

56名(67.5%)は「普通体重」に該当するが、その中でも18.5以上22未満の「普通体重(1度)」群は36名(43.4%)、22以上25未満の「普通体重(2度)」群は20名(24.1%)であることから、「低体重」に近いBMI値18.5以上22未満の「普通体重」に該当する者の割合が最も高いことが明らかになった。

結果をまとめたものを図1に示す。

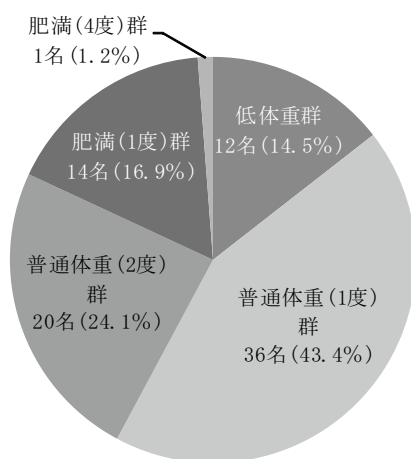


図1 女子学生のBMI値の分布（2013年度）

(2) 女子学生の理想体重に関する調査

女子学生の理想とする体型を把握するために、それぞれの考える理想の体重を、「+ kg」あるいは「- kg」で示すように求めた。この設問に関しては、84名中3名が無回答であった。

回答が得られた81名中、「- kg」と回答した者、すなわち現在の体重よりも減量したいと考える減量志向群は77名(95.1%)、「± 0 kg」と回答した者、すなわち現在の体重を維持したいと考える現状維持群は2名(2.5%)、「+ kg」と回答した者、すなわち増量志向群は2名(2.5%)であった。

本調査により、女子学生の8割以上が「普通体重」もしくは「低体重」に属しているにも関わらず、95.1%の女子学生が現在よりも体重を減らしたいと考え、瘦身願望を抱いていることが明らかになった。

また、77名の減量志向群の最低値は- 30 kg、平均値は- 7.1 kgであった。2名の増量志向群の最高値は+ 2 kg、平均値は+ 1.5 kgであった。

BMI値と理想体重の相関を分布図にまとめたものを図2に示す。

(4)

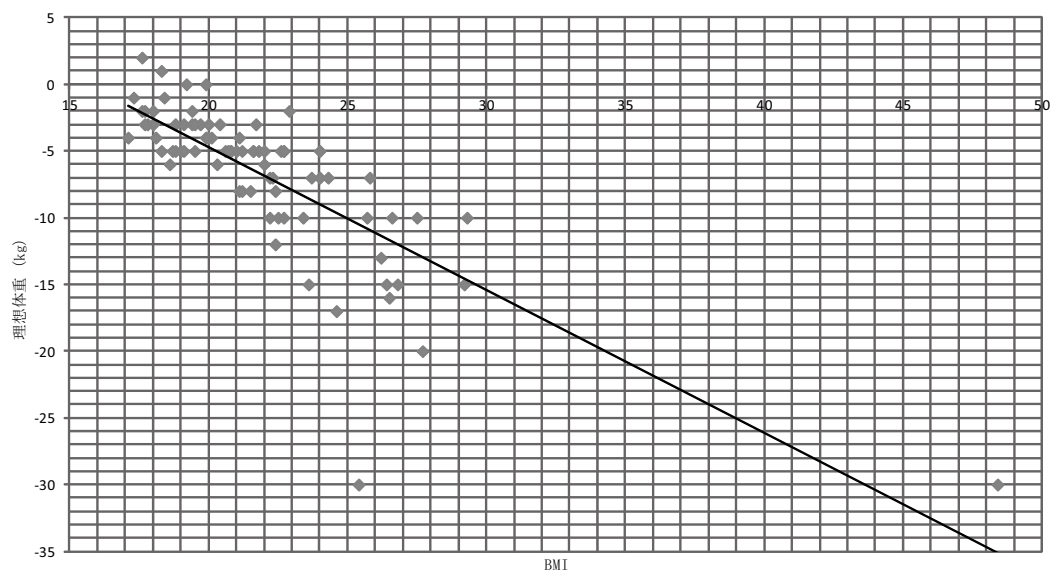


図2 女子学生の BMI 値と理想体重の分布図

さらに、77名の減量志向群を－1 kgから－5 kg減量したいと回答した減量志向群（1度）、－6 kgから－10 kg減量したいと回答した減量志向群（2度）、－11 kgから－20 kg減量したいと回答した減量志向群（3度）、－21 kgから－30 kgと回答した減量志向群（4度）の4群に分類し、それぞれの群の理想体重の平均値およびBMI平均値を求めた。

－1 kgから－5 kg減量したいと回答した減量志向群（1度）は77名中45名（58.4%）であり、理想体重の平均値は－3.87 kg、BMIの平均値は20.0であった。－6 kgから－10 kg減量したいと回答した減量志向群（2度）は77名中21名（27.3%）であり、理想体重の平均値は－8.19 kg、BMIの平均値は23.3であった。－11 kgから－20 kg減量したいと回答した減量志向群（3度）は77名中9名（11.7%）であり、理想体重の値の平均値は－15.33 kg、BMIの平均値は25.9であった。－21 kgから－30 kg減量したいと回答した減量志向群（4度）は77名中2名（2.6%）であり、理想体重の値の平均値－30.00 kg、BMIの平均値は36.9であった。

以上の結果により、BMI値が高い者ほど、大幅に減量したいと考える傾向が強いことが示された。結果を以下の図3に示す。

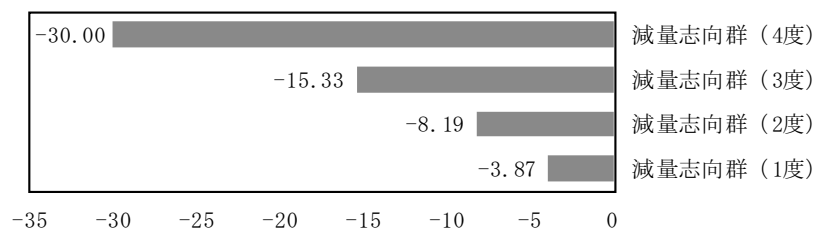


図3 減量志向群の理想体重平均値

(3) 女子学生のダイエット経験に関する調査

①ダイエット経験の有無

これまでに何らかのダイエットを行った経験があるかとの問いに対して、「ある」と回答した者は68名(81.0%)、「ない」と回答した者は16名(19.0%)であった。

81.0%の女子学生が、これまでにダイエット経験を有していることが明らかになった。

結果をまとめたものを図4に示す。

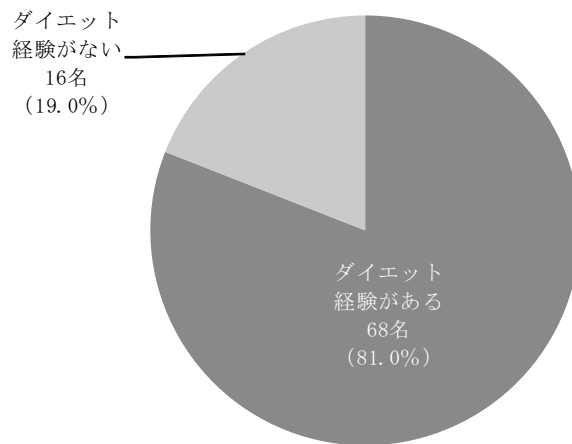


図4 女子学生のダイエット経験の有無

なお、ダイエット経験が「ある」と回答した68名(81.0%)のBMIの最低値は17.1、最高値は48.4、平均値は22.3、ダイエット経験が「ない」と回答した16名(19.0%)のBMIの最低値は17.6、最高値は25.0、平均値は20.4であった。

ダイエット経験者と未経験者のBMI平均値の比較をまとめたものを図5に示す。

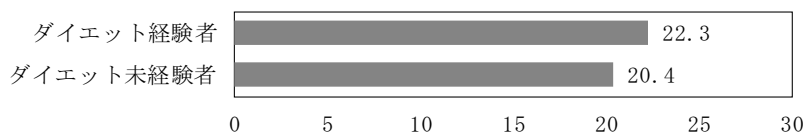


図5 ダイエット経験者と未経験者のBMI平均値の比較

②ダイエットを行った時期

これまでにダイエットを実施した時期を問う設問に関しては、全対象者84名中、「小学校低学年」が0名(0%)、「小学校高学年」が2名(2.4%)、「中学校」が24名(28.6%)、「高校」が51名(60.7%)、「大学」が25名(29.8%)という結果となった。

小学校在学中にダイエットを行っていた者は若干名であったが、中学校では3割近くの方が、高校では6割以上の者がダイエットを経験していることが分かる。大学入学後にダイエットを実施した者は、3割弱にとどまった。

(6)

結果をまとめたものを図6に示す。

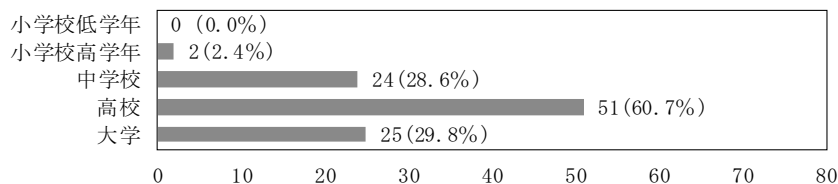


図6 女子学生のダイエットを実施した時期

③ダイエットをする目的

ダイエットをする目的について、想定される11の選択肢と「その他」の中から当てはまるものを選択するよう指示した。なお、この設問は①でダイエットをしたことがあると回答した68名を対象とし、複数回答可とした。

その結果は、回答者68名中、選択者が多い順に「痩せたいから」59名(86.8%)、「体重を落としたいから」52名(76.5%)、「見た目が細くなりたいから」52名(76.5%)、「きれいになりたいから」34名(50.0%)、「理想の体型に近づきたいから」32名(47.1%)、「部分痩せしたいから」28名(41.1%)、「体脂肪を落としたいから」15名(22.1%)、「周りに評価されたいから」14名(20.6%)、「痩せていくのが楽しいから」11名(16.2%)、「健康になりたいから」9名(13.2%)、「みんなやっているから」1名(1.5%)であり、「その他」は4名(5.9%)であった。

「その他」と答えた4名の回答については、「部活で体力をつけるため」「器械体操を行うため」「色々な洋服を楽しみたいから」「ウエディングドレスを着たいから」というものであった。

結果をまとめたものを図7に示す。

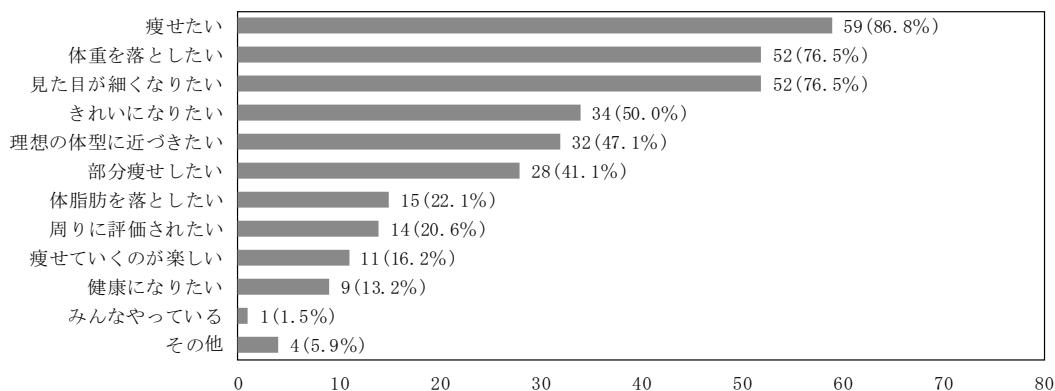


図7 女子学生のダイエットをする目的

④ダイエットをしない理由

①でダイエット経験がないと回答した学生に対し、ダイエットをしない理由について想定される6の選択肢と「その他」の中から当てはまるものを尋ねた。なお、この回答は複数選択可とし、回

答者数は 15 名である。

その結果は、回答者 15 名中、選択者が多い順に「ダイエットしたい気持ちはあるがしない」7 名 (46.7%)、「食べることを我慢したくない」6 名 (40.0%)、「ダイエットする必要がある」5 名 (33.3%)、「続かないと思う」5 名 (33.3%)、「体調を崩したくない」3 名 (20.0%)、「ダイエットよりも運動が必要」1 名 (6.7%) であり、「その他」1 名 (6.7%) であった。

「その他」と回答した 1 名の回答については「ダイエットをしたいという気持ちはない」というものであった。

結果をまとめたものを図 8 に示す。

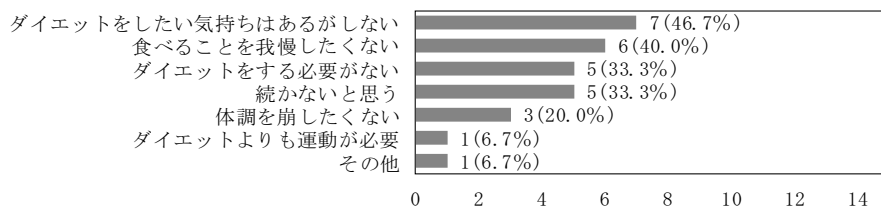


図8 女子学生のダイエットをしない理由

⑤ダイエットに関する情報を得る手段

ダイエットに関する情報を得る手段について、想定される 10 の選択肢と「その他」の中から当てはまるものを選択するように求めた。なお、この回答は複数選択可とした。

その結果は、全対象者 84 名中、選択者が多い順に「テレビ」70 名 (83.3%)、「雑誌」41 名 (48.8%)、「インターネット」33 名 (39.3%)、「ブログ」31 名 (36.9%)、「口コミ」31 名 (36.9%)、「SNS」27 名 (32.1%)、「本」20 名 (23.8%)、「広告」2 名 (2.4%)、「新聞」0 名 (0.0%) であり、「情報は得ない」は 1 名 (1.2%)、「その他」は 3 名 (3.6%) であった。

「その他」と回答した 3 名の回答については、2 名が「友人から」、1 名が「先生から」というものであった。

結果をまとめたものを図 9 に示す。

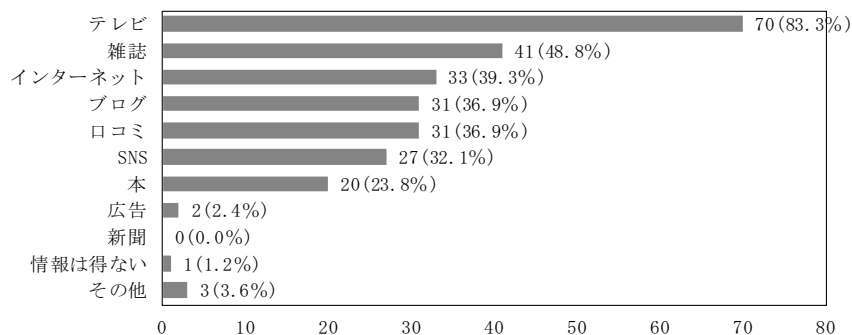


図9 女子学生がダイエットに関する情報を得る手段

(8)

⑥メディアのダイエット情報を見る頻度

雑誌やテレビ、インターネット等のメディアのダイエット情報をよく見るかどうかを5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者84名中、「とてもよく見る」14名(16.7%)、「まあまあ見る」38名(45.2%)、「ふつう」22名(26.2%)、「あまり見ない」6名(7.1%)、「まったく見ない」4名(4.8%)であった。結果をまとめたものを図10に示す。

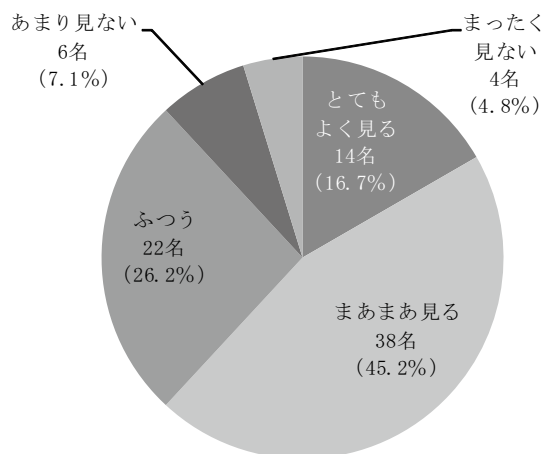


図10 女子学生がメディアのダイエット情報を見る頻度

⑦メディアの健康情報を見る頻度

雑誌やテレビ、インターネット等のメディアの健康情報をよく見るかどうかを5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者84名中、「とてもよく見る」10名(11.9%)、「まあまあ見る」21名(25.0%)、「ふつう」36名(42.9%)、「あまり見ない」13名(15.5%)、「まったく見ない」3名(3.6%)であった。結果をまとめたものを図11に示す。

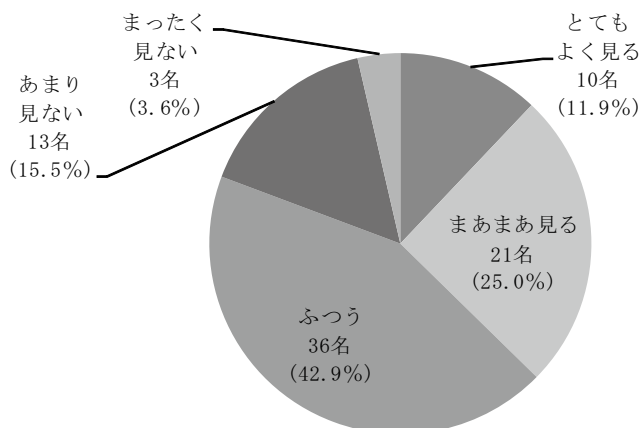


図11 女子学生がメディアの健康情報を見る頻度

⑧食事量評価

自身がよく食べる方かどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」43 名 (51.2%)、「まあまあ思う」30 名 (35.7%)、「ふつう」11 名 (13.1%)、「あまり思わない」0 名 (0.0%)、「まったく思わない」0 名 (0.0%) であった。結果をまとめたものを図 12 に示す。

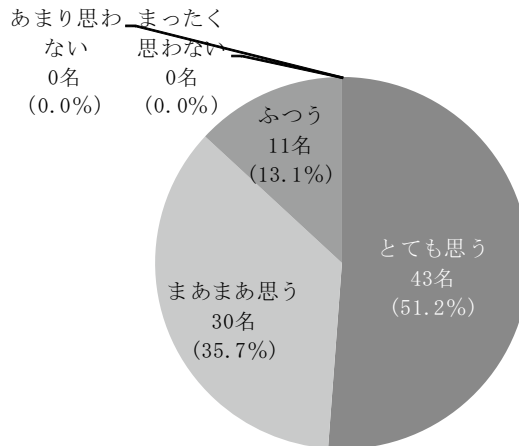


図 12 女子学生の食事量評価 (自身がよく食べる方だと思うか)

⑨運動量評価

自身がよく運動する方かどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」4 名 (4.8%)、「まあまあ思う」16 名 (19.0%)、「ふつう」25 名 (29.8%)、「あまり思わない」32 名 (38.1%)、「まったく思わない」7 名 (8.3%) であった。結果をまとめたものを図 13 に示す。

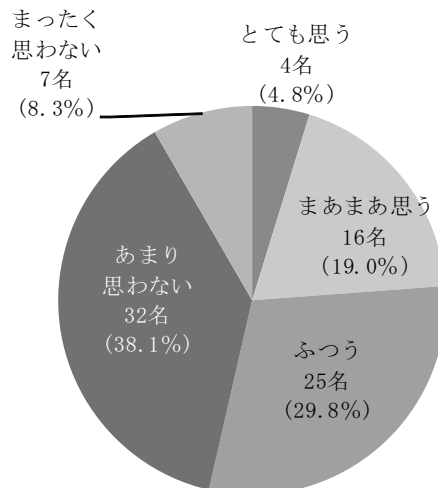


図 13 女子学生の運動量評価 (自身がよく運動する方だと思うか)

⑩痩身効果が運動へのモチベーションに与える影響

「痩せる」と聞くと運動へのモチベーションが上がるかどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」34 名 (40.5%)、「まあまあ思う」31 名 (36.9%)、「ふつう」16 名 (19.0%)、「あまり思わない」3 名 (3.6%)、「まったく思わない」0 名 (0.0%) であった。

結果をまとめたものを図 14 に示す。

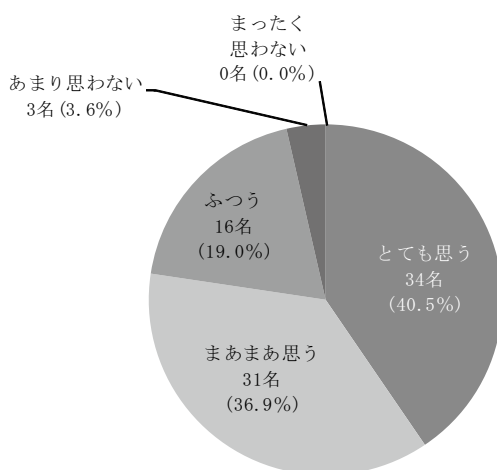


図 14 痩身効果が運動へのモチベーションに与える影響
(「痩せる」と聞くと運動へのモチベーションが上がるか)

⑪自身の「からだ」への満足度評価

自身の現在の「からだ」に満足しているかどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」0 名 (0.0%)、「まあまあ思う」3 名 (3.6%)、「ふつう」15 名 (17.9%)、「あまり思わない」23 名 (27.4%)、「まったく思わない」43 名 (51.2%) であった。

結果をまとめたものを図 15 に示す。

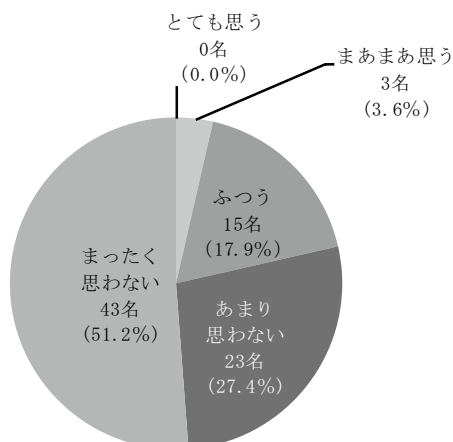


図 15 自身の「からだ」への満足度評価 (現在の「からだ」に満足しているか)

⑫自身の「からだ」の健康度評価

自身の現在の「からだ」を健康だと思うかどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」6 名 (7.1%)、「まあまあ思う」11 名 (13.1%)、「ふつう」39 名 (46.4%)、「あまり思わない」19 名 (22.6%)、「まったく思わない」9 名 (10.7%) であった。結果をまとめたものを図 16 に示す。

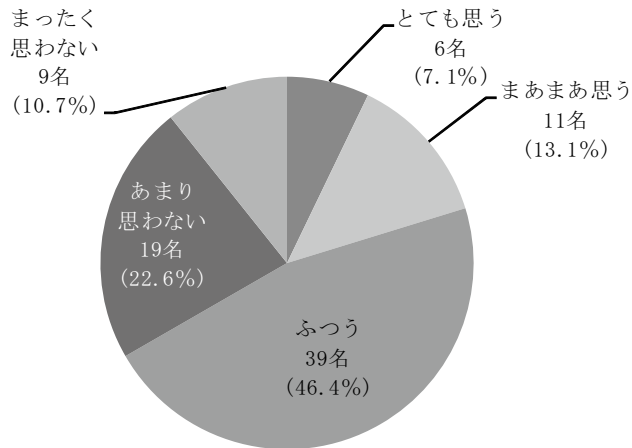


図 16 自身の「からだ」への健康度評価（現在の「からだ」を健康だと思うか）

⑬自身の体型への評価

自身の「からだ」(体型)をどのように考えているかについて、5段階の中から選択するよう求めた。その結果は、全対象者 84 名中、「とても痩せている」0 名 (0.0%)、「まあまあ痩せている」2 名 (2.4%)、「ふつう」18 名 (21.4%)、「やや太っている」35 名 (41.7%)、「とても太っている」29 名 (34.5%) であった。

結果をまとめたものを図 17 に示す。

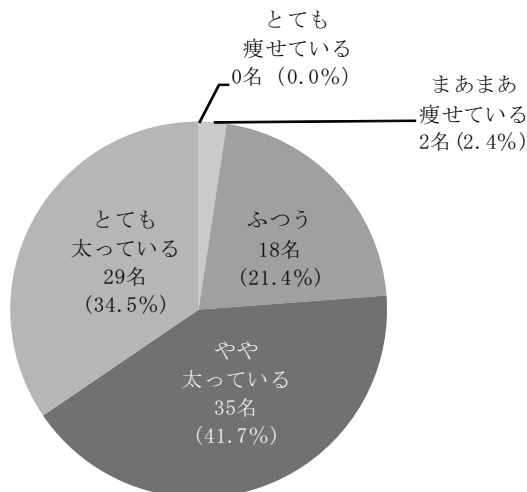


図 17 自身の体型への評価（自身の体型をどのように考えているか）

⑭「痩せる」ことへの意識

現在よりも痩せたいと思うかどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」68 名 (81.0%)、「まあまあ思う」8 名 (9.5%)、「ふつう」3 名 (3.6%)、「あまり思わない」3 名 (3.6%)、「まったく思わない」2 名 (2.4%) であった。結果をまとめたものを図 18 に示す。

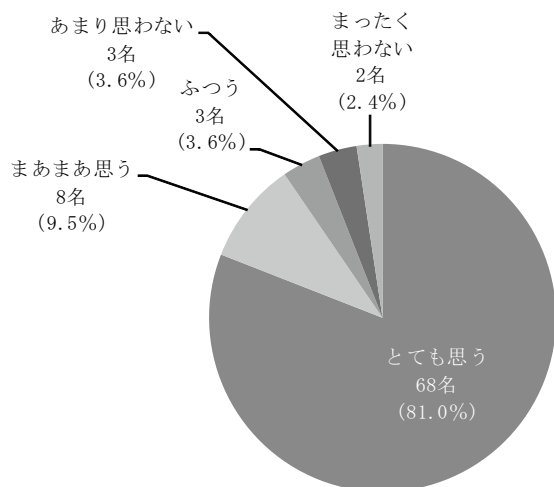


図 18 痩せることへの意識 (現在よりも痩せたいと思うか)

⑮「太る」ことへの意識

現在よりも太りたいと思うかどうかについて、5段階の中から選択するよう求めた。

その結果は、全対象者 84 名中、「とてもそう思う」0 名 (0.0%)、「まあまあ思う」0 名 (0.0%)、「ふつう」2 名 (2.4%)、「あまり思わない」3 名 (3.6%)、「まったく思わない」79 名 (94.0%) であった。結果をまとめたものを図 19 に示す。

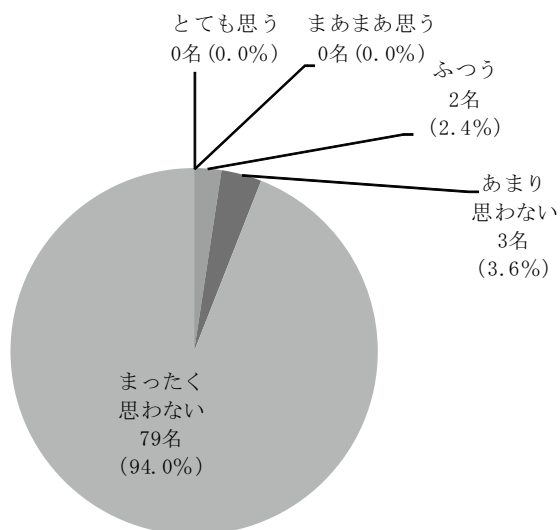


図 19 太ることへの意識 (現在よりも太りたいと思うか)

(4) 女子学生の身体イメージに関する調査

①理想とする身体イメージ

女子学生が抱く理想の身体イメージを可視化するために、身体の様相を表す 43 の単語の中から、自身が理想とする（好ましい）「からだ」のイメージに近いものを選択するよう求めた。なお、この回答は複数選択可とした。

選択者が過半数を超えた上位語は、全対象者 84 名中、選択者が多い順に「女性らしい」82 名（97.6%）、「きれいな」80 名（95.2%）、「美しい」79 名（94.0%）、「健康な」79 名（94.0%）、「やわらかい」79 名（94.0%）、「スラっとした」73 名（86.9%）、「スリムな」73 名（86.9%）、「しなやかな」71 名（84.5%）、「メリハリのある」66 名（78.6%）、「ナイスバディ」65 名（77.4%）、「痩せた」61 名（72.6%）、「すっきり」60 名（71.4%）、「モデル体型の」58 名（69.0%）、「細い」57 名（67.9%）、「華奢な」50 名（59.5%）の 15 語であった。

結果をまとめたものを図 20 に示す。

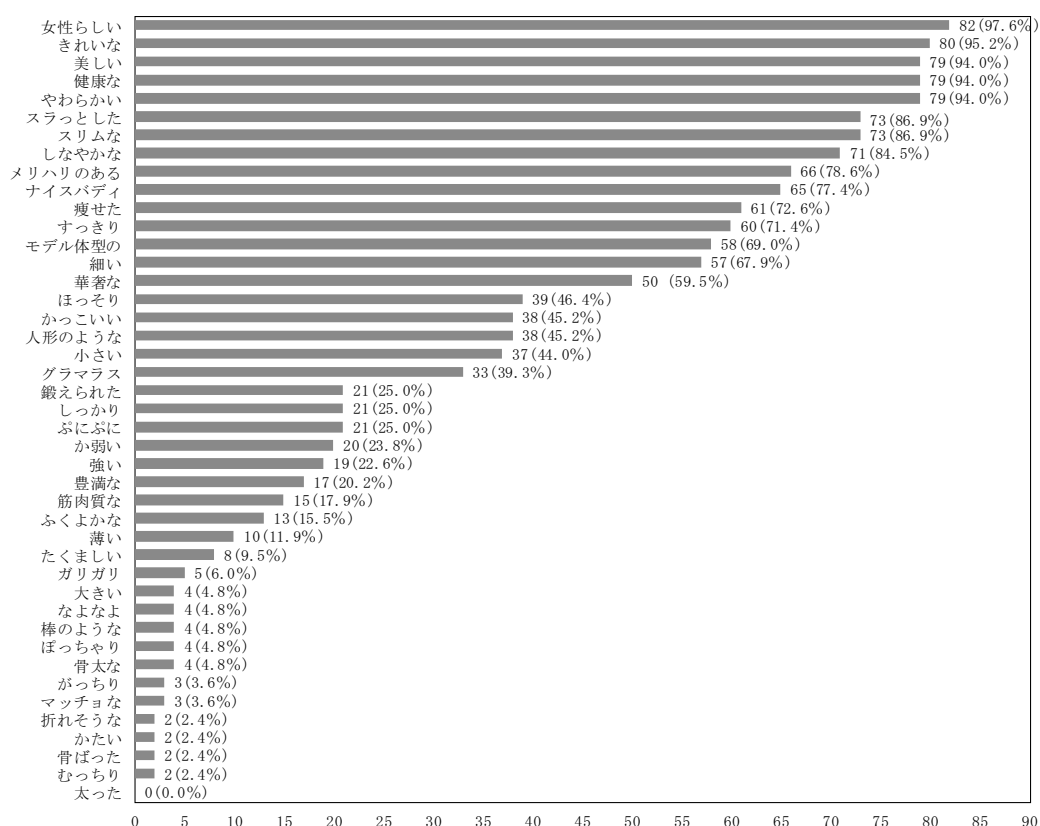


図 20 女子学生の理想とする身体イメージ

②理想と異なる身体イメージ

反対に、女子学生が理想としない身体イメージを可視化するために、身体の様相を表す 43 の単語の中から、自身の理想とは異なる（好ましくない）「からだ」のイメージに近いものを選択する

よう求めた。なお、この回答は複数選択可とした。

選択者が過半数を超えた上位語は、全対象者 84 名中、選択者が多い順に、「太った」79 名 (58.3%)、「マッチョな」75 名 (89.3%)、「かたい」74 名 (88.1%)、「むっちり」74 名 (88.1%)、「棒のような」73 名 (86.9%)、「折れそうな」72 名 (85.7%)、「骨ばった」72 名 (85.7%)、「ぼっちゃり」70 名 (83.3%)、「がっちり」70 名 (83.3%)、「ガリガリ」70 名 (83.3%)、「なよなよ」69 名 (82.1%)、「たくましい」68 名 (81.0%)、「大きい」67 名 (79.8%)、「骨太な」66 名 (78.6%)、「ふくよかな」60 名 (71.4%)、「薄い」60 名 (71.4%)、「豊満な」55 名 (65.5%)、「か弱い」54 名 (64.3%)、「ぷにぷに」52 名 (61.9%)、「強い」52 名 (61.9%)、「しっかり」49 名 (58.3%)、「鍛えられた」48 名 (57.1%) の 22 語であった。

結果をまとめたものを図 21 に示す。

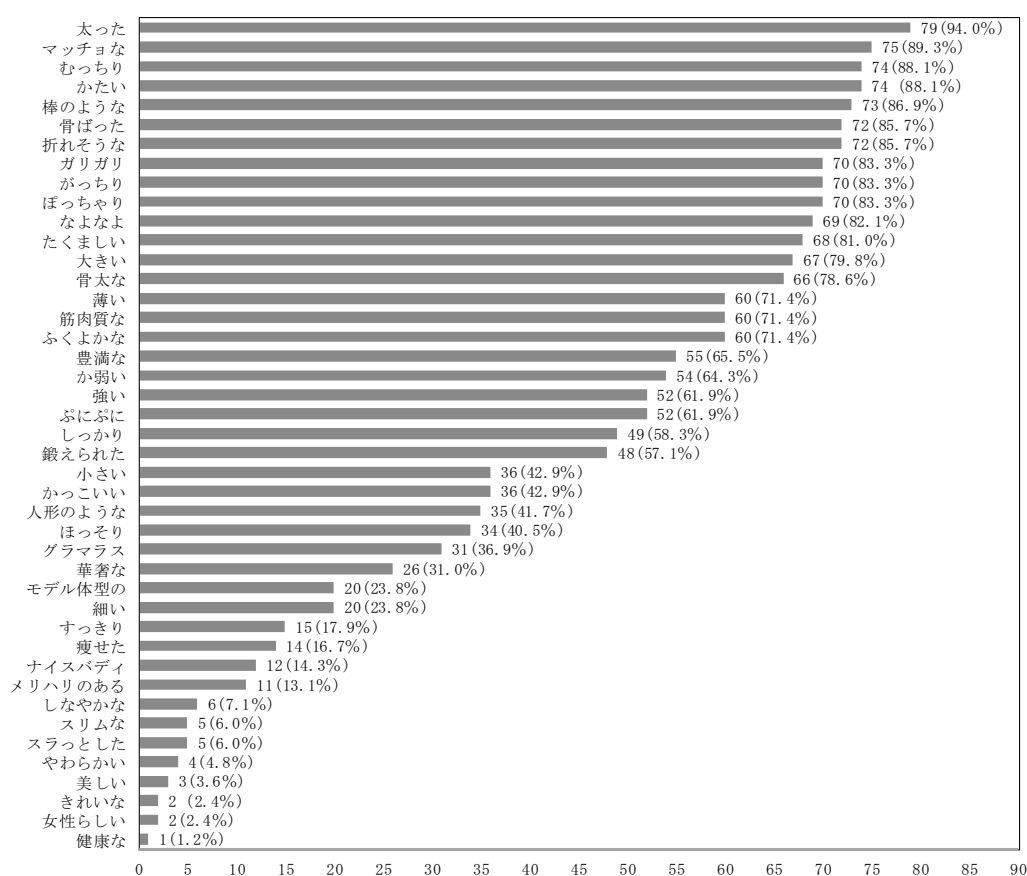


図 21 女子学生の理想としない身体イメージ

(5) 女子学生のダイエット方法に関する調査

①実践したことのあるダイエット方法

最後に、女子学生が現在までに実践したことのあるダイエット方法を調査するために、これまでに一度でも試したことのあるダイエット方法を、12 種類の食事系ダイエット、26 種類の運動系ダイエット、10 種類のその他のダイエットの中から選択するよう求めた。なお、この回答は複数選

択可とした。さらに、そのどれにも当てはまらないダイエットに関しては「その他の食事系ダイエット」、「その他の運動系ダイエット」、「その他のダイエット」の欄にそれぞれ自由記述させた。

食事系ダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に、「食べる順番ダイエット」29 名 (34.5%)、「夕食抜きダイエット」28 名 (33.3%)、「炭水化物抜きダイエット」28 名 (33.3%)、「ローカロリーダイエット」22 名 (26.2%)、「単食ダイエット」19 名 (22.6%)、「断食・プチ断食ダイエット」17 名 (20.2%)、「水分のみダイエット」13 名 (15.5%)、「朝食抜きダイエット」13 名 (15.5%)、「サプリメントダイエット」11 名 (13.1%)、「置き換えダイエット」6 名 (7.1%)、「昼食抜きダイエット」5 名 (6.0%)、「小分けダイエット」2 名 (2.4%) であった。また、「その他の食事系ダイエット」を選択した 6 名については、「8 時以降は食べないダイエット」「間食抜きダイエット」「ご飯半分ダイエット」「野菜ダイエット」「温野菜ダイエット」「キャベツダイエット」という回答であった。結果をまとめたものを図 22 に示す。

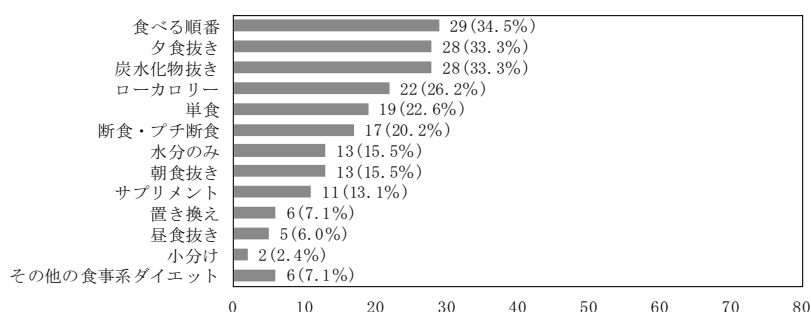


図 22 女子学生が実施したことのある食事系ダイエット

運動系ダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に、「ウォーキング」46 名 (54.8%)、「筋力トレーニング」39 名 (46.4%)、「ジョギング・ランニング・マラソン」38 名 (45.2%)、「ストレッチ」30 名 (35.7%)、「なわとび」29 名 (34.5%)、「ヨガⁱⁱⁱ」19 名 (22.6%)、「カーヴィーダンス^{iv}」13 名 (15.5%)、「サイクリング」12 名 (14.3%)、「フラフープ」12 名 (14.3%)、「ロングプレスダイエット^v」12 名 (14.3%)、「スミニング」11 名 (13.1%)、「バランスボール」9 名 (10.7%)、「コアリズム^{vi}」9 名 (10.7%)、「スポーツジム」7 名 (8.3%)、「ビリーズブートキャンプ^{vii}」6 名 (7.1%)、「ロデオボーイ^{viii}」6 名 (7.1%)、「ピラティス^{ix}」5 名 (6.0%)、「エアロビクス」5 名 (6.0%)、「ボクササイズ^x」5 名 (6.0%)、「モムチャンドダイエット^{xi}」5 名 (6.0%)、「ベリーダンス」4 名 (4.8%)、「ヒップホップダンス」4 名 (4.8%)、「フラダンス」3 名 (3.6%)、「バレエエクササイズ」3 名 (3.6%)、「ヤーナリズム^{xii}」2 名 (2.4%)、「加圧トレーニング」2 名 (2.4%) であった。また、「その他の運動系ダイエット」を選択した 3 名については、「プロレス」「キャッチボール」「300m ダッシュ」「坂ダッシュ」「オチヨダイエット^{xiii}」「Wii Fit^{xiv}」という回答であった。

結果をまとめたものを図 23 に示す。

その他のダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に「半身浴」35 名 (41.7%)、「長風呂」28 名 (33.3%)、「リンパ・経絡マッサージ」22 名 (26.2%)、「サウナ」19 名 (22.6%)、「巻くだけダイエット」17 名 (20.2%)、「岩盤浴・溶岩浴」12 名 (14.3%)、「サランラップダイエット」

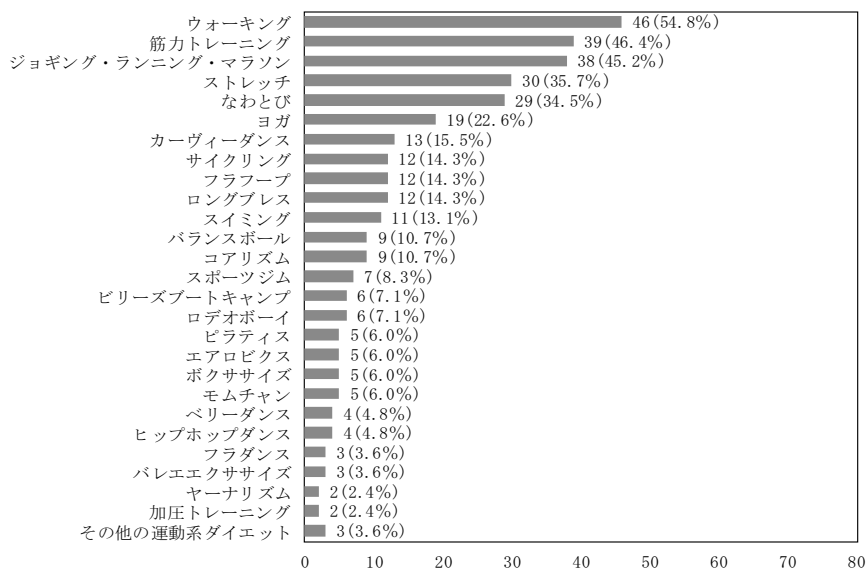


図 23 女子学生が実施したことのある運動系ダイエット

7名 (8.3%)、「耳つぼダイエット」6名 (7.1%)、「サウナスーツダイエット」4名 (4.8%)、「エステティックサロン」4名 (4.8%) であった。また、「その他のダイエット」を選択した1名については、「骨盤まくらダイエット」という回答であった。

結果をまとめたものを図 24 に示す。

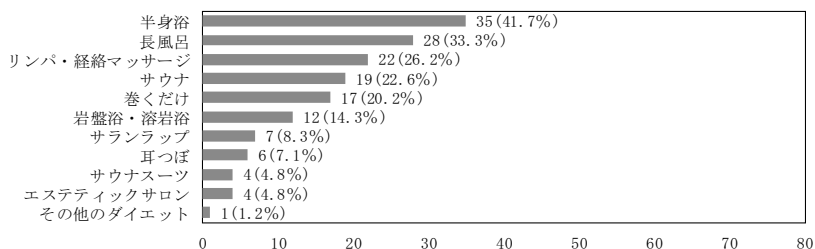


図 24 女子学生が実施したことのあるその他のダイエット

②効果の認められたダイエット方法

さらに、女子学生が現在までに実践したことのあるダイエットの中で、一定の効果がみられたものについても選択するよう求めた。なお、この回答は複数選択可とした。

一定の効果が認められた食事系ダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に、「夕食抜きダイエット」15名 (17.9%)、「炭水化物抜きダイエット」15名 (17.9%)、「食べる順番ダイエット」6名 (7.1%)、「水分のみダイエット」6名 (7.1%)、「単食ダイエット」5名 (6.0%)、「ローカロリーダイエット」5名 (6.0%)、「断食・プチ断食ダイエット」3名 (3.6%)、「サプリメントダイエット」3名 (3.6%)、「朝食抜きダイエット」2名 (2.4%)、「昼食抜きダイエット」1名 (1.2%) となった。「置き換えダイエット」、「小分けダイエット」を選択した者はいなかった。また、「その

他の食事系ダイエット」を選択した1名については、「温野菜ダイエット」という回答であった。
結果をまとめたものを図 25 に示す。

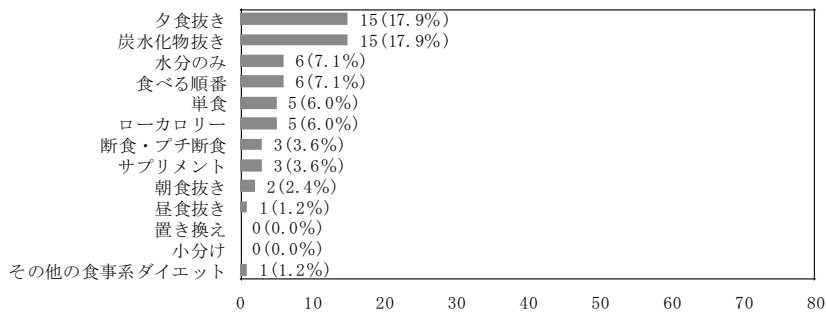


図 25 女子学生が効果を認めた食事系ダイエット

一定の効果が認められた運動系ダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に、「ウォーキング」12 名 (14.3%)、「ジョギング・ランニング・マラソン」11 名 (13.1%)、「筋力トレーニング」9 名 (10.7%)、「なわとび」6 名 (7.1%)、「スイミング」5 名 (6.0%)、「ストレッチ」3 名 (3.6%)、「サイクリング」2 名 (2.4%)、「フラフープ」2 名 (2.4%)、「ヨガ」2 名 (2.4%)、「カーヴィーダンス」2 名 (2.4%)、「スポーツジム」2 名 (2.4%)、「ピラティス」1 名 (1.2%)、「エアロビクス」1 名 (1.2%)、「コアリズム」1 名 (1.2%)、「モムチャンドダイエット」1 名 (1.2%)、「ビリーズブートキャンプ」1 名 (1.2%)、「ロデオボーイ」1 名 (1.2%) となった。「バランスボール」、「ベリーダンス」、「フラダンス」、「バレエエクササイズ」、「ヒップホップダンス」、「ボクササイズ」、「ロングプレスダイエット」、「ヤーナリズム」、「加圧トレーニング」を選択した者はいなかった。また、「その他の運動系ダイエット」を選択した1名については、「オチョダイエット」という回答であった。
結果をまとめたものを図 26 に示す。

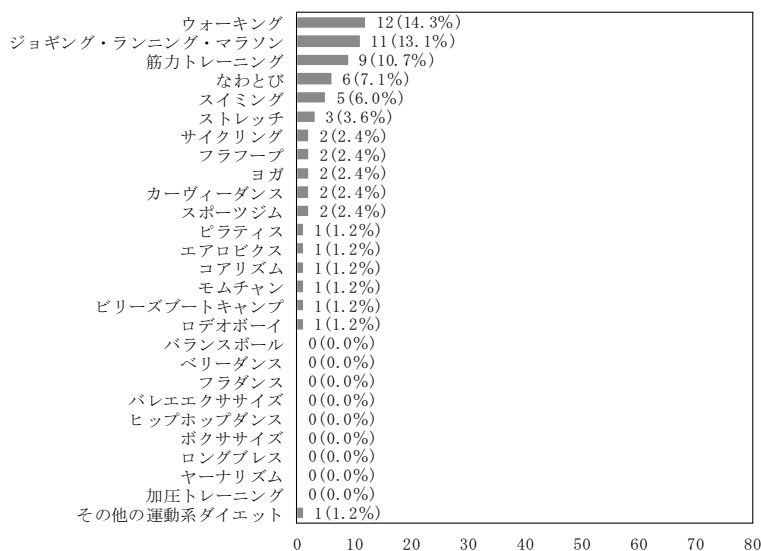


図 26 女子学生が効果を認めた運動系ダイエット

一定の効果が認められたその他のダイエットに関しては、全対象者 84 名中、選択者が多い順に「半身浴」7 名 (8.3%)、「長風呂」4 名 (4.8%)、「リンパ・経絡マッサージ」4 名 (4.8%)、「巻くだけダイエット」2 名 (2.4%)、「サウナ」1 名 (1.2%)、「岩盤浴・溶岩浴」1 名 (1.2%)、「耳つぼダイエット」1 名 (1.2%) となった。「サウナスーツダイエット」、「サランラップダイエット」、「エステティックサロン」を選択した者はいなかった。また、「その他のダイエット」を選択した者はいなかった。

結果をまとめたものを図 27 に示す。

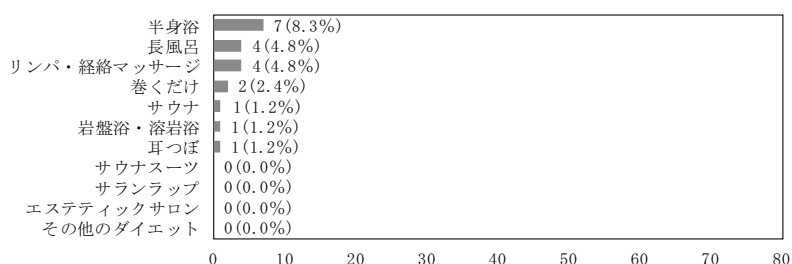


図 27 女子学生が効果を認めたその他のダイエット

4. 考察

「女子学生の BMI 調査」および「女子学生の理想体重に関する調査」により、I 女子短期大学に所属する 1 学年の学生の 81.9% が「普通体重」もしくは「低体重」に属しているにも関わらず、95.1% を超える者が現在よりも体重を減らしたいと考えていることが明らかになり、女子学生が必要以上に強い瘦身願望を抱いている状況が示された。

ダイエットを行った経験がある女子学生は、全体の 81.0% にも上った。

「女子学生のダイエット経験に関する調査」からは、小学校低学年では 2.4% の者が、中学校では 28.6% の者が、高校では 60.7% の者がダイエットを経験しているものの、大学入学後にダイエットを実施した者は 29.8% にとどまったことから、思春期中期にダイエットを実施する者が増加し、やがて思春期後期から青年期に移行するに従ってダイエットを実践する者は減少していく傾向が示された。

ダイエットをする目的に関しては、86.8% の者が「痩せたいから」と回答しており、何らかの目的のために痩せるというよりも、痩せること自体が目的となっている傾向が伺えた。また、「体脂肪を落としたいから」と回答した者が 22.1%、「健康になりたいから」と回答した者が 13.2% にとどまったのに対し、「体重を落としたいから」と回答した者は 76.5% おり、体組織の改善よりも単なる減量に目が向いていることが示された。一方で、「周りに評価されたいから」と回答した者は 20.6% おり、他者からの評価が瘦身願望に影響していることが示唆された。

ダイエット経験がないと回答した 19.0% の学生に関しても、ダイエットをしない理由について半数近くの者が「ダイエットしたい気持ちはあるがしない」と回答しており、ダイエットへの興味関心は抱いている状況が示された。

ダイエットの情報を得る手段に関しては、「テレビ」と回答した者が 83.3%、「インターネット」

と回答した者が39.3%、「ブログ」と回答した者が36.9%、「SNS」と回答した者が32.1%となったことから、デジタルメディアの台頭により溢れる情報が、女子学生のダイエットへの意識に大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。

雑誌やテレビ、インターネット等のメディアのダイエット情報を「とてもよく見る」「まあまあ見る」と回答した者は全体の61.9%であったのに対し、健康情報を「とてもよく見る」「まあまあ見る」と回答した者は全体の36.9%にとどまり、「健康」よりも「ダイエット」という概念の方が、女子学生の興味関心をより強く惹きつけている傾向が示された。

また、食事量評価について、自身がよく食べる方かどうかについて「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は全体の86.9%にも及んだ一方で、運動量評価について、自身がよく運動する方かどうかについて「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は全体の23.8%にとどまった。多くの学生が、自身の運動量の少なさを認識する一方で、食事量が多いと評価している。しかしながら、学生の81.9%が「普通体重」もしくは「低体重」に属している点を鑑みると、実際の食事量が多すぎることとは考えにくい。標準的な食事量であっても「食べ過ぎている」と認識してしまい、自身の食事量を過大評価する傾向が示された。

さらに、瘦身効果が運動へのモチベーションに与える影響を調査したところ、「痩せる」と聞くと運動へのモチベーションが上がるかどうかについて、「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は77.4%にも上った。女子学生の瘦身願望が、運動の動機づけに結びついている可能性が高いことが分かった。

次に、自身の現在の「からだ」に満足しているかどうかについて、「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は全体の僅か3.6%にとどまったのに対し、「あまり思わない」「まったく思わない」と回答した者は全体の78.6%にも及んだ。自身の身体に何らかの不満を抱いている者が多くを占めており、ひいてはその自己肯定感の低さ、自己不全感が必要以上の瘦身願望に結びついている可能性が示唆された。

一方で、自身の現在の「からだ」を健康だと思うかどうかについては、「ふつう」と回答した者の割合が全体の46.4%と最も多く、「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は20.2%、「あまり思わない」「まったく思わない」と回答した者は33.3%であった。女子学生は自身の身体について、概ね健康であると評価していることが示された。

さらに、自身の体型への評価について、「とても痩せている」「まあまあ痩せている」と回答した者は2.4%であるのに対し、「やや太っている」「とても太っている」と回答した者は76.2%にも上った。しかしながら、実際には学生の81.9%が「普通体重」もしくは「低体重」に属している点を鑑みると、女子学生は自身の身体が肥満傾向にあると誤った認識をする傾向にあることが示された。

現在よりも痩せたいと思うかどうかについては、「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者が90.5%にも及んだ一方で、現在よりも太りたいと思うかどうかについて、「とてもそう思う」「まあまあ思う」と回答した者は見られなかった。瘦身願望の強さと肥満への恐れが、女子学生の身体への認識を誤った方向に導いている可能性が示唆された。

次に、女子学生が抱く理想の身体イメージを可視化するために、自身が理想とする好ましい「からだ」のイメージに近いものを選択するよう求めたところ、選択者が過半数を超えた上位語は、「女性らしい」「きれいな」「美しい」「健康な」「やわらかい」「スラっとした」「スリムな」「しなやかな」

「メリハリのある」「ナイスバディ」「痩せた」「すっきり」「モデル体型の」「細い」「華奢な」の15語であった。

一方で、自身の理想とは異なる好ましくない「からだ」のイメージに近いものを選択するよう求めたところ、選択者が過半数を超えた上位語は、「太った」「マッチョな」「かたい」「むっちり」「棒のような」「折れそうな」「骨ばった」「ぽっちゃり」「がっちり」「ガリガリ」「なよなよ」「たくましい」「大きい」「骨太な」「ふくよかな」「薄い」「豊満な」「か弱い」「ぶにぶに」「強い」「しっかり」「鍛えられた」の22語であった。

この結果からは、女子学生が抱くジェンダー観も読み取ることができるであろう。理想とされるのは、全体的に「女性らしさ」や「女性的魅力」を表現する際に用いられる言葉であり、「スラッとした」「スリムな」「痩せた」「モデル体型の」「細い」「華奢な」といった痩せ傾向を示す言葉も含まれていた。その一方で「マッチョな」「かたい」「がっちり」「たくましい」「大きな」「骨太な」「強い」「しっかり」「鍛えられた」といった「男性らしさ」を表現する際に用いられる言葉や、「棒のような」「折れそうな」「骨ばった」「ガリガリ」「なよなよ」「薄い」「か弱い」といった不健康なまでの「痩せ」の状態を表す言葉に対しては、理想的とはみなされていない様子が伺えた。

最後に、女子学生が現在までに実践したことのあるダイエット方法を調査したところ、全体の20%以上の回答が得られたものは、食事系ダイエットにおいては「食べる順番ダイエット」「夕食抜きダイエット」「炭水化物抜きダイエット」「ローカロリーダイエット」「単食ダイエット」「断食・プチ断食ダイエット」、運動系ダイエットでは「ウォーキング」「筋力トレーニング」「ジョギング・ランニング・マラソン」「ストレッチ」「なわとび」「ヨガ」、その他のダイエットに関しては「長風呂」「リンパ・経絡マッサージ」「サウナ」「巻くだけダイエット」という結果であった。

さらに、効果の認められたダイエット方法として、全体の10%以上の回答が得られたものは、食事系ダイエットにおいては「夕食抜きダイエット」「炭水化物抜きダイエット」、運動系ダイエットでは「ウォーキング」「ジョギング・ランニング・マラソン」「筋力トレーニング」であった。全体を通して、手軽で継続可能な方法が女子学生に支持されていることが示された。

しかしながら、中には「単食ダイエット」「断食・プチ断食ダイエット」「水分のみダイエット」「朝食抜きダイエット」「サプリメントダイエット」といった、安全とは言い難いダイエット方法も少なからず実践されていた。身体イメージが形成される青年期において、栄養バランスを欠くような極端な食事制限を行うことは大きな危険性を孕んでおり、女子学生が正しい食と栄養の知識を身につける必要があることは言うまでもない。

さらに、運動系ダイエットにおいては、「カーヴィーダンス」「ロングプレスダイエット」「コアリズム」「ビリーズブートキャンプ」「ロデオボーイ」「モムチャンダイエット」「ヤーナリズム」といった、テレビやDVD等のメディアによって紹介され一時的に流行したダイエット方法も女子学生に支持されていることが明らかになった。メディアの情報が運動のきっかけとなっている点は評価できるが、一過性のブームにとどまらず、女子学生が飽きずに継続して実践することのできる運動が望ましいと言えるだろう。

5. 今後の課題

筆者は、1年次の実技・講義科目「健康とスポーツ」、2年次の演習科目「保育内容演習（健康）」

を担当しており、授業内で「食と栄養の基礎知識」「安全なダイエット方法」「運動が心身に与える効果」等についても取り扱っている。しかしながら、今回の調査結果は、必ずしも女子学生に正しい知識が浸透してはいない可能性を示している。将来、保育者として子どもたちの正しい生活習慣を指導していく立場にある学生たちが、自身の正しい身体イメージを持ち、健康を維持するための知識および実践力を得ることは必要不可欠である。

本研究は、「女子短大生の瘦身意識と身体イメージに関する質問紙調査」を実施した24年度入学生84名のデータに基づくものであり、今後も更なるデータの蓄積と分析が必要である。本研究の分析結果を元に今後も調査を継続していき、研究成果を学生の正しい身体イメージの構築に結びつけられるよう、指導していきたい。

参考文献一覧

- 1) 「肥満症診断基準 2011」、日本肥満学会、2011
- 2) 「平成 23 年国民健康・栄養調査」、厚生労働省、2011
- 3) 馬場安希、菅原健介「女子青年における瘦身願望についての研究」、pp.267-274、教育心理学研究 48(3)、2000
- 4) 諸井克英、小切間美保「女子青年におけるダイエット行動に及ぼす瘦身モデルの影響」、pp.58-67、総合文化研究所紀要 25、2008
- 5) 佐々木孝侍「ファッション誌と瘦身志向——モデルに対する憧憬と親近感及び読書傾向の視座からの実証的検討」、pp.231-248、マス・コミュニケーション研究(80)、2012
- 6) 田仲由佳、上長然、則定百合子「青年期女性の体型認識に影響を及ぼす要因—瘦身者の検討—」、pp.57-61、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 6 (2)、2013
- 7) 森由紀、山本存、倉賀野妙子「女子大生のおしゃれ意識がもたらす瘦身願望と健康状況：食行動・運動習慣との関連において」、pp.309-318、日本家政学会誌 63(6)、2012
- 8) 渡部基、田澤裕子「青年期女子における友人に抱く瘦身のメリット観とダイエット行動の関連」、pp.313-320、北海道教育大学紀要 61(1)、2010
- 9) 福田理香、井口聖子、勝田史賀「女子大学生の体型とボディーイメージとの関係」、pp.31-37、活水論文集、健康生活学部編 53、2010
- 10) 藤沢政美「女子学生のボディーイメージとライフスタイル」、pp.53-63、園田学園女子大学論文集 45、2011
- 11) 平野和子「女子学生のボディーイメージダイエット行動について」、pp.1-12、神戸文化短期大学研究紀要 26、2002
- 12) 江田節子「大学生のボディーイメージと食習慣について」、pp.41-50、関東学院大学人間環境学会紀要 6、2006
- 13) 水村(久埜)真由美、橋本万記子「大学生のボディーイメージと健康に関する意識・行動にみられる性差」、pp.89-98、ジェンダー研究 5、2002
- 14) 千住真智子、日高弓雅、吉田康成「女子大学生の運動とダイエットに関する研究(Ⅲ) —スポーツ・運動実践からみたダイエットに関連した行動の実態について—」、pp.103-116、大阪教育大学紀要 第Ⅳ部門 教育科学 61(1)、2012
- 15) 半藤保、川嶋友子「女子大学生の体型とやせ願望」、pp.54-59、新潟青陵学会誌 1 (1)、2009

脚注

- i 「基礎体育」は、保育士養成過程の改訂に伴い、2011 年度より「保育表現技術(身体Ⅰ)」 「保育表現技術(身

体Ⅱ)」に名称変更された。

- ii 「健康とスポーツ」については、保育科の学生の他に、ことばの芸術学科（旧・国文科）の学生も受講することができる。ことばの芸術学科（旧・国文科）の受講者数は、2009年2名、2010年2名、2011年1名である、2012年0名である。
- iii 「ヨガ (Yoga)」とは、古代インド発祥の修行法である。ヨガの古典文献の中で最も古いものが、パタンジャリによってまとめられた「ヨーガスートラ」である。そこでは、瞑想によって深く集中し、坐法を主とする静的なポーズにより悟りを目指すラージャヨガという方法が紹介されている。
- iv 「カーヴィーダンス」は、ボディーメイクトレーナーの榎木裕美によって考案されたダンスとフィットネスを組み合わせたオリジナルメソッドのエクササイズである。楽しく踊るだけで女性らしくびれのあるしなやかな体型をつくることができるとされている。DVDや書籍の刊行により、2010年以降各種メディアに数多く取り上げられ注目された。
- v 「ロングブレスダイエット」は、俳優の美木良介が考案した深い腹式呼吸による独自のエクササイズである。腰痛を改善するために開発された。DVDや書籍の刊行により、2011年以降各種メディアに注目された。
- vi 「コアリズム (Core Rhythms)」とは、ヤーナ・クニッツによって考案されたダンスをベースにしたエクササイズプログラム及び、そのエクササイズを収録したDVD商品名である。2008年にメディアで紹介され、爆発的な人気を集める。
- vii 「ビリーズブートキャンプ (Billy Blanks Boot Camp)」は、ビリー・ブランクスが考案した短期集中型エクササイズの総称及び、それを収録した映像ソフトウェアの題名である。米軍における新人向け基礎訓練である「ブートキャンプ」を基盤としている。通販番組で紹介されたところ、日本では2007年に一大ブームを引き起こした。
- viii 「ロデオボーイ」は、大東電気工業が発売した痩身用フィットネスマシンである。乗馬をしている感覚で体幹を鍛えることができる。2005年以降話題となり、フィットネスクラブ等でも採用されている。同様のマシンに2000年に発売された松下電器の「ジョーバ」がある。
- ix 「ピラティス (Pilates)」は、ドイツの従軍看護師であったジョセフ・ピラティス氏によって考案されたエクササイズ法である。第1次世界大戦では、傷を負った兵士のリハビリテーションに役立てられた。胸式呼吸とともに、体幹の中心（コア）への意識を高め深層筋（インナーマッスル）を鍛えることで、強靱でしなやかな身体を目指していくものである。
- x 「ボクササイズ」は、三迫将弘によって開発されたボクシングのトレーニング方法に基づいて行うエクササイズである。大幅な減量を求められるプロボクサーの手法を、ダイエットと体力増強を目的にアレンジしたものであり、シェイプアップに効果的であるとされている。
- xi 「モムチャンドダイエット」は、韓国のチョン・ダヨンが考案したダイエット方法である。「モムチャン」とは、韓国語で「鍛え上げられた美しい体」を意味する造語である。独自のエクササイズ「フィギュアロビクス」を基本とした全身エクササイズである。
- xii 「ヤーナリズム」は、「コアリズム」の開発者でもあるヤーナ・クニッツによって2011年に考案されたエクササイズプログラム及び、そのエクササイズを収録したDVD商品名である。腰を動かしながら踊ることにより、女性らしくびれを目指すものである。
- xiii 「オチョダイエット」は、俳優の新藤学が2013年に考案した、アルゼンチンタンゴのステップを基調にしたダイエット方法である。「オチョ (Ocho)」とはスペイン語で「8」を指し、腰を8の字に動かす動作を形容している。
- xiii 「Wii Fit」とは、任天堂より発売されたフィットネストレーニングソフトウェアである。「家族で健康」をキャッチフレーズとし、トレーニングや運動感覚を向上させるゲームが搭載されている。専用のボードに乗り、体重測定や、ヨガ、有酸素運動、バランスゲーム等の様々なトレーニングを行うことができる。

研究ノート

こども音楽療育ワークショップの取り組み —保護者アンケートから2年目を振り返る—

廣部 朋美・神永 直美・馬立 明美

1 はじめに

平成20年4月に改定された保育所保育指針や同時に改訂された幼稚園教育要領には、近年の特別支援教育の流れを汲んだ内容が記載されている。保育所保育指針(2008)では、障害のある子どもについて指導計画の中に位置づけることや、家庭や専門機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなどの対応を図ることとしている。幼稚園教育要領(2008)では、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、支援の計画を個別に作成することなどにより、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこととしている。このような世の中の流れがある中、平成24年度から一般財団法人全国大学実務教育協会の「こども音楽療育士」資格認定制度が開始された。平成23年4月に出された「こども音楽療育士資格認定制度設置の趣旨」によると、この資格について「近年、保育、幼児教育、福祉の各領域において、音楽は広く活用され、音楽活用の可能性が注目を集めると共に、その活用に関する実践研究が進められている。特に、昨今の課題である発達障害への対応という点において、音楽を用いた療育は、こどもの心やからだを育てる発達援助の一手段として活用され、意義深いことが検証されている。そのような時代背景を踏まえ、音楽療育、障害児・心理、保健及び音楽に関する科目を体系的に学んだものに『こども音楽療育士』として、資格を授与する制度の導入を図り、保育所、幼稚園、小学校、児童福祉施設等において、心身の発達に役立つ療育の知識と技術の獲得を目指したい。」と述べられている。茨城女子短期大学(以下、本学)保育科では、資格免許(保育士資格、幼稚園教諭二種免許状)に付加価値を与えるという点や子育て支援や親子のふれあい支援の一端を担う重要な資質という点から、いち早くこの資格認定制度を採り入れることとした。神永・馬立(2013)では、担当教員の専門性、施設・設備等の配慮、資格取得希望者のピアノの技量、「こども音楽療育実習」の授業展開、外部施設における観察実習、学内ワークショップ(参加・体験実習)などについて具体的な報告が行われた。こども音楽療育ワークショップの基盤となる流れが構築され、本年度も引き続き同様の内容で展開することができた。平成25年度は2年目の取り組みということもあり、昨年度の課題・検討点を鑑み、具体的に学生の不利益にならないような日程の調整及びアセスメントや内容を充実させた地域貢献の子育て支援の一端を担うこども音楽療育ワークショップの開催を目指した。年度当初はワークショップの開催時期を参加者及び学生の夏休み期間のみで設定していた。しかし夏のワークショップを終えた後、保護者からのニーズを受け、秋から冬にかけて月1回のワークショップを検討するに至った。また、平成25年度の本学保育科入学者のうち、43名がこども音楽療育士の資格取得を希望していることから、外部施設見学実習に加え本学にてワークショップを行うことが、実習先の確保に繋がるという点からも開催することを決

定した。

本稿では、ワークショップ開催及び終了に伴い実施した保護者アンケートを分析・報告し2年目の取り組みを振り返る。この成果と課題から、次年度以降のワークショップ及びこども音楽療育士資格取得にかかる必修科目の内容の充実を図ることとする。

2 目的

本学のこども音楽療育ワークショップは親子での音楽活動を基盤にプログラムを構成している。プログラムの基本的な流れは以下の通りである。

表1 本学における音楽療育ワークショップの基本的な流れ

プログラム	目 的
1. オープニング	リラックス 雰囲気作り
2. あいさつ	活動開始の意識 健康状態の把握
3. 季節の歌	季節を感じる 発声・発語を促す
4. 手遊び歌	親子の触れ合い 情緒の安定 脳の活性化
5. 保護者の歌	リラックス 歌に合わせた楽器の操作
6. 楽器	手の動き・協調性 親子で振動の共有
7. 合奏	ハーモニーを感じる 協調性・社会性を促す
8. 身体運動	身体模倣・身体運動促進、スキンシップ
9. 鑑賞	リラックス 他者も認識
10. あいさつ	活動終焉の認識
終了後	セラピストと保護者の相談会

親子での音楽活動を基盤にすることで、非日常の場面にも対応し易い環境構成を心掛けている。活動の最中は、子どもたちが座っている椅子の後ろに保護者が座る配置となっている。約2年にわたり、上記のプログラムに沿った活動を行ってきている。和田（2003）は、発達障害の子どもを持つ親に対する援助の1つに「親子リズム」の活動を挙げ、小集団における親への音楽を用いた援助の効果を明らかにした。本学におけるこども音楽療育ワークショップにおいても、保護者への援助という観点も考慮したワークショップの運営が重要であると考えている。このことから、プログラム内容を踏まえながら保護者アンケートについて考察し、本年度の取り組みを振り返り、エヴィデンスに基づいたアプローチの研究を目的とする。

3 方法

1) 実施期間と参加者数

平成25年度はこども音楽療育のワークショップを計10回実施した。年間の活動を振り返ると、開催時期と目的によって2つの時期に分けることができる。第1期は「こども音楽療育実習」を主な目的とした学生の学びの場を主軸においたワークショップであり、第2期は保護者の要望及び学生の観察実習のために開催を決定し、第1期を踏まえ本学教員による療育を重視したワークショップである。第1期、第2期の日程の詳細は以下の通りである。

表2 平成25年度 音楽療育ワークショップの日程

《第1期》

平成25年8月中に計6回開催

	年 月 日
第1回	平成25年8月7日
第2回	平成25年8月9日
第3回	平成25年8月12日
第4回	平成25年8月19日
第5回	平成25年8月27日
第6回	平成25年8月30日

《第2期》

平成25年10月から平成26年1月まで
月1回開催

	年 月 日
第1回	平成25年10月19日
第2回	平成25年11月30日
第3回	平成25年12月25日
第4回	平成26年1月18日

2) 対象児の詳細

本年度も昨年度同様、発達障害児の支援に力を入れている地域の幼稚園の教頭先生のご理解があり、また本学におけるこども音楽療育ワークショップの認知度が徐々にではあるが高まってきたことが考えられ、募集定員を上回るワークショップ参加希望者が集まった。今年度の参加者のうち、第1期に参加した親子が15組（うち双生児2組、子どもの数17名）、第1期に引き続き第2期も参加した親子が9組（うち双生児2組、子どもの数11名）であった。参加児の詳細は以下の通りである。

表3 平成25年度 音楽療育ワークショップ 参加児（初回欠席児3名を除く）

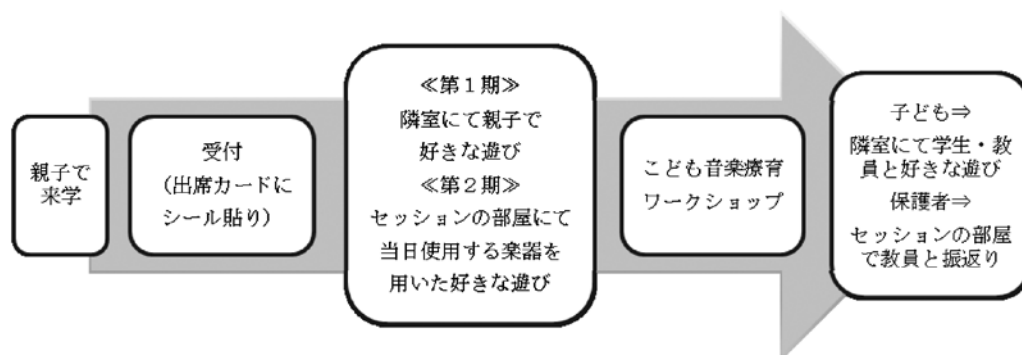
No.	参加児	参加時の月齢	ワークショップ参加理由等
1	A児	3.9	先天性右半身麻痺 左孔脳症
2	B児	3.11	幼稚園での様子から心配があり参加 (B児とC児は双生児)
3	C児		
4	D児	3.11	3.5歳時に外反偏平足の診断
5	E児	3.11	幼稚園での様子から心配があり参加
6	F児	4.3	3.6歳時に発達障害の診断
7	G児	4.4	4.4歳時に広汎性発達障害の診断
8	H児	4.6	3.5歳時に広汎性発達障害の診断
9	I児	4.9	幼稚園での様子から心配があり参加
10	J児	5.5	3.3歳時に構音障害の診断
11	K児	5.6	5.2歳時に軽度自閉症スペクトラムの診断
12	L児	6.2	5.0歳時に自閉症スペクトラムの診断 (L児とM児は双生児)
13	M児		
14	N児	6.3	6.0歳時に自閉症スペクトラムの診断

※本ワークショップの参加対象者は「3歳～6歳の療育が必要なお子さんと保護者」となっている。

3) 活動の構造

こども音楽療育ワークショップは親子を対象とした活動であり、親子での集団療育を目的としている。第1期では平均11組、第2期では平均6組の参加があった。音楽療育ワークショップの流れは以下を基本としている。

図1 音楽療育ワークショップ開催日の1日の流れ



第1期は5～6名の学生(2年生)が1グループとなり、セラピスト・ピアノ伴奏・アシスタントの役割に分かれて行い、本学教員が同室にてサポートを行った。第2期は、進行の中心を本学教員が担い、見学観察実習及び一部補助として6名の学生(1年生)が加わりワークショップを行った。1回のセッション時間は60分とし、終了後に保護者と本学教員で振り返りの充実を図り、隣室では子どもの好きな遊びを学生がサポートする等それぞれが有意義な時間とすることを目的としている。

4) アンケート項目

今年度のアンケートは、第1期の前後、第2期の後の計3回実施した(第2期開始時は第1期の終了時から間もないこともあり、また参加者が同じだったためアンケートを行わなかった)。以下に3回分のアンケートの質問項目を記載する。

第1期 開始時

・フェイスシート(お子さんの年齢、おうちでの呼び方、性別)

1 音楽は好きですか。また、好きなジャンル、アーティストは？

(お子さん) 大好き 好き 普通 まあまあ あまり好きではない

(養育者) 大好き 好き 普通 まあまあ あまり好きではない

(お子さんが好きな歌)

(養育者の方が好きな歌・人)

2 普段、歌を歌っていますか。

(お子さん) よく歌う 時々歌う ほとんど歌わない 全く歌わない

(養育者) よく歌う 時々歌う ほとんど歌わない 全く歌わない

3 聴くのと歌うのはどちらが好きですか。

(お子さん) 聴く 歌う 演奏(楽器名:)

(養育者) 聴く 歌う 演奏(楽器名:)

4 子育ての中でイライラや不安を感じることがありますか。

多い 時々 たまに ほとんどない

- 5 お近くに、相談できる親戚や知り合い、祖父母などがいますか。 いる いない
- 6 お子さんが寝入るときに歌（子守唄など）を歌いますか。
 （歌声で） いつも 時々 たまに 歌わない
 （CD等） いつも 時々 たまに 歌わない
- 7 秋から冬にかけて、個別に対応した音楽療育プログラムを開催する場合、参加したいですか（希望者が多い場合はご希望に添えない場合もございます。また、より療育の特色を強化するため、個人情報についてお伺いすることがあります）。
 はい いいえ
- 8 リクエスト、ご希望、ご要望などがございましたら書きください。

第1期 終了時

- ・フェイスシート（お子さんの年齢、性別）
- 1 ワークショップはいかがでしたか。
 お子さん （ ）とても楽しく参加できた （ ）楽しく参加できた
 （ ）普通だった （ ）楽しく参加できなかった
 養育者 （ ）とても楽しく参加できた （ ）楽しく参加できた
 （ ）普通だった （ ）楽しく参加できなかった
- 2 楽しかったことは何ですか（当てはまるものすべてに○）
 歌 体操・ダンス 楽器遊び 鑑賞 手遊び歌 ママの好きな歌 その他
- 3 ワークショップに参加したお子さんが興味をもったことや変化したことがあったら書きください。
- 4 ワークショップに参加した保護者の方のご気分やお気持ちの変化をお聞かせください。
- 5 お子さんが気に入った楽器や用具はありましたか。（当てはまるものすべてに○）
 タイコ ドレミマット ジャンベ ボンゴ カホン オーシャンドラム 果物マラカス
 バルーン ムーブメントスカーフ パネルシアター チャイム その他
- 6 今後ワークショップが開催される場合に望むことは何ですか。
- 7 感想・ご意見・リクエストなどありましたら書きください。

第2期 終了時

- ・フェイスシート（年齢、性別）
- 1 ワークショップはいかがでしたか。
 （ ）とても楽しく参加できた （ ）楽しく参加できた
 （ ）普通に参加できた （ ）楽しく参加できなかった
- 2 楽しかったことは何ですか。（当てはまるものに○）
 歌 体操・ダンス 楽器遊び 手遊び ママの好きな歌 鑑賞 その他

3 これまで参加した回数

() 初めて () 平成 25 年度夏、秋・冬

() 平成 24 年度秋・冬 平成 25 年度夏、秋・冬

() 平成 24 年度夏、秋・冬 平成 25 年度夏、秋・冬

4 ワークショップに参加してお子さんが興味をもったことや変化したことがありましたらお書きください。

5 お子さんが気に入った楽器や用具はありましたか。(複数回答可)

6 全体を通してのご感想・ご意見などありましたらお書きください。

4 結果と考察

1) 第1期 開始時

本来、どんな療育の場面でも事前にアセスメントを行うことが前提となる。しかし、こども音楽療育ワークショップ（以下、本ワークショップ）は学生の実習という側面をもつため、事前に踏み込んだアセスメントが取りにくい状況にあった。そのため、第1期開始時のアンケートではアセスメントを兼ねるアンケート内容を作成した。

質問1では、子ども、保護者共に大好き、好きを合わせると9割近くが音楽について肯定的に捉えて参加していることがわかった。また質問2においても9割の親子が日常で歌に親しんでいることがわかった。これらのことから、子ども、保護者共に、音楽に関心がある状態での参加が認められた。質問3では、子どもと保護者とは若干の差があった。子どもは5割が歌、3割が聴くことを好むのに対し、保護者は8割が聴く、1割強が歌うことを好んでいた。本ワークショップでは、保護者が主に歌い子どもたちが楽器でリズム伴奏を行うプログラムが用意されている（表1：プログラム5参照）。非日常の体験を保護者も行うことで、保護者の気持ちに変化が生じることを期待する。また、興味深い結果が質問4と5である。質問4に関しては、約半数が子育て中のイライラや不安を多く感じており、もう半数も時々感じているとのことである。地域柄を反映してか、質問5では、9割弱の保護者が近くに相談できる人がいると答える中、1割強の保護者にとっては子育てについて相談できる相手が身近にいないということも判明した。この一見相反する結果を踏まえ、また本ワークショップの目的として、アセスメントや内容を充実させた地域貢献の一端を担うことが挙げられていることから、音楽の側面だけでなく、子育て支援の視点も再確認していく必要がある。質問6からは、歌や子守唄が殆ど行われていないことが明らかになった。9割を超える保護者が入眠時というリラックスを求める場に音楽を用いないということである。

第1期開始時のアンケートからは、音楽に興味・関心のある親子の参加が認められ、子育てに不安を抱える保護者が参加していることが明らかになった。

2) 第1期 終了時

終了時のアンケートは自由記述を多く設けた。これは、保護者が見たり感じたりした変化について質的な変容を知るためである。

質問1については、全体を通して9割の親子がとても楽しく参加できた、楽しく参加できたに該

当している。その内容を質問2から推測すると、楽器遊びについては10割の該当であり、次いで歌、体操・ダンス、手遊び歌の順で該当率が高い。また、保護者の好きな歌も5割該当し、1)の結果から普段は音楽に関し聴くことが多い保護者にとって歌うことの解放感や楽しみを感じられたのではないかと推測する。

自由記述については以下の通り事例を挙げる。

質問3

- ・幼稚園ではみんなで歌うとき、ついていけなくて、歌えないことが多かったが、ここでは大きな声で歌うことができて感動した。家でも歌うことが増え、とても嬉しく思う。
- ・自宅に楽器があるが、今まで使用したことがほとんどなかった。ワークショップ参加後は、自宅でもテレビなどの音楽にあわせて遊ぶようになった。
- ・自ら楽器を鳴らしに行ったり、選んだりするようになった。
- ・順番を待つことが身についてきた。
- ・曲に合わせてリズムを取るようになった。いろんなもの（椅子やテーブル）を楽器に見立てていたことに驚いた。

質問4

- ・楽しく参加する子どもを見ていることが本当に嬉しい。子どもが自由に動ける環境が良い。最終日には、自分から周りに挨拶し、友達にも声をかけていた。
- ・子どもが楽器を使用して楽しく参加している姿を見てとても嬉しい気持ちになった。
- ・夏休み中の開催は生活リズムも正され、普段見られない子どもの様子も見られた。家でイライラする時間も減った。
- ・子どもの笑顔を見ることでのストレスの軽減。
- ・ママの好きな歌が毎回楽しみだった。声を出して、歌詞を見ながら歌うという当たり前のことがとても楽しくスッキリした。

質問3・4からは、幼稚園などの集団場面で見る子どもの姿と本ワークショップで見る子どもの姿の違いを肯定的に受け止める保護者が多いことが判明した。音楽活動が、ワークショップ時のみ限定されたものではなく、家庭での時間の過ごし方にも影響を与えるということもわかった。質問5からはチャイム、カホン、ボンゴなど普段家庭や幼稚園で扱ったことのない楽器が挙げられた。珍しい楽器に触れるということが、子どもたちの期待となり、楽しみに繋がったと考えられる。質問6の今後の要望では、場面に応じた学生の声のかけ方や声の大きさへの要望、また絵などを用いた具体的な指示の仕方への要望などが挙げられた。療育が必要な子どもへの支援を想定したさらなる教材研究、プログラムの工夫等の必要性が認められた。

3) 第2期 終了時

第2期は第1期参加者の希望制で開始したため、本ワークショップに対する満足度が必然的に高

まった結果となった。楽しかったことについては、第1期に比べ鑑賞についての該当が大幅に増えた。第2期は前述した通り、本学教員によるワークショップということもあり、具体的には二重唱や楽器の演奏を行い、第1期とは異なるものとなった。子どもも保護者も集中して耳を傾ける姿が見受けられ、もっと聴きたいという意見が出るほどであった。子どもにも保護者にも新鮮な感覚となったことがうかがえた。

質問4からは、第1期に引き続き、音楽による子どもの新たな姿への喜びが述べられていた。また、幼稚園などの集団よりも少人数の集団ということや近くに保護者がいるという安心感から、普段より落ち着いた姿が見受けられたと推測できる。質問5では、来年度就学する保護者の全員から「小学校になってもこういう機会を作ってほしい」という意見があった。保護者にとっても気軽に参加できて子どもと一緒にゆっくり時間を過ごせる場として、こども音楽療育ワークショップが求められていると実感した。

質問4

- ・自分で楽器を作って楽しむようになった。
- ・外の様々な音を教えてくれるようになった。
- ・楽器への興味が広がった。
- ・幼稚園よりも生き活きしている姿が見られた。
- ・テレビを見ていた時間が音楽に触れる時間に変わった。
- ・音楽のある生活によって家の中が元気になった気がする。
- ・家での音楽あそびが増えた。歌いながら楽器を鳴らし、ダンスも自分で考えるなど「1人コンサート」をやっていて楽しそうだった。
- ・順番を守り、人の話を聞いてやっているのを見て驚き、感動した。

また、ワークショップ後の保護者と教員による振り返りからは、ドレミの階名と身体の各部位を対応させたボディ・サインに対する満足度が高いことも明らかになった。本学で開催されたワークショップでは、軽度発達障害児の参加がほとんどであり、歌う、動く、鳴らすなどの基本的な音楽表現に加え、視覚的な認知と身体の動きの協応が必要となるボディ・サインは、他のプログラム活動よりやや難易度が増すため、子どもの達成感や充実度が高まり、その結果保護者のニーズにも繋がったと考えられる。他に、保護者にとって自分の子どもの離席や自由な動きが気になる場面があったことも挙げられた。ワークショップでは離席する子どもたちに無理な着席を求めず、ありのままの姿を大切にしているが、きちんとさせたいとの思いから自分の子どもの動きに敏感になる保護者の姿があった。このことから、子どもたちが自然と夢中になるこども音楽療育ワークショップのプログラム作りの工夫や必修科目内容の熟考が、参加児・保護者・学生の3者にとって、よりよい機会になるのではないかと考えられる。

全体の考察として、第1期は資格認定に係る実習という目的もあり、学生の学びの場としての側面、また子どもたちや保護者の出会いの場としての意義が認められた。自らプログラムを考え、模擬セッションを行い、実践に繋げるという段階を追うことができた。参加者にとっても、長い夏休みの間に親子で自由に通える憩いの場となった。第2期は本学教員がワークショップを計画・運営

することで、参加者の満足度がやや高まったと考えられる。これは、学生の力量の向上を再認識するに至ったとも言い換えられる。本学教員が計画・運営するワークショップに、1年生が見学・観察実習という立場で参加することによって、次年度自分たちが指導者となる際に役立つような授業内容を構成・展開していきたい。

来年度以降に向けては、2点課題を挙げる。1点目は、「こども音楽療育士」資格の位置づけが「保育士」資格や「幼稚園教諭」免許状の付加価値を担うものであったことを考慮しなければならないということである。現代の保育において、統合保育や特別な支援が必要な子どもに対する保育について熟考することが重要であることは言うまでもない。そのため、統合保育内における音楽療育の意義や展開について検討していく必要がある。2点目として、小学校に入学した後もこのようなワークショップに参加したいとの声を踏まえ、長期にわたって参加することができる機会を設定していくことも課題と考えられる。今後も筆者らのそれぞれの専門性を活かした取り組みを鑑みながら、特色のあるこども音楽療育ワークショップの開催を目指し、学生の力量の向上や地域貢献・子育て支援に繋げていきたい。

引用・参考文献

- 神永 直美・馬立 明美. (2013). 「こども音楽療育実習」の授業展開～初年度の取り組み～. 茨城女子短期大学紀要, 40, 53-60.
- 厚生労働省. (2008). 保育所保育指針解説書. フレーベル館, 140-142.
- 柴崎 正行. (2009). 特別な支援を必要とする乳幼児の保育に関する最近の動向. 保育学研究, 47 (1), 82-92.
- 林 昌子・伏見千悦子. (2001). 「音楽療法」から「音楽療育」へ～「北海道ミュージックムーブメントセラピー研究会」活動を通して～. 札幌国際大学紀要, 32, 209-221.
- 古川美枝子. (2005). 障害児と音楽—幼児への集団音楽療育—. 名古屋芸術大学短期大学部研究紀要, 37, 45-53.
- 文部科学省. (2008). 幼稚園教育要領解説書. フレーベル館, 225-227.
- 谷村 宏子. (2003). 幼児の音楽療法に関する一考察. 聖和大学論集, 31, 105-114.
- 横内 理絵・眞田 敏. (2013). 音楽が情動におよぼす影響と音楽的行動の発達—広汎性発達障害児に対する音楽を用いた支援のための知見—. 岡山大学教師教育開発センター紀要, 3, 10-16.
- 和田 薫. (2003). 統合保育を支えるもの—発達障害の子どもを持つ親への援助についての一考察. 聖和大学論集, 31, 39-47.

研究論文

日本における電子書籍の歴史と展望

小松崎浩司

1. はじめに

電子書籍は、1971年にThe University of Illinois at Urbana-Champaignの当時学生だったMichael Stern Hartが、大学の計算機に米国独立宣言を入力し、友人にダウンロードさせたことに始まった。彼はそこにヒントを得て、米国内で著作権切れとなった書籍を電子化した。そして無償でデータをダウンロード提供できる仕組みを作った。このような知識を共有しようという思想のもと生まれたのがProject Gutenbergであって今でも続いている¹⁻¹。

その後日本でも1986年に日本電子出版協会(JEPA)^{1-A}が設立され、我が国での電子出版文化の礎が生まれ、1993年には日本初の電子ブックリーダーNEC デジタルブックプレーヤDB-P1が発売され、その後のいくつかの企業から電子ブックリーダーが発売されるも、不発に終わる状況が続いた。

月日が経ち、2010年5月28日にiPadが日本で発売され、アプリケーションソフトウェア(アプリ)として、電子書籍が発売された。iPadのタッチパネル式カラー液晶ディスプレイによって、ページを捲る感覚で読書が行えることから、一部のユーザが電子書籍の価値を再認識するようになっていった。そして、欧米では既にAmazon Kindleで隆盛を極めていた電子書籍の専用機である、電子ブックリーダーが2012年7月19日に日本で初めて楽天から発売された。国内初号機種となったKobo Touchはサービスイン時に多発したトラブル、ユーザへの不誠実な対応、日本語書籍の準備不足で輦轡を買った。しかし同年10月25日に日本向けKindleストアが開店し、11月19日にKindle Paperwhite(初代)がカットオーバーし、いよいよ日本における電子書籍文化が開花しようとし始めている。

本論文では、電子書籍について歴史や仕組みについて振り返りながら、今後の展望を述べていく。

2. 電子書籍を見る手段

電子書籍は、読む側はコンピュータに「ビューワ」というアプリケーションソフトウェアをインストールすることで事前準備が整う。一方出版・配信する側はビューワで表示できる「フォーマット」ファイルを準備し、ビューワは受け付けられる「型」でどのように見せたいかを事前に定めておく必要がある。また配信する側から読む側に向けて、どのような手順で配信するかも決めておく必要がある。

現在の電子書籍を読む道具(デバイス)は、大きく分けて3種類あり、

- パーソナルコンピュータ(PC)で読む
- タブレット型コンピュータ(タブレット)やスマートフォンで読む
- 専用のコンピュータ(電子ブックリーダー)で読む

に分けられる。

はじめに PC で読む場合のメリットは、大画面で見ることが可能であるものの、多くの場合マウス操作で読書することになり、また PC を使うことで手許で本を読むという感覚とは乖離する。

次にタブレットの場合のメリットは、PC と同様に読書以外の目的にも利用でき（汎用性）、主流がタッチパネルゆえ、タッチパネルの操作性が本の捲りに似た感覚で読書することができる点にある。しかし、大抵のタブレットは、透過光式液晶ディスプレイを使用しているため、4 章で後述するようにバックライトの青色光成分で視覚疲労が起こりやすいと考えられる。

最後の電子ブックリーダーは、現在は E Ink という電子ペーパーを利用したもののうち白黒階調画面のもののみが国内で流通している。電子ペーパーは多くのカラー液晶ディスプレイと違い、反射光で文章を読むので、紙の本に近い感覚で読書することができ、加えて視覚疲労も少ないという測定結果が出ている。

本論文では主に電子ブックリーダーを元に議論していく。

3. 電子書籍のフォーマットと型

電子書籍データには「フォーマット」と「型」というものがある。フォーマットは電子書籍を普及させたい企業や団体が取り決めた電子書籍の規格のことを指す。

例えば、主なものに以下のような「フォーマット」がある。電子書籍ストアによって、入稿できるフォーマットが決まるため、実際にはそれに則って制作することになる。

3.1 EPUB

EPUB フォーマットは、米国の電子出版標準化団体である国際電子出版フォーラム (International Digital Publishing Forum: IDPF) ^{3-A} が 2007 年 9 月に制定したもので、現在の規格は EPUB 3.0 である。EPUB 3.0 策定に際して、日本国内で「電子出版物ならびに各種情報媒体の企画・編集・制作を目的とする、出版社、電機メーカ、ソフトハウス、印刷会社など業界を越えた会員社が一体となって、必要な研究や活動を行」っている日本電子出版協会は 2010 年 4 月に “Minimal Requirements on EPUB for Japanese Text Layout” ³⁻¹ を公開した。その中で(1)日本語の縦書き、横書き、日欧混濁文の取扱い、(2)禁則処理、(3)ルビ、傍線、約物表記について要望を出した。また EPUB 3 の Enhanced Global Language Support サブグループのコーディネータに日本電子出版協会の村田真がコーディネータに選ばれた ³⁻²。EPUB 3.0 の国際化に対応させるのに貢献し、2011 年 2 月に Overview の “Working Group Draft” を発表し ³⁻³、10 月に “Recommended Specification” が発表された。 ³⁻⁴

このような経緯から日本でも導入されるものと思われたが、エディタやビューワの縦書き対応が 2013 年頃から増えてきたため、国内でも徐々に浸透し始めてきている。また、出版社を中心とした日本電子書籍出版社協会(2014 年 2 月 9 日現在 35 社加盟)が、「EPUB3.0 日本語組版要望表」 ³⁻⁵ を 2012 年 6 月に公開し ³⁻⁶、日本の出版社が求めている組版表現を EPUB 3.0 に採用されることを要望した。そして現在も IDPF で議論されて続けている。出版界も協働しながら育んでいるフォーマットであるため今後に期待されている。また、Apple、Google、SONY、Barnes & Noble でも実際採用しているフォーマットなので世界的な実績として優位なフォーマットといえる。また、公益団体が開発したものなので、出版社や電子書籍ストア運

営会社に対して無償提供されるというメリットもある。

3.2 XMDF

XMDF (ever-eXtending Mobile Document Format) フォーマットは、シャープが zaurus 向け電子書籍フォーマットとして 2001 年に発表したものである³⁻⁷。そして、国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission: IEC) IEC 62448 : 2009 として国際標準化されたフォーマットとなった³⁻⁸。現在は XMDF 3.0 が最新版である。

3.3 .book

.book (ドットブック) は、1992 年に電子出版のために設立されたボイジャーが 2006 年 6 月に発表した電子書籍フォーマットである³⁻⁹。

専用のビューワ “T-Time” が必要だが、PC やタブレットの他、iPod のような携帯音楽プレーヤーや PSP のような携帯ゲーム機、デジタルカメラの液晶ディスプレイ、フィーチャーフォンの液晶画面でも読書ができる仕様となっている。

3.4 AZW

米 Amazon が提供する、電子書籍フォーマット。仏 Mobipocket が開発した MOBI フォーマットという電子書籍フォーマットを Amazon が Mobipocket を買収し、DRM (Digital Rights Management : デジタル著作権管理) 処理したものとされている。Amazon では、Word、HTML、MOBI、EPUB、Rich Text Format、Plain Text、XMDF 形式で作成されたファイルを Amazon が開発した KindleGen という AZW 変換ツールで作成するので、AZW のフォーマット仕様自体は公開されていない。

しかし、Amazon で電子書籍を販売する場合は AZW に変換することが要求されるので、多く使われているフォーマットである。

3.5 PDF

PDF (Portable Document Format) は、米 Adobe Systems が 1993 年に発表した電子文書フォーマットである。他のフォーマットと異なり、特定の環境に左右されず、どの環境でもほぼ同様の状態で文章・画像が表示される WYSIWYG (What You See Is What You Get : 「あなたが見たものをそのまま得られる。」という意。) フォーマットである。現バージョンは PDF 1.7 Adobe Extension Level 8 だが、2008 年 7 月に国際標準化機関 (International Standard Organization : ISO) から、PDF 1.7 が、ISO 32000-1 : 2008³⁻¹⁰ となり、名実ともに標準ドキュメントフォーマットとなった。そして電子書籍の世界でも使われる方式となった。また、冊子体の書籍を画像データ化して、タブレットに取り込む行為は「自炊」と呼ばれるが、自炊にも PDF が使われることがある。

3.6 その他

他にも、Adobe Flash のマルチメディアファイルフォーマットである SWF (Small Web

Format) で作成されたものや、フォントや組版ソフトウェアを開発・販売するモリサワが開発した McBook のような作り込みソフトウェア型の電子書籍も存在する。これら作り込みされたものは、電子書籍専用機やビューワソフトウェアは不要で、アプリケーションソフトウェアとして動作する。そのため、動画を差し込んだり音を出したり等、製作ソフトウェアの許す範囲で、独自の仕様を作ることも可能である。

一方、「型」とは電子書籍でのページの表示方法の違いを表す。型には、大きく「リフロー型 (reflowable)」と「フィックス型 (固定レイアウト型、画像型とも: fixed layout)」とがある。リフロー型はレイアウト情報ではなく、テキスト情報のファイルで構成される型である。ファイル内に本文情報のほか、段落や見出し、ルビ、傍線、約物の表示指示といった情報を持っている。ファイルの表示指示に従い、ビューワ側で表示を行う。これによって、文字の大きさを読者の思う通りに変更でき、レイアウトも指示に従い、ビューワが表示できるかたちで表示する。更にテキスト情報なので、ファイルサイズがコンパクトになるという利点もある。そして現在の電子書籍の主流の形式となっている。

もうひとつのフィックス型は、ページレイアウトそのままに画像のように表示する型である。そのため、PC のような大画面で読む場合はページ全体を見渡すことができるが、スマートフォンのような小さい画面で読もうとすると字が小さ過ぎて見ることにできない場合がある。そのためタッチパネル式のビューワで閲覧するときは、ピンチ (2 本指でタッチし、指間を広げる動作) することで拡大して読むことになる。主に画集、写真集、マンガ、雑誌に利用されている。

また、リフロー型とフィックス型の双方の機能を備えたものとして「ハイブリッド型」というものもある。図表が混在した書籍を発行する際に用いられることが多い。

4. 電子書籍のメリット、デメリット (読者の立場)

電子書籍で読書するにあたり、読者にとって冊子体の書籍と比較してどのようなメリットがあり、またどのようなデメリットがあるかをまとめてみた。

4.1 メリット

・ 安価である点

冊子体の書籍と比較して、大抵の電子書籍ストアでは、同じ著作物であれば値引きして販売している。日本の場合、米国の電子書籍ストアほど値頃感はない。だがそれでも 2 割程度は安いケースが多いと感じられる。理由として一般的には紙に印刷し、流通させるよりも低コストで済むからと言われているが、書店や取次店へのマージン差額はあるものの、電子書籍化のためのプロセスが黎明期であるため、人に頼らざるを得ない状況と考えられ、大きくコストダウンできるとは考えられない。私論だが、特に文芸作品やマンガの場合、最新刊が電子書籍化されるケースは少ないため、競合相手が古書店となり、古書店の価格と競争する必要があるからだと考えている。また、2012 年 10 月 25 日に日本向け Kindle ストアが開設されてから、「電子書籍のみ」で刊行する作品が生まれてきた。例えば朝日新聞社が、Amazon Kindle Store、楽天 Kobo、SONY Reader Store、Apple iBookstore、BookLive! で刊行している「朝日新聞デ

「デジタル SELECT」は、朝日新聞、週刊朝日、AERA の連載記事を再編集し単行書化したブックレットだが、価格を 200 円 (Kindle, Kobo 一部 99 円)、210 円 (Reader Store、BookLive!)、250 円 (iBookstore) と安価で販売している。また電子書籍は制作から入稿までの知識や税務手続き等の手間も最初にかかるものの、それさえ済ませられれば出版社、印刷会社、取次店、書店等他者に依頼せず、個人でも出版することができる。そのため個人版元として出版することができ、結果的に低価格に抑えることが可能である。また、タブレットのアプリケーションソフトウェアや音楽ダウンロードを電子決済で購入するスタイルも定着してきた。しかしそれらの殆どは 1 作品無料～数百円程度のものなので、電子書籍に対しても同程度のコストしか掛けたがらないとも考えられる。この点は今後調査も必要だと感じている。

また、電子ブックリーダは白黒電子ペーパー型のものに限れば、7,980 円 (Kobo glo) ～ 14,980 円 (Kindle Paperwhite 3G) である。紙の書籍との差額を仮に 200 円と仮定すると、75 冊で償還することができるので、2 年で機器を交換すると考えると、最も高価な Kindle Paperwhite 3G でも月 3 冊以上で読書する人であれば償還するし、Kobo glo であれば 40 冊で償還できるため、本の虫やマンガの虫であれば、あっという間に償還できる可能性がある。

- キャンペーンが多い点

電子書籍は再販制度に則っていないため、電子書籍ストアがセールやキャンペーンを行うことが多い。去る 1 月 21 日から 28 日まで 1 週間楽天 Kobo で角川グループの電子書籍が全点 70% オフのキャンペーンを行ったところ、Kindle ストアも追随し、両店とも 70% オフで購入できる機会が生まれた。これは特殊な例ではあるが、どの電子書籍ストアも何かしら通常の電子書籍の価格から 20 ～ 50% オフのキャンペーンやポイント還元率を上げるキャンペーンを行っているのが常態化している。そのため、並んでいる本の中から選んで本を読むタイプの「本の虫」にとっては、安価に読書する機会が増えた、と捉えることも可能である。

- すぐ読める点

電子決済が済んで、ダウンロードすれば、即読めるのがメリットである。特に Kindle の場合、事前に決済に関する情報を登録しておけば、ワンクリックで購入、ダウンロードが行える。そのため、1 分以内に読書することができることを PR ポイントにしている。(図 1)

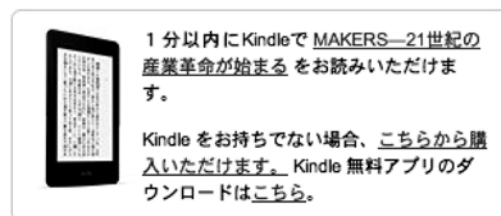


図 1 Kindle ストアでは、冊子体と両方販売されている書籍は Kindle 版を購入することを奨めるバナーが表示される。
(<http://www.amazon.co.jp/> より引用)

- ・ 場所を取らない点、再ダウンロード可能である点

電子書籍は、データとして読書する電子ブックリーダーの中に入っている。そのため、冊子体の書籍には付き物の物理的な場所の煩わしさから解放される。また、購入データは電子書籍ストアのサーバ上にも履歴として残っているため、再ダウンロード可能なケースが殆どである。また昨今の震災等での書棚倒壊による被害や復旧を勘案すると、場所を取らず、また読書していた電子ブックリーダーを破損、紛失、買い替え等した場合でも、再ダウンロードすることでいつでも読書することが可能である。

- ・ 疲労が溜まり難い点

口頭試問で電子書籍を利用しない理由を著者の周囲にいる知人に尋ねると、「電子書籍は目が疲れる。」という回答を得ることが多かった。しかし、電子ペーパーのような高コントラストで反射光の表示デバイスであれば、紙に印刷された本との視覚疲労の測定実験で有意差はない、と結論づけている⁴⁻¹。しかし、透過光式の液晶ディスプレイタブレットと電子ペーパーとで同様の測定実験を行ったところ、液晶ディスプレイでの読書において、「目が疲れる」、「目が痛い」、「目が重い」、「目が乾く」の項目で電子ペーパーより視覚疲労の自覚症状が強く、光学フィルタで液晶バックライトの青色光成分を減衰すれば視覚疲労を軽減できる可能性があるとの報告がある⁴⁻²。また、日本での電子書籍の売上シェアは全書籍のうちの6.91%だが⁴⁻³、⁴⁻⁴、米国では2012年に書籍全売上の約20%が電子書籍によるものとの報告もあり⁴⁻⁵、米国の3分の1程度の規模である。このことから、日本においては疲労以外にも心的バイアス等で電子書籍を敬遠する傾向があるのではないかと予想できる。

4.2 デメリット

- ・ 電子書籍のタイトルが乏しい点

和書のタイトル数について楽天 Kobo が 201,565 件、Amazon Kindle Store が 175,302 件、SONY Reader Store が 127,709 件、(全て 2013 年 2 月 10 日調べ)であるが、丸善書店・ジュンク堂書店のネットストアで在庫ありの和書点数が 339,778 件と、タイトル数が大きく乖離している点が読者にとっては厳しい評価を付けざるを得ない。特に新刊本やベストセラーで電子化されていないケースも散見される。例えば SONY Reader Store では、第 150 回芥川賞・直木賞の 3 作品(小山田浩子『穴』、朝井まかて『恋歌』、姫野カオルコ『昭和の犬』)が全て扱われておらず、楽天 Kobo でも『恋歌』が扱われていない(全て 2014 年 2 月 9 日時点)等、読者が欲しいと思われる話題の本が取り揃えられていないケースが散見される場合があるため、期待を裏切ることがあり得る。このタイトル数が少ない点が最大のデメリットと考えている。また、これだけの点数があっても、ジャンルの中心は販路拡大を期待するライトノベル、マンガ、ハーレクインをはじめとしたロマンス小説が中心であり、文芸書、学術専門書等に乏しい点は否めない。(但し、米洋書については、これらのジャンルは取り揃えが充実していて、特に著者の関わる情報学系の書籍は電子書籍が読者との親和性が高いこともあり充実している。)

- 電池で駆動する点

現在市販されている電子ブックリーダーは充電電池で駆動する。そのため充電の必要が生じる。しかし電子ペーパーを使用しているのでページ捲り時およびフロントライトにしか電力を使用しない。そのため1回の充電で通常は10000ページ程度読書することができ、使用上問題になることも少ない。

- 防水仕様になっていない点

現時点では国内で販売されている全ての電子ブックリーダーは防水機能を備えていないため、浴槽で読書を行う場合は、防水式のスマートフォンかタブレットを使用することになる。そのための対処法としてジッパー式防水袋に入れて読書する方法が考案されている⁴⁻⁶。

以上のような点が、メリット、デメリットと考えられた。

5. 電子書籍のメリット、デメリット（著者、版元の立場）

電子書籍で刊行するにあたり、著者や版元にとって冊子体の書籍と比較してどのようなメリットがあり、またどのようなデメリットがあるかをまとめてみた。

5.1 メリット

- 個人や零細出版社、同人でも気軽に発行することができる点

Kindleストアや楽天 Kobo、iBookstore は、Amazon Kindle ダイレクト・パブリッシング (KDP)⁵⁻¹ や Kobo Writing Life (KWL)⁵⁻²、iBooks⁵⁻³ という電子書籍出版サービスを利用して個人でも電子書籍を販売することができる。更に出版時の手数料やコンテンツ管理料等は取られず、売上に伴う、マージンが控除される仕組みのため、初期費用がかからない。そのため大学研究者個人や在野研究者のみならず、同人が費用負担なしで電子書籍を発行するケースが国内でも生まれている。ただし KDP と iBooks は米国にある Amazon.com および Apple との契約、KWL はカナダにある Kobo との契約となるため、それぞれの法令に遵守して発行することになる。だが、活動を日本でしていることを初回のみ申告すれば、租税上の問題もない。この点だけ考慮すれば、誰でも気軽に出版活動を行うことが可能なのはメリットであろう。

- 入稿から短時間で出版される点

KDP については入稿から5分程度で手続きが可能で、48時間以内に出版される。今までの短くても書店で流通するまでに数週間かかっていた冊子体の出版までの時間を考えると、短納期となるため、時事問題等を取り扱う著者にとってはひとつの有効な手立てになると思われる。

- マージン率がよい点

KDP の場合、契約内容にもよるが70%のマージン率を設定することが可能である。そのため、少数数の販売でも大きな粗利を出すことが可能である。しかし、日本の銀行口座宛に国際送金を行うことになるため、手数料が控除され、経常利益に結びつかないことがあるが、専門書の

ように利益を出すことより世の中に伝えることを目指す出版物の場合には問題にならないかもしれない。

- **どこにいる人にでも届けることができる点**

専門書のように少部数印刷物の場合、書店取次店は重点的に大きな書店に配分される。あとは教科書等で採用された際に大学の書籍部等に並ぶ程度である。そのため地方都市以下の中小書店では専門書が枯渇していることは日常茶飯事となっている。しかし電子書籍化すれば、読者はどこに住んでいても同じ条件で書籍を購入することができる。洋書を購入する際のメリットと同様の効果が国内の著者に対しても与えられていることになる。

5.2 デメリット

- **書籍のクオリティの担保ができなくなる点**

商業出版社やフリーランスの編集者が欠けることにより、今までは一定のクオリティが担保された著作のみ出版されていたが、自費出版のように著者の思惑のみで出版されることも起こり得る。そのため書籍のクオリティが低下することが懸念される。しかし、2006 年を境に書籍売上高は純減しているにも拘らず、新刊点数は微増傾向にある^{5-A}。部数を少量にし、発行点数を増やしている実状や、Web による誰でも情報を発信できる実状からいえば、大きな影響はあるとは考え難い。

- **出版・印刷・書店流通関係者の仕事の機会を奪う点**

確かに商業出版物が減少すれば、単純に出版社や印刷会社、書店流通関係者の仕事の機会を奪うことが考えられる。しかし上述した通り、純減している実状を踏まえると、他の印刷物や電子出版物と冊子体出版物とのデュアル・パブリッシング、他の業態へのシフト等今までの産業の進化と衰退の波と何ら変わるものではないと考えられる。

- **電子書籍に抵抗感がある、無関心の人がいる点**

前述したように、電子ペーパー式の電子ブックリーダを用いれば、視覚疲労は紙と大差ないと結果が得られている。しかし現実的には電子書籍に抵抗感がある人があるのも事実である。また、電子書籍そのものに無関心の人もある。

前者はコンテンツ（書籍の中身）には関心を抱いているので、冊子体の書籍でも刊行されていれば読書するだろう。そのため当面の間商業出版社はデュアル・パブリッシングで対応することになるものと思われる。大手・中堅出版社であれば、システム化して社内に対応することが可能であろうが、社数的には多い中小出版社にとっては負担が大きいのも事実である。しかし、現在出版社で多く使われている DTP（Desk Top Publishing：PC を使って、出版物の原稿作成から完全版下まで仕上げる仕組み）ソフトウェアである Adobe InDesign の現バージョンである CS6 では、EPUB 3.0 縦書きにも対応しているので⁵⁻⁴、完全版下作成以前の工程までは、共有することができる。業務フローの変更で対応できるので、将来的に「EPUB 3.0 日本語組版要望表」の要件が取り入れられ、ソフトウェア的にもバンドルされた時点で全面移行で

きる出版社が増加することを期待したい。

また後者は、電子書籍そのものに無関心ゆえ、惹き付けることは何かのきっかけがないと困難である。そのため、本論文での検討は割愛する。

以上のように、著者や版元にとってもメリット、デメリット双方ある。そして前章もあてはまるが、メリットもデメリットも裏を返せば、デメリットにもなり得るし、メリットにもなり得るという性質のことが多い。今後、メリット部分を考えていくことで、新たな提案をしていきたい。

6. 最後に

今回は電子書籍に関する論文や著作について調査を行った。その中で

- ・ 電子ブックリーダをはじめとした反射光式のディスプレイもとい読書中、読了後の視覚疲労のみならず、心的疲労を減らす電子書籍閲覧デバイスが市場に提供され普及していくこと
- ・ 電子書籍ストアで提供されるコンテンツが、対象読者にとってより充実し、彼らにとって「ここで読みたい」と魅力ある電子書籍ストアが市場展開されていくこと
- ・ 相当数いると思われる、電子書籍に対して抵抗感ある人たちへの電子書籍での読書普及促進活動を行うことによって、冊子体の書籍と電子書籍との市場的にも用途別にもバランスの取れた共存共栄関係を生み出すこと

以上3点を達成することが日本において電子書籍が市民から受け容れられたときだと考えている。

著者は今後研究を進めていく上で、3つ目の「電子書籍での読書普及活動」を展開していきたいと考えた。ただ、やみくもに普及活動と称して行動をとっても成果は期待できない。そのため、これから読書普及活動に限らず、心的バイアスが理由で普及が進まなかった他の事例についても調査し、その中から心的バイアスを取り除いて導くことができたケースをもとに、電子書籍での読書普及活動に活かしていきたい。市場が活性化すれば書籍も増加し、書籍が増加すれば読者も増加する。また現在では不採算で撤退する電子書籍ストアが散見されるが、市場が活性化することで競争原理が働き、より質の高い電子書籍がより安価で手に入られる機会が増える可能性もある。今後の展望に期待しつつも、どのように関わっていくか、これから考えていきたい。

参考文献

- 1-A) 日本電子出版協会 . <http://www.jepa.or.jp/>, (参照 2014-02-10) .
- 3-A) International Digital Publishing Forum. <http://idpf.org/>, (accessed 2014-02-10) .
- 5-A) 全国出版協会出版科学研究所 . 出版指標年報 . 2013 年版 , 東京 , 全国出版協会 . 2013, 416p, ISBN 978-4-915084-00-3.

参考文献

- 1-1) Hart, Michael. "The History and Philosophy of Project Gutenberg by Michael Hart: From Project Gutenberg, the first producer of free ebooks." Project Gutenberg. 1992-08. http://www.gutenberg.org/wiki/Gutenberg:The_History_and_Philosophy_of_Project_Gutenberg_by_Michael_Hart, (accessed 2014-02-10) .
- 3-1) Takase, H.; Inoguchi, M. "Minimal Requirements on EPUB for Japanese Text Layout." Japan Electronic

- Publishing Association. 2010-04-01. http://www.jepa.or.jp/press_release/reqEPUBJ.html, (accessed 2014-02-10) .
- 3-2) International Digital Publishing Forum. "The EPub vNext EGLS (Enhanced Global Language Support) sub-group page." epub-revision : Development area for EPUB3. 2011-10-11. <https://code.google.com/p/epub-revision/wiki/EGLS>, (accessed 2014-02-10) .
- 3-3) International Digital Publishing Forum. "EPUB 3 Overview : Working Group Draft." International Digital Publishing Forum. 2011-02-15. <http://www.idpf.org/epub/30/spec/epub30-overview-20110215.html>, (accessed 2014-02-10) .
- 3-4) International Digital Publishing Forum. "EPUB 3 Overview : Recommended Specification." 2011-10-11. <http://www.idpf.org/epub/30/spec/epub30-overview-20111011.html>, (accessed 2014-02-10) .
- 3-5) 日本電子書籍出版社協会. "EPUB3.0 日本語組版要望表." 2013-06-11. <http://ebpaj.jp/youbou.html>, (参照 2014-02-10).
- 3-6) 日本電子書籍出版社協会 EPUB ビューア検証チーム. "EPUB3.0 日本語組版要望表." 2013-06-21. <http://ebpaj.jp/images/youbou.pdf>, (参照 2014-02-10) .
- 3-7) シャープ. "XMDF とは." XMDF 情報スクエア. <http://www.xmdf.jp/?/about/>, (参照 2014-02-10) .
- 3-8) IEC 62448 : 2009. Multimedia systems and equipment-Multimedia e-publishing and e-books-Generic format for e-publishing.
- 3-9) ボイジャー. "ボイジャーのあゆみ." VOYAGER. <http://www.voyager.co.jp/company/history.html>, (参照 2014-02-10) .
- 3-10) ISO 32000-1 : 2008. Document management-Portable document format-Part 1 : PDF 1.7.
- 4-1) 磯野春雄, 高橋茂寿, 滝口雄介, 山田千彦. "電子ペーパーで読書した場合の視覚疲労の測定." 映像情報メディア学会誌. 2005, Vol. 59, No. 3, p.403-406.
- 4-2) 磯野春雄, 矢口博之. "電子ペーパーと液晶タブレットで読書した時の視覚疲労の比較." 人間工学. 2013, Vol. 49, 特別号, p.330-331.
- 4-3) オリコン. "【年間書籍市場】 3年連続で減少傾向 出版社別は集英社が2年連続1位." ORICON STYLE. 2013-02-09. <http://www.oricon.co.jp/news/2021514/full/>, (参照 2014-02-10) .
- 4-4) "【電子書籍ビジネス調査報告書 2013 発行】 2012 年度の新プラットフォーム向け電子書籍市場規模は 368 億円でケータイ向けを逆転 : 電子書籍市場全体は 729 億円、2017 年度に 2,400 億円規模へ成長と予測." インプレスビジネスメディア. 2013-06-27. <http://www.impressbm.co.jp/release/2013/06/27>, (accessed 2014-02-10) .
- 4-5) "BOOKSTATS 2013 NOW AVAILABLE : Publishing's Most Comprehensive Annual Survey." Bookstats : The Center for Publishing Marketing Data. <http://www.bookstats.org/pdf/BookStats-Press-Release-2013-highlights.pdf>, (accessed 2014-02-10) .
- 4-6) miyauchi, eisuke. "kindle を使って入浴時間を有効活用." growth factor. 2013-09-27. <http://www.growth-factor.info/2013/09/kindle.html>, (参照 2013-02-10) .
- 5-1) Amazon.com. "Amazon Kindle ダイレクト・パブリッシングへようこそ." <http://kdp.amazon.co.jp/>, (参照 2014-02-10)
- 5-2) Kobo. "Kobo Writing Life." <http://writinglife.kobobooks.com/dashboard>, (accessed 2014-02-10) .
- 5-3) Apple. "あなたのブックを iBooks で." iTunes Connect. <https://itunesconnect.apple.com/WebObjects/iTunesConnect.woa/wa/bookSignup>, (accessed 2014-02-10) .
- 5-4) Adobe Systems. "eBooks: From Adobe InDesign to the Kindle Store." Adobe Systems. http://www.wimages.adobe.com/www.adobe.com/content/dam/Adobe/en/devnet/digitalpublishing/pdfs/indesign2kindle_wp_ue1.pdf, 12p, (accessed 2014-02-10) .

【付録】主な電子書籍ストア一覧（2013年2月9日現在）

電子書籍ストア名	利用電子デバイス (※対応機種されているもの)	URL	利用会社名
Kindle	Kindle	http://www.amazon.co.jp/	Amazon.com (書籍販売・プラットフォーム提供・電子ブックリーダ販売・米国) Lab 126 (電子ブックリーダ開発・製造・米国) ※ Amazon.com 傘下
Kindle	Kindle	http://rakuten.kobobooks.com/	Kobo (カナダ) ※ 楽天傘下
電子書店パピレス	パピレス	http://www.papy.jp/	パピレス
電子ブックイニシアティブジャパン	イーブックイニシアティブジャパン	http://www.ebookjapan.jp/	イーブックイニシアティブジャパン
Neowing	ネオ・ウィング	http://www.neowing.co.jp/ebooks/	Neowing
Kindle	Kindle	http://www.amazon.co.jp/	Amazon.com (書籍販売・プラットフォーム提供・電子ブックリーダ販売・米国) Lab 126 (電子ブックリーダ開発・製造・米国) ※ Amazon.com 傘下
セブンネット	セブンネットショッピング	http://www.7netshopping.jp/dgbooks/	セブンネットショッピング
ひかりTVブック	ひかりTVチューナー	http://book.hikaritv.net/	NTTぷらら ※ エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ傘下
Yahoo! ブックストア	Yahoo!	http://bookstore.yahoo.co.jp/	ヤフー ※ ヤフー傘下
GALAPAGOS STORE	シャープ	http://galapagosstore.com/	シャープ
BooksV	富士通	http://booksv.fmwrid.net/	富士通
BookPlace	東芝	http://bookplace.jp/	東芝
iBookstore	iBooks (専用アプリ) からのみ接続可	Apple (米国)	Apple (米国)
SONY Reader Store	Reader	http://ebookstore.sony.jp/	SONY ※ ソニー傘下 ※ ソニー (電子ブックリーダ開発・製造)
BookLive!	BookLive! Lideo	http://booklive.jp/	ブックライブ (書籍販売・プラットフォーム提供) ※ 凸版印刷傘下 三倉書店 (電子ブックリーダ販売) NEC (電子ブックリーダ開発・製造)
Kinoppy	Reader	http://kinoppy.jp/	紀伊國屋書店
honto	honto	http://honto.jp/ebook.html	トウ・ディファクト ※ 大日本印刷傘下
Knowledge Worker	丸筆	http://kw.maruzen.co.jp/	丸筆 ※ 大日本印刷傘下

報 告

メディアを活用した表現力の育成

塙 雅文

Ⅰ. はじめに

東日本大震災以降、宮城県の仮設住宅を高校生・短大生・大学生を中心にボランティア訪問することが重なった。平成 25 年は次の①～⑥のように 6 回実施した。

- ①平成 25 年 3 月 2 日(土)に大成女子高等学校吹奏楽部約 60 名で東松島仮設住宅を訪問し演奏した。
- ②平成 25 年 3 月 26 日(火)に日立二高・大学生・一般市民合わせて 49 名が東松島市仮設住宅を訪問した。
- ③平成 25 年 6 月 20 日(木)に茨城女子短期大学保育科 1 年約 90 名が東松島仮設住宅を訪問した。
- ④平成 25 年 7 月 25 日(木)に茨城女子短期大学公開講座で一般市民 34 名が東松島仮設住宅を訪問した。
- ⑤平成 25 年 8 月 26 日(月)に日立二高・大学生・一般市民合わせて 34 名が東松島市仮設住宅を訪問した。
- ⑥平成 25 年 12 月 23 日(月)に那珂高校・多賀高校・太田一高・日立二高 OG・一般市民合わせて 35 名が東松島仮設住宅を訪問した。

その間新聞、ラジオ、テレビなどのメディアで活動が紹介された。ここでは、参加者がラジオ番組に出演し、その後の作文にどのような影響を与えるかを考えてみたい。

Ⅱ. ラジオ番組出演

トーク番組に出演し、自分の意見をまとめることができる。25 年は 3 度の番組に出演した。IBS 茨城放送のいっセイの SAY ! 「ほっとボイス」という番組である。月～水 17:15 から 17:25 までの 10 分間という短い番組だ。3 月 7 月 12 月のボランティア活動終了後に出演した。依頼は私一人であったが、毎回必ず参加者を連れて行った。これは、一人でしゃべるとどうしてもマンネリ化してしまうと思ったからである。

各回の記録、感想、参加者の作文を紹介する。

1. 4 月 2 日(火) いっセイの SAY ! 「ほっとボイス」 17:15 ～ 17:25 IBS 茨城放送

司 会 さとう一声 (P)

出席者 茨城女子短期大学 塙雅文

常磐大学 1 年 H、M 日立二高 2 年 S、A

P「今日は東日本大震災の仮設住宅を訪問してボランティアを続けている学生の皆さん、高校生が 2 人と大学生が 2 人そして引率の先生が 1 人という 5 人にスタジオに入ってもらいました。先生から一声いただけますか。」

塙「はい、こんにちは。茨城女子短期大学の塙と申します。よろしくお願いします。」

P「塙先生、現在は茨城女子短期大学ですが、以前日立二高にいらしたんですよね？そういう縁で引率をしておいで下さったということですよね。そしてそのお隣はHさんかな？」

H「はい」

P「Hさん、今は大学生ですか？」

H「はい、大学一年生です、そしてそのお隣は制服着てるから高校生ですね？」

S「はい、そうです。」

P「お名前は？」

S「Sです。そしてそのお隣は大学生かな？」

M「Mです。」

P「大学一年かな？」

M「一年生です。」

P「そしてそのお隣は高校生。」

A「Aです。」

P「ちょうど先輩と後輩の二人ずつみたいな感じでいらしたんですが、みなさんは一緒のサークルかなにか、やってるんですか？」

H「いや違います。」

P「みんなバラバラのサークル？」

H「サークルではないのですが、塙先生に教えてもらったっていう過程が同じですね。」

P「担任の先生が塙先生だったということなのですか？」

H「いや。」

P「あ、担任ではないのですか。なるほどその辺は後でじっくりとお話していきたいと思うんですが、塙先生そもそもこの活動、東日本大震災の被害を受けた宮城県の仮設住宅を訪ねていろんなボランティアをやりようと思ったのは、何がきっかけだったんですか？」

塙「3.11のときに日立二高で実際に震災にあい、一晩過ごし、そしてまた春休み頃、日立市内をボランティア活動で歩いたんですよ。その活動も生徒たちが積極的に参加して、延べ66名でした。期間が3月20日から4月9日までの12日間でしたが、その期間によくやってくれました。」

P「まず、自らも被災者だったわけですよね。」

塙「そうですね。」

P「だから、被災者の苦しみとか必要なものが分かったということなのでしょうか。」

塙「そうですね。」

P「やはり、少しでも力があるならば現地に行ってボランティア活動をやらなければいけないなと。」

塙「茨城では、だいたい5月6月7月になると落ち着いてきました。しかし、石巻や東松島の話を知るとまだまだ大変だという状況が分かりましたので、なんとか行けないかと考えていました。」

P「なるほど。今日は4人の生徒さんに来て頂いているのですが、実際は何人くらいの生徒さんが延べでいらしたんですか？」

塙「そうですね、今まで23、24、25と3年間にわたって、約300名の高校生、短大生、大学生が参加しております。」

P「延べで300名にもなるんですか。それぞれの平均的な活動はどのようなスケジュールで行われ

たんですか？」

塙「基本的に日帰りで行くというスケジュールでやっています。朝6時半に日立を出発して現地に12時頃着きまして、食事をして12時半から2時半までの交流ですね。2時間の間に歌、踊り、読み聞かせさらにマッサージをしてあげて住民との交流をしています。」

P「歌、踊り、読み聞かせそしてマッサージですか？朝ずいぶん早いですよね？朝、寝過ごしたりしませんでした？」

H「大丈夫でした。」

P「逆に緊張して、早めに起きたりしましたか？」

H「そうですね。行くのもある意味、楽しみになってきました気がしますね。」

P「なるほどね。このように300人も参加してくださってるんですが、塙先生から行こうよって言われたから行った訳じゃないですよね？動機がおありだったのではないですか？」

H「自分たちにも、大震災が起きて今自分に何ができるのかを深く考えることがありました。その際自分にも何かできることはないかと感じ参加しました。」

P「例えば、歌を歌うあるいは読み聞かせをするとかですね、ボランティアを考えていらしたんですか？」

H「そうですね。自分は楽器とかは弾けなくてそういうのはできないのでお年寄りの人たちと交流してお話を聞くだけでも心は全然違うので話を聞いて深くうなづくことなどをやっていました。」

P「話を聞いてあげるっていうのは、大切なことですよね。Hさんもやはり、実際被災者側であったわけですよね。Sさんはテナーサックス吹くんだって？」

S「はい。」

P「向こうで吹いた？」

S「吹いてないです。」

P「どんな、ボランティアしたんですか？」

S「皆さんとても明るくて私たち逆に元気をもらったという感じがしたのですが、仮設住宅内でも協力しあって、生きる力を感じることができました。」

P「ボランティアで励ましに行こうと思って行ったのに、逆にもらったと。例えば、どんなところで励まされましたか？」

S「明るくていっぱい話しかけてくれて、こっちからも話かけたのですが、いっぱい話してくれることが多く、笑顔で、歌を歌ったときも手拍子とかしてくれました。」

P「嬉しいですね。お互いに元気を交流したということなんでしょうね。Mさんは、行ったメンバーとの活動は、住民の皆さんにとってどんなものだったと思いますか？」

M「震災で心の傷が癒され、私たちの交流をきっかけに前向きな気持ちになっていただければいいなと私たちは思っていたのです。結局行ってみれば、自分たちの方が元気になるきっかけをもらう方が多かったですね。」

P「行って元気になって帰ってきたんだ？」

M「なんか、生きる力をもらいましたね。」

P「塙先生、やはりそうなのですね。」

塙「だから、私自身も元気がない時こそ被災地に行きたいと思うようになりましたね。元気をもら

いにいこうと。」

P「そうなのですか。Aさんね、交流して元気をもらうのですが、それだけじゃなくてその元気をまた向こうに返すっていうのもありますよね。どんなことができると思いますか。」

A「また、被災地を訪れて被災者の心を癒したり、マッサージなどをして少しでも気持ちが楽になれるように自分たちが行動できたらなと思っています。」

P「例えば、お年寄りの肩などマッサージしてあげたのですか？」

A「はい、しました。」

P「マッサージしながらどんな話をしたのですか？」

A「普段はどんなことをしているんですか？趣味は何ですか？それから被災者の方が震災のときにあった出来事を話してくれました。」

P「それを、マッサージしながら聞いて、どう思いました？」

A「自分たちも被災者なのです。でもやはり被害が大きかったんだなって話を聞きながら思いました。」

P「その被害に大きい小さいはないと思いますが、いらした町が大変悲惨な状況だったというのが分かってる訳ですよ。その中で明るいついていうのはすごいことですよ。塙先生、本当に交流というかボランティアで向こうに行ってみなさん本当に『思いみたいなもの』を心の中に持っていていらっしゃいますね。」

塙「この活動の参加人数がどんどん増えています。最初は14人とか15人くらいでしたが、その次が30人、さらに60人に増えています。この次また、6月、7月に行きますが参加人数がどんどん増えてきている。今度短大の方でも約100人行く予定でいます。活動の輪がだんだん広がっているんで、一番それが嬉しいですね。」

P「なるほどね。とにかく行って話を聞いたりすることがひとつの大切なことですが、今後この活動どのようにしていきたいと思いますか。」

塙「多くの若い人たちに被災地石巻・東松島を見てほしいと思いますね。そして、交流を深めてほしいと思います。」

P「みなさんも、こうだったよっていう話をしてあげてほしいな。今日は日立市の高校生と大学生の皆さん4人そして塙先生にお越しいただきました。東日本大震災の仮設住宅を訪問し続けているボランティア活動についてお話いただきました。皆さんありがとうございました。」

感想

1回目は高校生2人と大学生2人に参加してもらった。Hさんは高校時代からともに震災ボランティア活動をしてきた。3月2日に東松島からHさんに電話をした。また行きたいという熱意が感じられた。3月下旬の活動に参加し、ラジオ番組に出演した。5人で話をしたので、司会の方が大変だった。なかなか打ち解けず、司会者が参加者の関係を理解するまで、時間がかかった。全員が初めてだったのでかなり緊張した。文字化するにあたって「えー。」「そうですね。」「やはり。」という言葉を多用していたので省略した。

2. 4か月後のHさんの作文

一本の電話から

常磐大学 2年 H

「8月26日の被災地ボランティアに行かないか？」

今年もありがたく塙先生から連絡をいただいた。私が被災地ボランティアに行くきっかけになるのはいつも塙先生がきっかけだ。

いつものようにバスで片道5時間かかる宮城県東松島市に向った。この5時間と言う数字は普通の感覚ではなくとても貴重な5時間であると感じている。東松島市に到着し、仮設住宅で年配の方との交流、Iさんによるバスでのあの日と現在の状況説明、被災地見学という流れであった。しかし今までと異なるのは、被災地見学で危険区域の石巻ブロックを視察させていただいたことだ。安全のためヘルメットと専用のマスクを装着した。私は処理現場に約15分程度しかいなかったがその状況を記録として残すためスマートフォンを出した。そこで私は驚きを隠せなかった。なぜなら、ほこりや煙などの粒が大量に画面についたからである。このことを考えると、たった15分程度しかいない私の画面が空気上に舞っているほこりによって画面に大量についていることに対して、石巻ブロックで働いている人たちは何時間もあの場所で作業している。マスクをしていたにも関わらず異臭がし、目にはほこりが入ってしまった私より何十倍も、何百倍も異臭がし、ほこりがついてしまうと想像すると恐ろしくもあり、同時に誇りの気持ちさえ出てきた。

石巻ブロックで働いている人たちはIさんがバスの中で話してくださったように、手にはイボや湿疹が出てき、体調を崩す人がある。そのような状況のなかであるにも関わらずあの場所で、あの状況で、あの環境で作業をすることは私には想像できなかった。あの悲しくもあり、二度と起きてはならない状況を体験してきた人たちの強く、真っ直ぐな信念なのではないかと感じた。

仮設住宅ではある一人の年配の方と会話をした。前までは被災経験を聞いて、何かを感じ



石巻ブロックの分別作業

じよう、何かを今後伝えようと考えていたが今回の想いは前回と違った。それは、相手にたくさん話させよう！相手の話を聴こう！相手の話を聴きたい！最近あった楽しい話や、困った話、愚痴など普段友達と会話しているような感覚で会話したいと感じた。その方と話をするたびに笑いが止まらなくなり、楽しくなった。確かに、あの日の記憶を思い出させていただいて、あの日に起きたこと、感じたことを聴くより私は普段の何気ない会話を沢山したいと感じたからだ。悲しい経験を思い出させて話すより、今何したいか、何がほしいか、昨日は何をしたか、おしゃれな服はどこで買ったのか、お化粧が上手なので教えてほしいなど本当に何気ない会話をした方が前をみていられるのではないかと考えたからだ。その方は私に笑いながら言ってくれた。

「はじめて会った気がしないね。楽しいね。こういう会話またしたいね」と…。

あの方は私にとって第二の大好きなおばあちゃんである。たった一本の電話から私の世界が広がった。

①ラジオ番組でのHさんの発言

「そうですね。自分は楽器とかは弾けなくてそういうのはできないのでお年寄りの人たちと交流してお話を聞くだけでも心は全然違うので話を聞いて深くうなづくことなどをやっていました。」

②4か月後のHさんの作文

「仮設住宅ではある一人の年配の方と会話をした。前までは被災経験を聞いて、何かを感じよう、何かを今後伝えようと考えていたが今回の想いは前回と違った。それは、相手にたくさん話させよう！相手の話を聴こう！相手の話を聴きたい！最近あった楽しい話や、困った話、愚痴など普段友達と会話しているような感覚で会話したいと感じた。」

・今回Hさんは石巻ブロックを見学し、被災地の現状をさらに知ることになり、相手への寄り添う気持ちの深化が考えられる。

3. 7月29日(月) いっセイのSAY! 「ほっとボイス」 17:15～17:25 IBS 茨城放送

司 会 さとう一声 (P)

出席者 茨城女子短期大学 塙雅文 日立二高OG Y

P「さて、今日のこの時間ですが、東日本大震災以降、高校生や大学生などと一緒に継続的に被災地ボランティアに取り組んでいらっしゃる茨城女子短期大学の塙雅文先生、そして教え子のYさんにスタジオでお話をお伺いしたいと思います。塙先生おひさしぶりでございます。」

塙「はい。」

P「前にもあの、夕刊ほっとでした？それともいっセイのSAY…。」

塙「いっセイのSAY! です。」

P「出ていただいたんですね。ありがとうございました。」

塙「はい。」

P「Yさんはまだ、お見えになってくださらなかった。」

Y「はい、そうですね。」

P「今回初めてなんですが、あれ以降も現地で様々なボランティアに取り組んでいらっしゃるの、その辺のお話を今日はお伺いしようと思うのですが。まず、前にもお伺いしたかもしれないのですが、塙先生がこのようなボランティアをやりようとしたキッカケはずっと前の阪神淡路大震災だったんですね。」

塙「はい、18年前になりますかね。1月にありまして、そのときまだ日立二高にいました。次の年に神戸に修学旅行に行くことになっていました。次の年見られればいいなあ、生徒と一緒に行ければいいなあと思っていました。次の年に行ったら、もう復興終わっちゃったんですね。」

P「うーん。」

塙「すごい早さで復興終わってしまっ、なにもしないで終わってしまった自分にちょっと腹が立ったものですから。」

P「生徒さんたちと一緒になんかこうお手伝いできればいいなという形に思っていたらなんかこうそのチャンスを逃してしまったということですね。」

塙「はい。」

P「なるほど、日立二高ですが、そこで塙先生はずっと教鞭をとられていて。」

塙「はい。」

P「今日お見えになったYさんも日立二高の出身ですか？」

Y「はい、そうですね。」

P「Yさんも先生にお世話になったんですか？」

Y「いえ全然、授業も教わったことがなくて。」

P「えっ。」

Y「ありません。なぜこんなに知り合いになったのかなと自分でも謎に思うくらいでした。」

P「ほう、そっか。塙先生の授業は受けたことがない。」

Y「はい。」

P「そうすると、塙先生のボランティア授業をお受けになったということなのかな。」

Y「はい、ボランティアで知り合いになってから、だんだん、お誘いがきて。」

P「うん。」

Y「そこからだんだん誘われて、少しずつ距離が近くなったというか、近づいてという感じですね。
はい。」

P「Yさんは今、日立二高ですか？」

Y「いえ、もう卒業しました。」

P「あっ、卒業した。」

Y「はい。」

P「今はじゃあ茨城短期大学にいらっしゃるのですか？」

Y「いえ、そういうわけではないです。」

P「あっ、そういうわけではない。」

Y「はい、ふふ。」

P「じゃあ全然学校の関係なしに、塙先生と一緒にボランティア活動をされているということですね。」

Y「はい。」

P「先生すごいですね。そういうボランティアのネットワーク、『つながり』というか。最近でいう『絆』、広がってるのですね。」

塙「はい。それは本当にすごいと思うのが、普通、教え子とのつながりというのは卒業すればだいたいは切れてしまうんですよ。ところがボランティアのつながりは卒業してから、東京とか地元であるとか、様々な仕事に就いても、『また一緒に行きましょう。』っていうんですよね。」

P「なるほどね。それはすごいですよね。この25日にも大学の公開講座ということですか？」

塙「はい。」

P「継続的に行っていらっしゃる石巻ですか。」

塙「はい。」

P「また40人。」

塙「はい。」

P「生徒さんを連れて。」

塙「あ、それは、社会人。」

P「これ社会人の方なんですか。そうすると社会人にまで広がって。」

埴「はい。」

P「これはどういう形で広がって。」

埴「今まで、高校生と大学生、あとは教員が多かったのですが今度は公開講座という形で60代70代80代、なかには90の方もいましたが、まあそういう一般人の方にも被災地の現状を知っていただく。そしてまた震災、津波の恐ろしさをまた検証してもらおうと思って、募集したんですよ。すると反響が大きくて、約40名の人と一緒に行くことができました。」

P「あつという間にバス1台分人数が集まったんですね。」

埴「はい。」

P「埴先生はずっと石巻行ってらっしゃるんですが、継続的にご覧になって、最近の変化というのはどんな風にお考えになりますか？」

埴「向こうに大川小学校とか門脇小学校という大きく被害を受けたところがあるんですが、そこを保存しようとか、あとは壊してしまおうという2つの流れがありまして。」

P「うん。」

埴「正直申し上げて、このままだともうすぐ壊されてしまうんじゃないかなという感じがしました。だから、なくなる前にそういうところを見て心にとどめておきたいなというのが本音ですね。」

P「なるほどね。せめて保存しなくても無くなる前に記憶にとどめたい。先生の場合には、写真に記録ということですよ。Yさんも埴先生と被災地に行って活動された訳ですが、参加してどんなことを思い出になりました？」

Y「まず、茨城とは規模の大きさがすごい桁違いに違うっていうのと、あとはこっちで思っているほどそんなにひどくないんじゃないかなっていう意識が。こっちでは結構、楽観視するような見方が周りでは聞かれました。でも、実際はそうじゃないいうことをすごく伝えたいなっていうことがありますし、自分で見て、あ、ほんとにこんな大変な地震が起きちゃったんだなっていう、しかも津波まで来ちゃったっていう、なんかそういうのがどんどん、こういう回数重ねていくたびになんとかそのなんか惨状がだんだん胸にせまるものがありあした。もうこれは自分にできること、ほんとになんかその少ししかないかもしれない。だが、何かしたいっていう気持ちがだんだん強くなってくるのをいつも感じています。」

P「なるほどね。実は日立二高も被災したんですよ。」

Y「もう体育館なんかものすごい状態で、天井崩れ落ちたりしました。」

P「復旧するのにずいぶん時間がかかったのでしょ。」

Y「はい、もうだいぶ時間がかかって、でも体育館が直ったらもうみんな何もなかったかのような顔をして授業を受けていました。もうなにもなかったような雰囲気包まれるのが、なんか一人で寂しくて。なんかこんなにもう茨城で毎日平然とみんなは過ごしている。でも、本当は違うのではないかといつも学校生活の中で節々に感じていました。なんとかして向こうのことを伝えてあげたいなっていうことをすごく感じています。」

P「なるほど。被災の度合いみたいなのはもとをいえばね、ないわけですが皆さん本当に大変な目に遭ってらっしゃるわけですが、それともやはり石巻とか被災地に行くと、まだ被災の深さとかこうずっと続いている苦しさみたいなものはお感じになる。」

Y「そうですね実際その震災の後、まあ私の家の周りとかでもだいぶひどい被害とかもあったりして、まあ自宅も結構な被害はあったけど、数ヶ月もすればみんなだんだんに私生活に戻ってくる感じもありました。みんな瓦が落ちて大変な状態になってもそれが直っちゃえばもうなんでもないよねっていう感じはすごくあったので最初は全然ボランティアしようなんて思っても見なかったのです。でも実際自分の家にも実際津波が来たとかはありました。そういうので向こうの人達は実際どうなっちゃったのかなっていうのはすごく気になっていました。」

P「塙先生、やっぱり地震の被災体験っていうのはベースになっているわけですがそれはやっぱり悲しいことに少しずつ薄れて行くっていう状況がやっぱりあるんですね。」

塙「こちらの状況と向こうの状況は違うのです。向こうの場合仮設住宅、主に東松島の仮設住宅に行くことが多いのですが、そこで一人で暮らしている方が多いんです。やはりそこでできるものは物でもなんでもなく人と人との交流だろうと思うのですよね。向こうで欲しいのは心のつながりだよってということで、「なにが欲しいですか」と聞いたら『皆が来てくれることが嬉しいです』と言ってくれたので、ああそうだ、行くだけでも役に立つんだと思い、毎回は行っています。」

P「二重の意味ありますよね。要するに行くということでは向こうの人達にも届ける物があって、でも逆に僕らが日々薄れて行く被災体験みたいなものを、そうではないと言い聞かせたり、忘れないためにそのような二つの側面がありますよね。」

塙「行くたびに元気をもらってきますよね。」

P「向こうでどんな交流をされたのですか、Yさんは。」

Y「仮設住宅に行って、その近隣の仮設住宅に住んでいる方がいっぱい集会所に集まって来てくださって読み聞かせをしたり、みんなで出し物を出し合って。あと、マッサージを簡単にですけどしてあげたりとか。やはりそのマッサージをしてあげるといのがすごく気もほぐれて少し和やかなムードのなったところで自分の体験したことをゆっくり話せたりとか。でも最初の時はそういう話を聞くのも思い出させちゃって悪いなっていう気持ちもあったのですが、でも今はずっと素直に話したいから話しているのだな、伝えたいっていう思いが向こうの方にもあって話したいから話してくれているのだなっていうのがすごく感じて、大事に聞くようにしています。」

P「なるほど。そのように何回も行って交流を重ねる中で、心を開いてくださったり、いろいろな深いつながりが出来てきたのですね。さて、塙先生、今後の予定どのようになっていますか。」

塙「8月26日の月曜日、日立二高生を中心に東松島の仮設住宅に行きます。またその後は12月、



マッサージによる交流

2月、3月と予定しておりまして、来年の6月にはまた茨城女子短期大学で行くことになっています。」

P「なるほど。Yさんはどんな活動をしていきたいですか？」

Y「私は本当に一人では何も出来ない立場にいるので、できればまた先生とボランティアの会を重ねて行って、どんどん向こうの人達の話聞いて記録に残していき、周りの人に伝えたいと思います。」

P「ありがとうございました。今日は継続的に被災地ボランティアに取り組んでいる茨城女子短期大学の埴雅文先生と教え子のYさんに来ていただきました。」

感想

2回目は参加者をしぼり、私ともう1人だけにした。ボランティア回数が6回となるYさんと一緒に番組に参加した。Nさんは高校時代放送部に所属し、ビデオ撮影が上手である。震災以降日立市内や宮城県方面のボランティア活動を一緒にしている仲間の1人である。今回2人で参加した番組は、司会者のリードでうまく展開した。10分番組ではこのくらいがいいようである。会話の中で撥音便になることが多かった。普通の状態に戻し表記した。「なんか」→「なにか」「なんですか」→「なのですか」「多かったです」→「多かったです」「したんです」→「したのです」

4. 5か月後のYさんの作文

復興の光

日立二高 OG Y

12月23日。6回目となる石巻ボランティア。仮設を訪問するのは随分と久しぶりだった。

「仮設の人たちは覚えていてくれるだろうか。」行く前からそればかりが心配でバスの中で友達と話していても気が気ではなくてとても緊張していた。でもそんな心配は無用だった。

実際に着いてみると「来てくれるの、すごく心待ちにして待ってたんだよ。」「前も来てくれたビデオの方ですよ?」「また来てくれて本当にありがとう。うれしいよ。」次々と声をかけられてとてもうれしかった。その言葉で緊張が一気にほぐれ、感激のあまり泣きそうになってしまった。

「こんな自分が来ることをこんなにも待っていてくれる人がいる。そして来てくれたことを心から喜んでくれる人たちがいる。」そのことがすごくうれしくて心強く感じた。そう思うと同時に申し訳ない気持ちになった。

自分たちが励ましてあげなきゃいけないはずなのに自分自身が励まされ、助けられている。自分はそんな人たちのために何ができるだろう。毎回行くたびに考えているのに何1つできなくて「このボランティアはやっぱり自己満足なんだろうか」と思っていた。でもよく考えてみれば私たちに出来ることはほんのわずかなことしかないのかもしれない。私たちが被災地の方々の気持ちに完全になりきることなどできないし、完全に時間を共有できるわけでもない。

それをしたところで被災地の方々が喜ぶかといえばそういうことはないだろう。ただ、どんなに辛い話でも深く聞くことはできる。そして聞いた話をずっと思いに留めて忘れずにいること、周囲に伝えていくことは出来るんじゃないかと思う。

「東北が負った深い傷を少しだけでもいいから知りたい。知って何かを感じる。厳しい現実を知ってもなお笑顔で見守って応援していくこと。」それだけは私たちにしかできないことではないだろうか。この思いを一層強くさせられる言葉があった。今回ビデオ撮影しながら自治会長さんにお話を聞く機会があった。

「ボランティアに来てくれる人たちにしてもらいたいことはありますか?」そう聞くと彼はこう答えた。

「してもらいたいことって言われると来てくれるだけで本当にありがたいから、ないんだけどでも誰かが被災地のために何かしたい、ボランティアしたいと思って行動しようとしてくれたときに、

頼める仕事を僕らはいつでも準備して待ってます。仮設周辺のこまごまとした仕事からちょっと大きな仕事、また住民の方々と交流してもらったりとかやろうと思えば地域で用が済んでしまうことだけど、助けになりたいという人が少しでもいるならその人たちのために用意してあげようと思って…。人にしてもらうのは申し訳ないと思ってしまうえばよくよく悩んでしまうけどでもそういう風に考えることにしたんです。」

私たちボランティアはまだ必要とされているのだ。この土地に来て何であれ用意してくれた仕事をしっかりとやること。その仕事を一つずつしてこなしていくことが私たちに託された仕事であり、復興への光となるんじゃないか。それならば私は明日の復興への光となり続けたい。

「もう来なくて良いよ。仕事、もうないよ。」そういわれるまでとことんやりたい。

そうは言っても私たちにはボランティアだけではなく、日常の生活がある。悩みもあるし、壁にだってぶち当たる。正直、自分のことで精いっぱいボランティアをする余裕がないときだってある。それでもこのボランティアから悩みを解決するヒントをもらったり壁を乗り越えていける力を持たせてくれる時もある。

私は今回そのことを本当に感じ取ることが出来た。私は今回けがをしていた。激痛で外に出るのもきついぐらいだった。それでも私はボランティアに来て紙芝居を読み、カメラを回した。そうできたのはやっぱりこのボランティアに秘められし力だ。

「仮設の人たちに元気になってもらいたい。笑顔を見せてほしい。」その思いが私を強くしてくれた。

この日ほど痛みを忘れ、人の話に共感し、仮設の人たちと笑い、カメラを持てる喜びをかみしめた日は今までにない。きっとこんなにも思いに残るボランティアは先にもなかなかないかもしれない。案内役のIさんの「来てくれてありがとう。本当にありがとう。」の言葉が今までで一番、胸にしみた。今回は今の自分に出来る最高のパフォーマンスを見せることが出来た。

でも次にあの土地に降り立つときは絶対に治して完全復活した自分を見せに行って今回よりもっと最高のパフォーマンスをし、心配してくれたすべての人に感謝の心を伝えに行きたい。今回のボランティアは6回目だったが、いろんな意味で思いに残るものとなった。「人のために何かしてあげたい。」その思いもすごく強くなった。

このボランティアはきっとまだまだ続く。被災地が本当の復興を終えるまで形を変えながら続いていく。また「自分は何が出来ているのだろうか。」と悩むだろうし、自分を無力だと考えるだろう。そのたびに何かを発見し少しずつ大人になって復興の光になっていきたい。

①ラジオ番組におけるYさんの発言

「仮設住宅に行って、その近隣の仮設住宅に住んでいる方がいっぱい集会所に集まって来てくださって読み聞かせをしたり、みんなで出し物を出し合って。あと、マッサージを簡単にですけどしてあげたりとか。やはりそのマッサージをしてあげるとするのがすごく気もほぐれて少し和やかなムードのなったところで、自分の体験したことをゆっくり話せたりとか。でも最初の時はそういう話を聞くのも思い出させちゃって悪いなっていう気持ちもあったのですが、今はずっと素直に話したいから話しているのだな、伝えたいっていう思いが向こうの方にもあって話したいから話してくれているのだなっていうのがすごく感じて、大事に聞くようにしています。」

②4か月後のYさんの作文

自分たちが励ましてあげなきゃいけないはずなのに自分自身が励まされ、助けられている。自分はそんな人たちのために何ができるだろう。毎回行くたびに考えているのに何1つできなくて「このボランティアはやっぱり自己満足なのだろうか」と思っていた。でもよく考えてみれば私たちに出来ることはほんのわずかなことしかないのかもしれない。私たちが被災地の方々の気持ちに完全になりきることなどできないし、完全に時間を共有できるわけでもない。

それをしたところで被災地の方々が喜ぶかといえばそういうことはないだろう。ただ、どんなにつらい話でも深く聞くことはできる。そして聞いた話をずっと思いに留めて忘れずにいること、周囲に伝えていくことは出来るんじゃないかと思う。

「東北が負った深い傷を少しだけでもいいから知りたい。知って何かを感じる。厳しい現実を知ってもなお笑顔で見守って応援していくこと。」それだけは私たちにしかできないことではないだろうか。

・話を聞く、同感する。その段階から、本当に共感することはできないことに気付く。しかし、Yさんは聞いた話をずっと思いに留めて忘れずにいること、周囲に伝えることの大切さを実感したようだ。

5. 12月30日(月) いっセイのSAY! 「ほっとボイス」 17:15～17:25 IBS 茨城放送

司 会 さとう一声(P)

出席者 茨城女子短期大学 塙雅文

川村学園女子大学2年 N

P「本日は東日本大震災以降継続的なボランティアを続けている、茨城女子短期大学の塙雅文先生をお迎えして、ボランティアについて伺いたいと思います。先生よろしくお願いします。」

塙「はい、お久しぶりです。」

P「また来ていただきました。そして、今日はもう一人素敵な方に来ていただいているのです。川村学園女子大学2年Nさんです。」

N「はい、よろしくお願いします。」

P「よろしくお願いします。さて、先生。12月23日に現地でクリスマス会をやったんですよね?」

塙「はい。」

P「その時の写真を持って来てくださったのですが、これは仮設住宅ですか?」

塙「そうですね。まだまだ向こうの方は仮設住宅に住んでいるので、集会所でこういった催しをすることができます。」

P「なるほど。ある意味ではプレハブの集会場ですかね。もうここで3回目の冬を迎えていらっしゃるということですね。」

塙「はい。」

P「外の風景の写真もお持ちいただいたのですが、家が全然ないですね。」

塙「はい。その写真の場所には、以前家があり人が住んでいたのです。それが流され、今は原野状態になっているわけですね。」

P「そうですね。かろうじて道らしきものは残されていて、後は沼のような感じですね。」

埴「そうですね。」

P「しかも今寒い時期で雪も積もっていますから。そんな中で、仮設住宅でクリスマス会を行ったわけですね。」

埴「はい。」

P「Nさん、このクリスマス会何人くらいの方がボランティアとして参加されたんですか？」

N「30名以上40名未満で、学生と一般の方と大学生と、後は先生方が引率として付き添いで参加しました。」

P「バス一台で行ったのですか？」

N「はい。大型バス一台で。」

P「そうですね。今その時の写真を見せていただいているのですが、この赤い服を着た人はもしかしてサンタクロースですか？」

N「そうなのです。親切な方がいらっしゃって盛り上げてくれて、凄く楽しくできました。」

P「埴先生。良かったですね、サンタクロースが登場して。」

埴「はい、そうですね。」

P「この袋の中にはプレゼントが入っていたんですか？」

埴「ええ、高校生が小さい袋を持ってその脇にいまして、それを参加者の方たちに配りました。」

P「なるほど、喜ばれたでしょうね。」

埴「はい。」

P「皆さんどんな表情でサンタクロースを見たり、プレゼントを受け取ったりしていたんですか？」

埴「毎回思っていることですが、今回は10代から60代まで様々な年齢の方が参加したんですけれども、その中でも自分の孫のような年齢の高校生、大学生が来るってことが一番嬉しいんじゃないでしょうか。」

P「学生と一般の方というふうにNさんがおっしゃったんですが、大学生だけではなく高校生もボランティアに参加したということですね。」

N「はい。」

P「なるほど。ではいろいろな世代と交流が出来て、現地の方も喜ばれたでしょうね。このクリスマス会でのエピソードなどはありますか？」

埴「行く前に高校生が披露する歌の練習をしていたのですが、あまり練習出来なかったんです。これは駄目だ、と思っていたんですが、現地に着くまでの間に彼女たちは一生懸命練習をして、なんとか本番に間に合いました。本当にビックリしましたね。」

P「本番では素晴らしい歌を披露したということですね？」

埴「はい。到着まで5時間ほどの時間があつたのですが、その中で読み聞かせの練習や歌の練習などをやっていきます。初めの方は歌があまり合わなくて、まずいと思ったのですが、なんとかなりましたね。」

P「行くバスの中でコーラスの練習をしたり読み聞かせの本をもう一度見て、自分の中のイメージを膨らませたりしたのですね。Nさんもバスの中で聞いていて、このコーラスじゃ駄目だ、なんて思ったりしたんじゃないですか？」

N「実は前回に参加した時に自分の中に沢山悔いが残っていて、もっとしっかりとできていたらと思っていたところだったので、歌を聴いて、コーラスが小さいと思っ少し気になっていたんです。しかし本番では完成させていて、さすが若い人の力は凄いと感じました。引っ張ってもらいましたね。」

P「バスの中だったので少し遠慮していたのかもしれないですね。クリスマス会の本番には皆さん大きな声で。」

N「ハーモニーを聞かせてくれました。」

P「5時間の練習の成果ですね。向こうでは何を歌われたのですか？」

N「歌は Kiroro の"未来へ"です。」

P「それを聞いている宮城県の皆さんはどんな感じでしたか？」

塙「その写真にあるように笑顔に包まれて、希望が出てきたなと感じました。」

P「手拍子をしながら本当にいい笑顔で笑っていらっしゃる写真がそうですか？」

N「はい。目が合うとにっこりとほほ笑み返してくれて、すごく嬉しかったです。」

P「なるほど ほかにマッサージを施している写真ですか？」

N「はい。今回は一人一人が出し物を発表して、その後に交流会というかたちで、お互いに話をしながらマッサージのボランティアをしてきました。」

P「なるほど サンタさんが来てプレゼントを渡して。そして、大合唱があって… そのあと、それぞれの発表があって…」

塙「今回の特徴としては、一般の方や大学生が頑張ってくれました。特に、一般の方は参加者を巻き込んで手遊びや読み聞かせをしました。今までは、こちらから一方的だったのが、今回は一体感が感じられ、素晴らしいなと思いました。」

P「やはり回を重ねていくに従って一体感が出てきたという感じですね。」

P「震災から2年9ヶ月たって、2013年もう終わろうとしています、今年の活動を振り返られてどんな年でした。」

塙「今年は12月で6回、被災地に行っているのですが、活動の広がりを感じました。以前は、日立二高を中心に活動していました。それが、大成女子高、那珂高、多賀高、太田一高と活動の輪が広がってきました。また、一般の方も短大の公開講座以降、参加者が増えたので、すごいなと思いました。この活動の輪がだんだん広がってきたなと感じています。」

P「2年9ヶ月もたつとだんだん忘れていく… そうではなく、このボランティアの活動に関してはどんどん輪が広がっていく。Nさんは、どんなふうに感じましたか？」

N「はい。私は、まだ被災地訪問としては2回しか行っていないのですが、そのたった2回でもやはりまだ、あちらの方は復興していない。まだまだ時間はかかって、私たちにできることは少ないかもしれないけど、何度も何度も行って、現状をきちんと知ることすごく大事なことだと思いました。そして、個人の小さな力でも共有して大きな輪となっていけたらなとすごく思われた、ボランティアでした。」

P「そうだね まあ合唱みたいなものかも知れませんね。みんなで声を合わせれば遠くまで響く。こうして皆さんが手拍子をしながら笑顔になってくださるのですよね。でも、Nさん まだ何も復旧すらしていない大地を見て、どんなふうに思いましたか？」

N「見た瞬間に思ったのは、自分が知らなかったことが恥ずかしいということでした。あと、その時に何ができるのかなと思いました。」

P「確かに、一人は小さいし、個人の力は限りありますが、でも、こうやって先生がおっしゃるようにだんだんある意味で広がっていくわけですからね」

N「はい」

P「さて、来年2014年ですが この活動をどのように活動を展開していきたいと思っていますか？」

埴「はい 今後活動の輪をもっと県内全域に広げたいというのが私の夢です。来年は道德の時間に中学校や高校へ出前講座という形で行って、活動の輪が広がれば嬉しいです。」

P「なるほど この活動の体験を、その出前授業みたいなかたちで皆さんに広めていく。浸透させていきたいという…」

埴「そして また、参加者を募って一緒に行きたいと思いますね。」

P「確かに 話を聞いて想像しているのと実際に行ってみると、違いますからね。」

N「はい」

P「Nさんは来年、どのように活動したいですか？」

N「来年は、もっと自分のできる個性というか… 私は今回、朗読で少し皆さんの前で発表する機会があったのですが、もっと自分のできることを磨いていくこと。あとは、今回のように体験してきたことを、たくさんの方に伝えていけたらと思います。」

P「埴先生 今年も本当に活動の輪が広がっていい年だったのですが、また来年ももっともっと広げていい年にしたいですね。」

埴「そうですね はい」

P「本当に今日はありがとうございました。」

N「ありがとうございました。」

P「今日のこの時間は、継続的に宮城県を訪問しボランティア活動が続けている、茨城女子短期大学の埴雅文先生と、Nさんにスタジオでお話を伺いました。」

感想

3回目はもう一人の参加者は、Nさんにした。Nさんは震災後日立市・常陸太田市内と一緒にボランティア活動した仲間であった。この夏から、2回連続の参加となる。3回目の出演となると、スタジオ入りもあまり緊張しなくなった。司会者から、聞かれて話をする。これは、客観性を持った質問によって、気持ち考えが開かれる。参加者は、行動したことを思い出すたびに、感情が沸き起こり、どうしても主観的に話す。

そこを冷静に、話を導き出してくれると、よいトークができると思った。さすが、司会者はプロである。



高校生による読み聞かせ

6. Nさんの作文

これからできること

川村学園女子大学 2年 N

前回の宮城の訪問から4ヶ月後、これからの私の人生の指針を12月23日のボランティアで見つけることができました。ボランティアは新たに高校が三校も参加し、一般の方も友人を連れて参加されていました。このボランティアが人の輪を広げていることに、笑みがこぼれました。合唱、読み聞かせ、マッサージ等を通して交流を深めました。集会所に集まって下さった方を巻き込んだ演目ばかりで、互いに楽しく笑顔が溢れる時間を過ごせました。

合唱は高校生が中心で、始めは声も出ず大丈夫だろうかと心配になってしまう程でしたが、高校生の成長は早く、本番前の集会所でのリハーサルで息の合った見事な歌声を響かせ、その綺麗な歌声は私達を先導し、勢いづけてくれました。その高校生達を指導したのは恩師の塙先生です。引率の先生方が驚くほどの短時間で生徒達の意識を高め、合唱を完成させました。私は改めて先生の指導力に驚かされました。

今回のボランティアは参加者の個性の光るものばかりでしたが、その中でもひときわ輝いていたのは高校3年生のF君の弁論です。F君の弁論は今を生きる世代へのメッセージでした。シベリア抑留を体験した方の「広島長崎の原爆が炎の原爆なら、このシベリア抑留は氷の原爆だ」の言葉に、抑留者たちの生き地獄ともいえる悲惨な状況が凝縮されていると感じ、毎日、飢えや発狂で仲間が死んでいき、自分自身もいつ発狂してもおかしくない状態だったという講演に、F君は背筋が凍る恐怖と「戦争体験者の方々が行う講演の本当の意味」を理解したと話してくれました。F君は若い世代がやらなければならないことは、抑留や集団自決などの戦争の悲惨さを後世に伝えて、自由の本当の喜びや平和の大切さをいつの時代も考え続けていくことだと考えたそうです。今回の震災も千年先まで語り継ぎ、平和で安心して暮らせる社会が持続するよう仲間と共に努力していきたいと宣言しました。最後に、大学は宮城に進学することを発表し、「みなさんと共に頑張ります」と力強く添えました。弁論中、会場の空気が変わったことを私は肌で感じました。若者のエネルギーに心が震えていることを。今この場にいる全ての人は喜び、感動しています。

「こんなことがあったのよ」と話してくれたのは私が最初に声をかけた60代の女性でした。「震災の後、子どもを連れてここを離れていく人が多かったの。お嫁さんが実家の沖縄まで行ってしまった人もいた。子どものことを考えると仕方がないことだけど、人が離れて行ってしまうのは寂しいわね。でもね、その人は戻ってきたのよ。私はここで頑張るんですって。嬉しかったわ。今はここで友人とおしゃべり出来るのが本当に幸せなことね」

ボランティアの後、現地ボランティアとして協力して下さっているIさん夫妻の案内で仮設住宅の方が住んでいた地区を訪ねました。途中バスの中でIさんが話しをしてくれました。

「津波はさっきまでいた仮設住宅まで届いていました。この辺りは水産と製紙業が盛んだったから津波に流された原木がさらに被害を大きくしました。人の話によっても違いますがここから見えるあの橋はあんなにも海面から離れているのに中央の高くなっている所まで波が届きそうになったそうです。もちろんその時には端はもう波に飲み込まれました。」

到着した場所には草原しかなく、コンクリートと土の地面は地盤沈下で段差が目立ち、遠くに見えるはずの沈んでいく夕日がやけに大きく眩しく感じました。道路の隅には残雪ががあり、鉄骨が

むき出しのまま放置されている場所や、傾いた電柱もありました。途中見えた石巻ブロック災害廃棄物処理施設は稼働していなく、残った瓦礫に関しては近くの処理場で処分するとのことでした。目にした瓦礫の山は、規模こそは小さいがこの存在はとて大きく感じました。時折見かける家も危険区域でこの後どうするか目途のたっていないとのことでした。そんな中、盛んに煙を出す工場があり、それは個人で操業を再開した工場だそうです。

「始めれば復興は進むはず。」

私はこの言葉から、決心とその背にかかる重みを、心強くまた寂しくも感じました。

依然として震災の爪痕を残していましたが、ここに暮らす人々は前へ進んでいます。帰りのバスの中から見た、遠ざかる煙は復興の証でしょうか。不意にF君の弁論と仮設住宅の女性の「もう大人なんだからしっかりしなきゃ。」の言葉が重なりました。

私が教師となった時にできることは、未来を担っていく世代に今まで私達が先人から教わってきた知識と、互いを尊重し認め合う豊かな心と、共にまた次の世代へと未来を繋ぎ希望を伝えていくことだと思います。その時、共に学び生き、教える立場の自分が子ども達の道を狭めることのないよう、多くのことを学んでおきたいと心の底から強く決心しました。

これからも細く長く息をするように寄り添うことが出来たらと思いました。

①ラジオ番組のNさんの発言

N「はい 私は、まだ被災地訪問としては2回しか行っていないのですが、そのたった2回でもやはりまだ、あちらの方は復興していない。まだまだ時間はかかって、私たちにできることは少ないかもしれないけど、何度も何度も行って、現状をきちんと知ることすごく大事なことだと思います。そして、個人の小さな力でも共有して大きな輪となっていけたらなとすごく思われた、ボランティアでした。」

N「見た瞬間に思ったのは、自分が知らなかったことが恥ずかしいということでした。あと、その時に何ができるのかなと思いました。」

②Nさんの作文

依然として震災の爪痕を残していましたが、ここに暮らす人々は前へ進んでいます。帰りのバスの中から見た、遠ざかる煙は復興の証でしょうか。不意にF君の弁論と仮設住宅の女性の「もう大人なんだからしっかりしなきゃ。」の言葉が重なりました。

私が教師となった時にできることは、未来を担っていく世代に今まで私達が先人から教わってきた知識と、互いを尊重し認め合う豊かな心と、共にまた次の世代へと未来を繋ぎ希望を伝えていくことだと思います。その時、共に学び生き、教える立場の自分が子ども達の道を狭めることのないよう、多くのことを学んでおきたいと心の底から強く決心しました。

これからも細く長く息をするように寄り添うことが出来たらと思いました。

- ・ Nさんの作文はきちんと、客観的にものごとをとらえることができている。発言から文章化に至るまで時間があまり経っていないが、自分の言葉として深化している。

Ⅲ おわりに

私たちは、文章を書くときどのような過程で書いていくのだろうか。ここでは東日本大震災大震災のボランティア活動のなかの発言と作文をもとに考えてみた。私たちは、ある局面に出会ったときに、何かを感じる。生徒学生に作文を書かせると、感じたことを書くものが多い。「Aをやって、楽しかった。Bに会って悲しかった。Cを食べておいしかった。さらに感激した。感動した。」と書いてくる。この時点では、感じるだけで時間の経過とともに忘れてしまう。一時的な感情の盛り上がりでは、何も書けない。

それでは、どうすれば考えた文章となるのか。まず事実をとらえる。5W1Hのいつどこで誰が何をどのようにしたかを書く。次になぜそのようになったか考える。このなぜが一番重要である。「なぜ」という問いを自分に発し続ける。これが重要である。ここで紹介した3人は被災地を訪れ、その度ごとに人々と出会い、話し、考えた。震災という大きな問題を、一人ではどうにもならない問題を避けることなく考え続けた。茨城にいと震災のこと忘れてしまいがちであるが、宮城の仮設住宅に行き、復興への過程を共有することにより、大きな変化を感じることができる。さらに、その考えを他人に客観的に引き出してもらうことである。その点でラジオの司会者は大変優れている。

以上のことから、表現力の向上はプロによる方法を学ぶことだ。以前文章の上達の方法は新聞投稿・雑誌投稿が良いことを述べた。文章にまとめ、本にして出版するのも良い方法である。今回はラジオというメディアを活用して表現力を育成することを試みてみた。

執 筆 者（執筆順）

小 野 孝 尚（教授：日本近代文学・近現代詩）

小 林 和 子（教授：日本近代文学）

国府田 はるか（講師：舞踊学）

廣 部 朋 美（講師：発達心理学・幼児音楽）

神 永 直 美（教授：幼児教育学）

馬 立 明 美（講師：音楽療法士・こども音楽療法）

小松崎 浩 司（講師：情報科学）

埴 雅 文（講師：国語教育）

茨城女子短期大学紀要 第41集

平成 26 年 3 月 31 日 発行©

編集者 茨城女子短期大学紀要委員会

発行者 額 賀 修 一

発 行 茨城女子短期大学
茨城県那珂市東木倉 960-2

印 刷 ワタヒキ印刷(株)
水戸市城東 1-5-21
Tel. 029-221-4381

BULLETIN OF IBARAKI WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

No.41 (2014)

< CONTENTS >

1. **Kosho ONO ;**
A study on Kisson Shimizu 1
2. **Kazuko KOBAYASHI ;**
A study of Mishima Yukio' bureaucracy novel —“DAIZIN” and “FUIN”— ... 23
3. **Haruka KODA ;**
Survey on women's junior college student's attitude toward drive
for thinness and a body image (1) (1)
4. **Tomomi HIROBE, Naomi KAMINAGA, and Akemi UMADATE ;**
Approach of “Certified Child Music Habilitative Therapy workshop”
— Second year Consideration based on Parents Questionnaire — ... (23)
5. **Koji KOMATSUZAKI ;**
The History of Electronic Books in Japan and Their Prospect (33)
6. **Masafumi HANAWA ;**
Training of the power of expression that utilized the media (45)

PUBLISHED

by

Ibaraki Women's Junior College

IBARAKI